



JICA中国 平成25年度

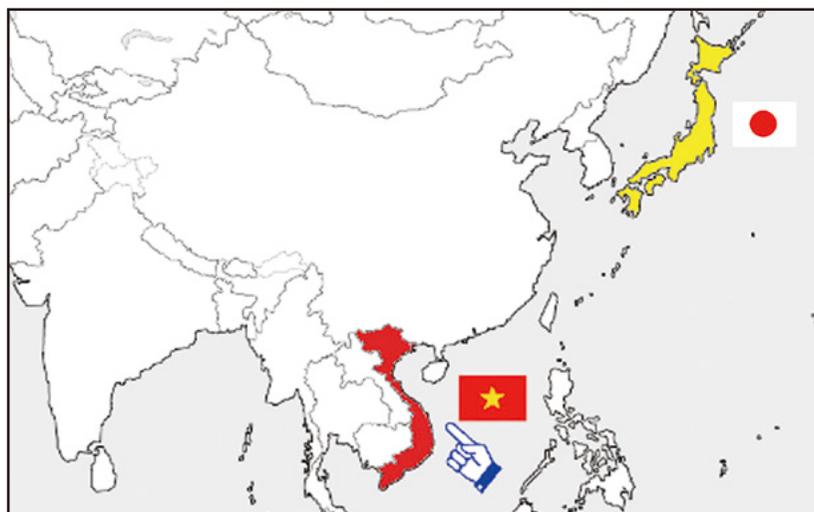
ベトナム教師海外研修

参加型で学ぶ 国際理解教育授業実践報告書



目 次

■はじめに	2
■ JICA 中国教師海外研修とは？	3
■研修のながれ	4
■海外研修日程	5
■ベトナム情報	6
■海外研修トピックス	7
■参加者氏名	10
■参加型手法を取り入れた授業実践報告	11
【小学校編】	
「支え合える世界にするために」	石川 裕敏（福山市立伊勢丘小学校 全科） 12
「ベトナムの豊かさ 日本の豊かさ」	河田 正（岡山大学教育学部附属小学校 社会） 30
「ベトナムと日本のつながり」	齊藤 明子（広島市立高南小学校 全科） 44
「わたしたちにできること～世界に目を向けよう～」	正岡 喜美（安来市立母里小学校 全科） 56
【中学・高等学校編】	
「日本から世界へ」	上岡 沙織（岡山市立西大寺中学校 英語） 76
「世界の中の私」	川本 直子（島根県立松江南高等学校 英語） 89



はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）では、開発途上国への専門家の派遣や研修員の受入といった技術協力や資金協力などに加え、「国際協力を日本の文化に」することを目指し、市民の皆様に参加していただける国際協力事業を推進しています。その一環として、市民の皆様が世界の現状や問題について「知り」、「考え」、「行動する」ためのきっかけづくりとして、開発途上国における長年の事業で培った経験と人材を通じた国際理解教育（開発教育）支援にも積極的に取り組んでいます。

「教師海外研修」は全国の小・中・高等学校・特別支援学校において開発教育や国際理解教育に取り組んでおられる、または開発途上国の抱える問題に関心をお持ちで、これから国際理解教育に取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施しています。参加される皆様には、開発途上国の社会の実情や文化や慣習、JICA が実施する国際協力の現場視察を通じて世界の問題や日本との関わりなどを肌で感じていただき、その学びを日本で待つ子どもたちに国際理解教育として伝えていただくことを目的として実施しています。

今年度参加教員の皆様は、日本における2日間の派遣前研修を経て、ベトナムで8月上旬より約10日間の研修に参加され、帰国後研修の後各学校で授業実践に取り組まれました。今般、その集大成として授業実践を冊子として取りまとめました。

グローバル人材の育成が社会の大きな関心となっておりますが、この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方の参考となり、総合的な学習や外国語活動をはじめとする学校教育現場の実践の一助になれば幸いです。

平成 26 年 3 月

独立行政法人国際協力機構

中国国際センター所長 西宮 宜昭

JICA 中国教師海外研修とは？

研修のねらい

本研修は、教員の皆様を対象に国内の研修と国際協力の現場を視察する海外研修を通し、開発途上国の現状や途上国と日本との関係、国際協力への理解を深め、その成果を教育現場で児童・生徒に還元していただくことを目的に実施しています。

研修国および募集人数

研修国：ベトナム 募集人数：8名程度

選考

書類選考後、面談を実施し、参加者を決定します。

応募条件

- ・中国5県の国公立・私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援校に勤める教員及び教育委員会の指導主事（臨時採用、講師も可）
 - ・教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される研修を含め全研修に参加可能であること
 - ・原則、平成25年4月1日現在、おおむね45歳以下であること
 - ・所属する学校の学校長、もしくは教頭の推薦が得られること
 - ・原則、本研修やJICAボランティア、JICA専門家、ODAモニター等、ODA事業として海外に派遣された経験がないこと
- ※経験がある場合の応募を妨げるものではないが、選考の際には適正及び他の応募者との公平性の面から判断します
- ・将来、JICAが実施する開発教育支援事業やイベントにご協力いただけること
 - ・本事業に関連して撮影された写真及び事業の結果、作成された著作物についてJICAが広報目的で使用するについて承諾すること

海外研修について

8月11日（日）～8月20日（火）

※出発前日に出発前オリエンテーションを実施

国内研修について

- ①派遣前研修〈必須〉6月22日（土）～6月23日（日）会場：JICA中国（東広島市）
 - ②帰国後研修〈必須〉9月7日（土）会場：JICA中国（東広島市）
 - ③第2回国際理解教育研修会〈任意〉平成26年1月25日（土）会場：JICA中国（東広島市）
- ※参加者の一部が講演

報告書の提出〈必須〉

- ①出発前報告書 平成25年7月19日（金）必着
- ②現地研修報告書 平成25年8月30日（金）必着
- ③最終報告書 平成25年12月16日（月）必着

お問合せ

JICA 中国国際センター市民参加協力課教師海外研修担当

〒730-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 TEL：082-421-6305 FAX：082-420-8082

【主催】独立行政法人国際協力機構中国国際センター（JICA中国）

【後援】外務省、文部科学省、広島県教育委員会、広島市教育委員会、岡山県教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会

研修のながれ

■派遣前研修 6月22日(土) 会場：JICA 中国(東広島市内)

「ベトナム研修について」

- ・ベトナム国事情、研修内容についてオリエンテーション
- ・渡航事務手続き

「国際理解教育、授業実践について」

ベトナムの研修を通して子どもたちに伝えたいことは何か、現地に行く前に情報を整理しました。また、帰国後の授業実践を見据えて参加型学習の様々な手法を学びました。

講師：門西 由佳 氏(前年度ベトナム教師海外研修参加者/大竹市立大竹小学校教員)

■第1回 国際理解教育研修会 6月23日(日) 会場：JICA 中国(東広島市内)

講演「自分の生活を見つめ、世界とつながる私たち」

講師：神原 一之 氏(広島大学附属東雲中学校 副校長)

異文化理解ワークショップ「バファバファ」

ファシリテーター：濱長 真紀 広島市 JICA デスク

■出発前オリエンテーション 8月11日(日) 会場：ホテル日航関西空港

出発前に研修の目的とそれぞれの視点について再度確認しました。

■海外現地研修 8月12日(月)～8月20日(火)

研修国の現状を自分の目で見て体験し、国際協力現場で活躍する日本人の声を聞きました。

■派遣後研修 9月7日(土) 会場：JICA 中国(東広島市)

国際理解教育における参加型・体験型学習について復習すると共に、海外研修で得た資料や情報をいかに子どもたちに伝えるか、授業に還元するか学び、授業案を作成しました。

■各校で授業実践 9月～12月

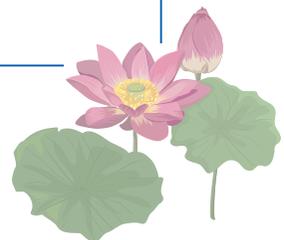
研修で得た経験や資料を活かし、参加者が各学校で授業を行いました。

■第3回国際理解教育研修会 1月25日(土) 会場：JICA 中国(東広島市内)

「海外経験を帰って伝えるための教材作りのコツ」

講師：佐藤 友紀 氏(DEAR 開発教育協会)

講師：石川 裕敏 氏(今年度教師海外研修参加)



海外研修日程

日付	プログラム	滞在先
8月11日(日)	【出発前オリエンテーション】 (ホテル日航関西空港)	日本
8月12日(月)	✈[10:30] 関西空港からベトナム・ハノイへ 【JICA ベトナム事務所スタッフよりオリエンテーション】 ✎ベトナム国概要、JICA の対ベトナム援助概要、青年海外協力隊活動概要 ✎健康・安全対策について	ハノイ
8月13日(火)	🚌ハノイからホアビン省へバス移動 【北西部省医療サービス強化プロジェクト】 ホアビン省病院訪問 ・ムオン族が居住する第2モー村でホームステイ、村人と交流	ホアビン
8月14日(水)	【学校訪問】 ・ムオン族のビンティン小学校 学校訪問 (校内見学、参加教員による日本紹介、小学生約30人と文化交流) 🚌ハノイへ移動 ・ベトナム文化体験(水上人形芝居鑑賞) ・中間報告会およびJICA スタッフ、青年海外協力隊員との交流会	ハノイ
8月15日(木)	【学校訪問】 ・エリート養成校、グエン シェウ小中高等学校訪問 (校内見学、参加教員による日本紹介、小・中学生約30人と文化交流) 【JICA 技術プロジェクト現場視察：運輸交通分野】 ・ノイバイ空港第2ターミナル建設プロジェクト視察 ✈空路移動(ハノイからホーチミンへ)	ホーチミン
8月16日(金)	【JICA 技術プロジェクト現場視察：運輸交通分野／環境管理分野】 ・東西ハイウェイ／ホーチミン下水処理場 【青年海外協力隊活動現場視察：保健衛生部門】 ・ティエンザン省総合病院(Benh Vien Da Khoa Tien Giang) G 隊員(活動職種：作業療法士)	ホーチミン
8月17日(土)	【青年海外協力隊活動現場視察：農林水産部門】 ・SOFRI プロジェクトモデルファーム(Tram Bao Ve Thuc Vat Tam Binh) T 隊員(活動職種：村落開発普及員・農業支援)	カントー
8月18日(日)	・メコン川クルーズ(水上マーケット、カントー橋など視察) ・サイゴン駅にて日越友好40周年記念列車視察	ホーチミン
8月19日(月)	【JICA 技術協力プロジェクト現場視察：民間セクター開発分野】 ・ベトナム日本人材育成センター(VJCC)プロジェクト視察 ・日本語教師、日本語クラブ学生と意見交換会 【広島発日系企業ベトナム工場視察】 ・フマキラー工場視察 ・帰国報告会 ✈[深夜] ホーチミン出発、日本へ	ホーチミン (機内泊)
8月20日(火)	日本着	日本

ベトナム社会主義共和国 (Socialist Republic of Viet Nam) 基本情報

2013年11月現在

面積	32万9,241平方キロメートル
人口	約8,880万人(2011年時点)
首都	ハノイ
民族	キン族(越人)約86%、他に53の少数民族
言語	ベトナム語
宗教	仏教、カトリック、カオダイ教 他
通貨	ドン(Dong) 1ドル=20,800ドン(2011年12月)(ベトコムバンク)



略史	<p>紀元前207年 南越国の成立</p> <p>1009年 李王朝の成立</p> <p>1010年 首都をタンロン(現在のハノイ)に定める</p> <p>1884年 ベトナムがフランスの保護国となる</p> <p>1930年 ベトナム共産党結成</p> <p>1940年 日本軍の北部仏印進駐(1941年南部仏印進駐)</p> <p>1945年 ベトナム共産党ホーチミン主席 「ベトナム民主共和国」独立宣言</p> <p>1946年 インドシナ戦争</p> <p>1954年 ジュネーブ休戦協定 (17度線を暫定軍事境界線として南北分離)</p> <p>1965年 アメリカ軍による北爆開始</p> <p>1973年 パリ和平協定、アメリカ軍の撤退</p> <p>1973年 日本と外交関係樹立</p> <p>1976年 南北統一、国名をベトナム社会主義共和国に改称</p> <p>1979年 中越戦争</p> <p>1986年 ドイモイ(刷新)政策が打ち出される</p> <p>1991年 カンボジア和平パリ協定</p> <p>1992年 日本の対越援助再開</p> <p>1995年 アメリカとの国交正常化</p> <p>2013年 日本ベトナム友好年(日本ベトナム外交関係樹立40周年)</p>
----	---



産業・経済状況	
主要産業	農林水産業、鉱業、軽工業
貿易	<p>貿易相手国(2011年)</p> <p>輸出 米国、中国、日本、韓国、韓国、ドイツ</p> <p>輸入 中国、韓国、日本、台湾、シンガポール</p> <p>主要貿易品目(2011年)</p> <p>輸出 縫製品、原油、携帯電話・同部品、履物、水産物等</p> <p>輸入 機械機器・同部品、石油製品、PC・電子機器・同部品、布、鉄鋼等</p> <p>対日貿易品目(2011年、越統計総局)</p> <p>輸出 縫製品、原油、水産物</p> <p>輸入 機械機器・同部品、鉄鋼、布地</p>
主要援助国	(1)日本 (2)フランス (3)豪州 (4)ドイツ (5)韓国

外務省ホームページ各国地域情勢

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html>

海外研修トピックス

【ホームステイ】ムオン族の村で現地の人々と交流

ベトナム北部、ホアビン省にある少数民族・ムオン族の「第2モー村」でホームステイをしました。

〈参加者感想〉

- ・ 会話をするのものすごく時間がかかったり、色々伝えられなかったこともあったりしたがとても楽しいひと時だった。言葉のキャッチボール以外の温かいコミュニケーションが図れた経験は、とてもうれしかった。
- ・ 高床式の家で蚊帳に入って一晩を過ごすという貴重な体験をした。また、英語や日本がほとんど通じないミョンさん（ホストのお母さん）と「指差し会話帳」を駆使して長い時間お話をした。いろいろな話をしてとても楽しかった。何とかなるものだなあと我ながら感心してしまった。少数民族の生活は貴重な体験であった。



【技術プロジェクト視察】北西部省医療サービス強化プロジェクト実施・ホアビン省病院視察

〈参加者感想〉

- ・ 医療サービス強化プロジェクト担当のDさんの話を聞くなかで、Dさんの視点は、私たち教員の視点と似ていることに気づいた。
- ・ 私たち教員は、子どもたちを成長させるために、様々な手立てを講じ、問題解決能力や自己効力感を高め、生きる力をはぐくむ教育を行っている。Dさんも同様の視点に立ち、よりよい方策についてベトナムスタッフと考えたり、自分たちの取り組みの成果について自分たちでプレゼンさせることにより、自信をつけさせたりしていると聞いた。単に資金面での援助を行うだけでなく、技術や考え方に関する支援まで行うことにより、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点に立った活動を行っていると感じることができた。



【円借款・技術プロジェクト現場視察】

ノイバイ空港第2ターミナル建設プロジェクト

給油システムや手荷物処理システムなどベトナム初の最先端技術を取り入れた円借款による新旅客ターミナルビル建設事業や、その運営に対する技術協力のほか、「第二旅客ターミナル供用準備委員会」を立ち上げてターミナルのマネジメント支援を行っている。



〈参加者感想〉

- ・大成建設やJAC（日本エアコミューター）の皆さんは世界各地で仕事をしているということで、海外での仕事のやりがいや日本との違いなどの話を聞くことができ、大変興味深かった。特に、日本のよさがよくわかるという話では、安全や譲り合い、日本のしつけや教育などの方でも感じておられることが同じだった。子どもたちにぜひ伝えたいと思った。



ホーチミン市下水管理能力開発プロジェクト

急速な都市化と工業化に伴い、未処理の家庭排水及び工場排水の流入による河川や水路の水質汚濁が深刻化している。

日本の経験と知見による洪水管理センターの能力向上を目的としてプロジェクトを実施している。

〈参加者感想〉

- ・ベトナムは、美しいビルが並びとても発展した国のように思われる。しかし地下の状況は、いまだにフランス統治時代の下水管を用いたり、下水管自体がないところがあったりと下水の処理に関する備えはまだまだであることがわかった。
- ・大阪市役所の職員の方が専門家として派遣されていることを知り、企業だけでなく地方自治体も国際協力を力を注いでいることがわかった。説明をしてくださったHさんは、日本で自分が携わってきたことが海外でも受け入れられ、認められたことがうれしいと話しておられた。自分の仕事、日本の技術に誇りをもっておられるように感じた。

【青年海外協力隊活動現場視察】

ティエンザン省総合病院 G 隊員（作業療法士）

南部メコンデルタ地域に位置する地方都市の総合病院内リハビリテーション科で、作業療法士として同僚と協力しながら、患者へのリハビリ訓練実施を通して、作業療法に対する理解促進に取り組んでいます。

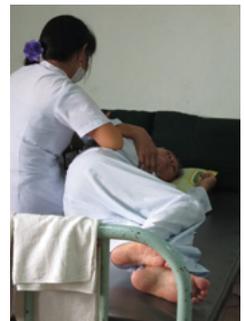
〈参加者感想〉

- ・今回の話を聞いて、心にのこったことは「自分がやりたいことと、ここの人が求めていることは違う」ということである。

確かに、先進国である私たちからみて、発展途上国が行っていることにはいろいろと口出ししたくなることもあるだろう。しかし、そこで指示や命令をだすだけでは、現地の人々がやってくれるはずがない。高圧的に発言してもいうことを聞いてくれないという。

ベトナムの人に、その必要性を感じてもらい、もっと勉強したいと思わせる努力も必要なのだと感じた。

- ・言葉や文化、考え方の違うベトナムの地で、お互いを理解することも大変なのに、ベトナムにはない作業療法士の仕事の重要性や必要性を理解してもらうと言うことは大変なことだと思った。しかし、日本で行っている患者さん主体のプログラムづくりや個々への対応の仕方についての自信があるからこそ、取り組むことができるのだろう。



【プロジェクト視察】ベトナム日本人材育成センター

- ・外国貿易大学ハノイ本校、ホーチミン分校それぞれに、日本センターを設立し、(1)市場経済化促進のための人材育成、(2)市場経済化及び相互理解促進のための日本語理解、(3)相互理解促進のための事業を主な柱とした活動を行いました。この結果、ビジネスに関わる人材育成や、中小企業を中心とした生産性の向上・雇用の拡大等に大きく貢献しました。現在は、日本センターの円滑かつ持続的運営のための基盤整備を行っています。



〈参加者感想〉

- ・MA（マンガ・アニメ）文化がベトナムにも広がっていて、MA をきっかけとして日本に興味を持ち、日本のことを熱心に勉強してくれてうれしかった。日本の学生は海外に目を向けなくなってきているという話をよく聞かすが、今回出会った学生さん達のように、視野を広げて外国にも目を向けたり異文化を知ろうという気持ちを持ったりして欲しい。

【日系企業訪問】フマキラー工場視察

〈参加者感想〉

- ・フマキラーベトナム社長の言葉が印象に残った。「今の時代、日本も世界も関係ない。日本人はつい内向き志向になりがちであるが、何かをしたいと思ったらワールドワイドに考えよう。世界に需要がある限り、そこで仕事をするべきだと私は思う。私の場合、そこに虫がいる限り、世界のどこでも関係ない。」
- ・蚊の多いベトナムや東南アジアでフマキラーの技術が生かされていると感じた。ビジネスなので、ニーズを調査したりその国にあった商品を作って売ることは非常に重要なことではあるが、それだけでなく、人の命を守るためにデング熱に関する勉強会を開いたり、環境のことも考えていたりすることは素晴らしいことだと思った。



【現地研修を終えて】

- ・幅広い活動の場で、それぞれの国際協力の在り方があることがわかり、これまでの自分の狭かった視野を広げることができる機会となった。その様々な国際協力の中でも、共通していえることは、「相互理解」という視点であった。日本のほうが先進国だから、技術を教えてあげるといった視点に立つのではなく、相手のことを理解し、相手の立場に立ち、相手が求めている支援の方法を模索するという視点に立つことが最も大切なのだと感じた。
- ・JICA の取り組みについて青年海外協力隊のことぐらいしか知らなかったが、様々な支援・協力をしていること、それらがとてもベトナムにとっても日本にとっても有益なことだということがわかり、国際協力の重要さをあらためて考えることができた。

参加者氏名

(順不同、敬称略)

県名	氏名	所属先	担当教科
広島	石川 裕敏	福山市立伊勢丘小学校	全科
岡山	河田 正	岡山大学教育学部附属小学校	社会
島根	川本 直子	島根県立松江南高等学校	英語
広島	齊藤 明子	広島市立高南小学校	全科
島根	正岡 喜美	安来市立母里小学校	全科
岡山	上岡 沙織	岡山市立西大寺中学校	英語

参加型手法を取り入れた

授業実践例

小学校編

支え合える世界にするために

福山市立伊勢丘小学校 担当教科：全教科 石川 裕敏

実践教科：総合・道徳 対象学年：小学6年生 対象人数：37名

■実践の目的

- ・自分が欲しい物と支援が必要な子どもたちの欲しい物を比べることを通して、いかに自分たちが恵まれているかということに気づく。
- ・ベトナムの生活や文化に触れることを通して、ベトナムに興味・関心を持つ。
- ・ベトナムの都心部と農村部を比べることを通して、それぞれの良さに気づく。
- ・日本が開発途上国に対して行っている支援は、相手国のためだけでなく、自国のためでもあることに気づく。
- ・東北大震災の時に、諸外国が日本に対してどのような支援を行ってくれたのかを知る。
- ・これまで当たり前だと思っていた日本独自の文化は、諸外国からみたらすばらしいことであるということに気づき、自国の文化を誇りに思う。
- ・豊かかどうかというのは、金銭面だけでなく、精神面も大きく関わってくることに気づき、これまでの自分のものの見方や価値観についてふり返る。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	あなたが今欲しいものはなんですか？ ○自分が欲しい物と支援が必要な子どもたちの欲しい物を比べることを通して、いかに自分たちが恵まれているかについて気づく	(1)欲しいものとその理由について考える 例：i-pod touch：みんなが持っているから (2)欲しいものとその理由を自由に書き出す (3)交流する (4)諸外国の子どもたちが欲しいものを知る (先進国→支援の必要な地域の順に紹介) (5)今日のふり返り・次時への見通し	・アンケート ・パワーポイント資料1 ・ワークシート資料1
2	ベトナムってどんな国？ ○ベトナムの生活や文化に触れることを通して、ベトナムに興味・関心を持つ	(1)ベトナムクイズを行う（10問） (2)ベトナムを体験する (ベトナムで買ってきたお土産体験) (3)今日のふり返り・次時への見通し	・パワーポイント資料2 ・ワークシート資料2

3	<p>ベトナムの都心部と農村部を比べると？</p> <p>○ベトナムの都心部と農村部を比べることを通して、それぞれの良さに気づく</p>	<p>(1)ハノイ・ホーチミンの様子を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電線、高層ビル、料理、月収、スマホの普及率、バイクの量 など <p>(2)ゲンシェウ小中等学校の様子を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部の超エリート校、英語が堪能、高い志、アピール力、グローバルな視点、貪欲さ、勤勉さ など <p>(3)モー2村でのホームステイの様子を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高床式住居、おもてなしの精神、時間意識、沐浴、村人同士のつながり、子どもの気配り、月収 <p>(4)ビンティン小中学校の様子を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村部の小中学校、サンダル、控えめな子が多い、瞳がとても澄んでいる、見て学ぶ意識が強い <p>(5)今日のふり返り・次時への見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料 3 ・ワークシート資料 3
4	<p>日本が行っている支援って？</p> <p>○日本が開発途上国に対して行っている支援は、相手国のためだけではなく、自国のためでもあることに気づく</p>	<p>(1)「支援って何だろう？」について考える</p> <p>(2)「JICA は世界とともに2012」DVD (13分) を見る</p> <p>(3)JICA の取り組みを知る</p> <p>○技術協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療サービスの強化 (ホアビン病院)、青年海外協力隊、シニアボランティア など <p>○有償資金協力 (円借款)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノイバイ国際空港第二旅客ターミナルビル建設事業、ホーチミン市水環境改善事業、サイゴン東西ハイウェイ建設事業 など <p>○無償資金協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITSシステムの整備、病院の建設 など <p>(4)日本が支援を行う理由について考える</p> <p>(5)「FIND THE LINK 依存大国日本」DVD (9分) を見る</p> <p>(6)今日のふり返り・次時への見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「JICA は世界とともに2012」(13分) ・「どうなってるの？世界と広島県」 ・「国際理解教育実践資料集」 ・現地写真 ・「FIND THE LINK 依存大国日本」(9分) ・ワークシート資料 4 ・パワーポイント資料 4
5	<p>東北大震災と世界の国々</p> <p>○東北大震災の時に、諸外国が日本に対してどのような支援を行ってくれたのかを知る</p>	<p>(1)東北大震災発生時の様子その後の様子を写真で見る</p> <p>(2)KIDS 外務省～地球に生きる君たちへ～のストーリー1とストーリー2を学習する</p> <p>(3)「東日本大震災 ベトナム中を感動させた少年の話」(8分) を見る</p> <p>(4)今日のふり返り・次時への見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「東日本大震災 ベトナム中を感動させた少年の話」(8分) ・ワークシート資料 5 ・パワーポイント資料 5

6	<p>日本のよさってなんだろう？</p> <p>○これまで当たり前だと思っていた日本独自の文化は、諸外国から見たらすばらしいことであるということに気づき、自国の文化を誇りに思う</p>	<p>(1)「おもてなしスピーチ」(3分)を見る</p> <p>(2)スピーチ内容からおもてなしの精神について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性、公共交通機関、清潔さ、サービス、技術 <p>(3)スピーチ内容以外のおもてなしの精神について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食、建物 など <p>(4)これらのことから見える日本人の心はどのようなものなのかについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を大切に思う心 ・相手を自分のことのように考える心 ・相手に敬意をもって取り組む心 <p>(5)「日本とトルコの関係 エルトゥール号」(8分)を見る</p> <p>(6)今日のふり返り・次時への見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもてなしスピーチ」(3分) ・「日本とトルコの関係 エルトゥール号」(8分) ・パワーポイント資料6 ・ワークシート資料6
7	<p>豊かだと思ふ順番は？</p> <p>○豊かかどうかというのは、金銭面だけでなく、精神面も大きく関わってくることに気づき、これまでの自分のものの見方や価値観についてふり返る</p>	<p>(1)ダイヤモンド型ランキングの説明を聞く</p> <p>(2)ダイヤモンド型ランキングの構成をする</p> <p>(3)友だちと交流する</p> <p>(4)実情から考える</p> <p>○国連裕福順位を知る</p> <p>○満足の度合いから考える</p> <p>(5)国連裕福順位が低いにも関わらず、満足していると答える国がある理由について考える</p> <p>(6)今日のふり返り・次時への見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球家族」 ・ワークシート資料7
8	<p>学んだことを JICA ベトナムの職員や青年海外協力隊の隊員にお手紙を書こう！</p> <p>○これまで学習してきたことを踏まえて、ベトナムで支援を行っている方々に対して手紙を書く</p>	<p>(1)これまでの学習をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム事情、JICA の取り組み、支援の理由、東北大震災と世界の支援、日本のよさ、豊かさ <p>(2)「世界がもし 100 人の村だったら」(7分)を見る</p> <p>(3)ベトナムで働く JICA スタッフの方又は青年海外協力隊隊員の方に手紙を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・便箋 ・「世界がもし 100 人の村だったら」(7分)

■この授業に注目！

1 時間目 あなたが今欲しいものはなんですか？

ねらい：自分が欲しい物と支援が必要な子どもたちの欲しい物を比べることを通して、いかに自分たちが恵まれているかについて気づく。

「あなたが今欲しいものはなんですか。」という質問に対して、自分の欲しいものとその理由を書き出し、班で交流した。その後、世界の子どもたちが何を欲しがっているのかを紹介した。その際に、フランスやアメリカなどの先進国に住む子どもたちの欲しいものから紹介し、最後に支援が必要な国や地域に住む子どもたちの欲しいものを紹介した。

〈児童の反応〉

児童の欲しいものをランキング化した表

順位	欲しいもの	理由
1	お金	何でも欲しいものが買えるから
2	i-pod touch	みんながもっていて欲しいから
3	服・本など	少しもっているけどもっと欲しいから
4	ペット	可愛いから
5	ものさし・筆箱など	古くなっている・壊れているから

世界の子どもたちの欲しいものをランキング化した表

順位	フランス	アメリカ	ケニア	インド	ブラジル	支援地域
1	勉強しない権利	ペット	教育	クリケット	わからない	両親の仕事
2	わからない	PCゲーム	お金	いい成績	何もほしくない	平和
3	遊ぶ時間	幸福	テストのいい点	勉強する権利	動物	家族の時間

- ・支援が必要な国ほど欲があまりないように感じた。
- ・ランキングの上位に「教育」や「両親の仕事」というのがあり、自分たちが当たり前だと思っていたものが他の国では当たり前ではないことがわかり、今の生活に感謝しないといけないと思った。
- ・他の国と比べると、日本は豊かだと思った。
- ・他の国の欲しいもののランキングに「幸せ」や「家族」があって、家族を大切にしたいと思った。
- ・支援されている国の子どもたちは、お金やゲームなどではなく、家族の幸せなどを願っていた。
- ・私は平和に家族と暮らしているから、他の国にもそうなって欲しいと思った。

〈所感〉

中には欲しいものを31個も書いている児童がおり、欲しいものを自由に書き出す作業はとても盛り上がった。児童の欲しい理由を分類すると、上記の表からもわかる通り、「古くなっている、または壊れていて困っているから」という意見が5位に留まっており、「少しもっているけどもっと欲しい」、「みんながもっていてうらやましいから」という意見が上位を占めた。日本という豊かな国に住んでいながら、必要以上のものを欲しがっているということが明らかになった。

次に、世界の子どもたちが欲しがっているものを紹介した。先進国であるフランスでは、「勉強をしない権利」がランクインしていて、子どもたちも共感の声を上げていた。しかし、インドの「勉強する権利」、ブラジルの「何もほしくない」、支援地域の「平和」、「両親の仕事」、「家族と過ごす時間」など、自分たちが想像もしていなかったものを欲している子どもたちもいるということを知ることにつれ、子どもたちの表情が変わっていった。

「日本には当たり前のようにあるものを、支援地域の子どもたちが欲している」ということにまて目を向けることができた児童は少なかったものの、「日本は豊かである」ということは再認識できた児童が多かった。

2時間目 ベトナムってどんな国？

ねらい：ベトナムの生活や文化に触れることを通して、ベトナムに興味・関心を持つ。

ベトナムのことを楽しく学ぶことができるように、「ナムナムベトナムクイズ」と称して10問クイズを行った。このクイズを通して「ベトナムの国旗とその意味、アジアの中での位置、過去の人口抑制政策、男女比、国土面積、ベトナム人が食べない生き物、紙幣の単位と価値、ベトナム語、オートバイ、平均年齢、救急車の有料制度、ベトナムのことわざ」などが理解できるように、その都度説明をはさみながら学習を進めていった。特に児童が驚いたのは、次の2問である。

第4問		第6問	
ベトナム人が食べない生き物は？		ドンのうち一番大きいドンは？	
1. 犬	2. カエル	1. 5000ドン	2. 10000ドン
3. 蛇	4. クジラ	3. 500000ドン	4. 5000000ドン

それぞれ正解は「クジラ」と「500000 ドン」である。日本ではクジラしか食べないという印象があった児童にとって、逆にクジラ以外の生き物を全て食べることに驚いていた。しかしそれ以上に、日本では最も身近なペットである犬をベトナムでは食べるということに衝撃を受けていた。また、紙幣の価値を教え、計算から500000 ドンを日本円に直した結果にも驚いていた。約2500円の価値でしかないからだ。ベトナム人は日本より大きな桁の紙幣を使って買い物をしていることを知り、計算が大変そうだという印象を受けていた。

最後に、お土産として買ってきたノンラーや、ベトナム語の教科書や雑誌や漫画、紙幣などを自由に体験する機会とした。

〈児童の反応〉

- ・日本とお金の表し方が全然違うのでびっくりした。
- ・ベトナム国旗の赤の意味が革命で流された尊い血と聞いてびっくりした。
- ・バイクが多いから、通勤に時間がかかり、大変だなと思った。
- ・救急車を呼ぶのにお金がかかることにびっくりした。



ノンラーやベトナムTシャツを着て



日本語を勉強するためのベトナムの本



大きな桁の紙幣を広げてニンマリ

〈所 感〉

ベトナムについてほとんど何の知識も持っていなかった児童が楽しみながらベトナムについて理解していくことができたという点では効果的な授業であった。しかし、第4問と第6問などのような、日本とベトナムの文化や生活の違いを意識できる、深まりのあるクイズにするため、もっとクイズの内容を吟味する必要性を感じた。

また、実際にお土産を体験する時間は、お土産を見せる前にベトナムでその商品を購入する様子を撮った写真を見せていたため、実際に出した時の児童の反応も一層大きかった。どの商品に対しても興味津々に触ったり、見たりして楽しんでた。特に、ベトナムで用いられている教科書の算数の問題に挑戦する児童や、日本語を勉強するためのベトナムの本に「こんな例文、日本では使わないでしょ。」などと、自国の文化とベトナムの文化とをつなげて考えている児童の姿が見られたのは嬉しかった。

6 時間目 日本のおもてなしってなんだろう？

ねらい：これまで当たり前だと思っていた日本独自の文化は、諸外国から見たら素晴らしいことであるということに気づき、自国の文化を誇りに思う。

流行語大賞にもなった「おもてなし」。2020 東京オリンピック招致の際に、滝川クリステルさんのスピーチで用いられたことで一躍有名になった。この言葉は、日本人の生き方そのものを表している素晴らしい言葉と言える。しかし、その言葉の本当の意味を理解せぬまま、流行語大賞で有名だからと休憩時間に面白半分て用いる児童の様子を見かける。とても大切な日本人の精神が、単なるネタとして用いられるのは非常にもったいないと感じていた。そこで、滝川クリステルさんのスピーチを窓口として、日本の「おもてなし」の精神を探っていく活動を設定した。

普段当たり前のように生活している日本には、日本にしかない独自の文化がたくさんある。チップという習慣がないにも関わらず、一切手を抜かないサービス。トイレで流す水すら飲むことができるほどの清潔さ。物を落としても返ってくる安全性。正確な時間にやってくる公共交通機関…。当たり前のものであって、実は諸外国からみたら当たり前ではない日本独自の文化を探していくことにより、おもてなしの精神の根底にある「相手を大切に作る心」「相手のことを自分のことのように考えることができる心」に気づかせたいと考えた。

学習活動 主な発問	指導上の留意事項 (○) 予想される児童の反応 (・)	評価基準 (○) 評価方法 (☆)
1. 課題を把握する。		
日本のおもてなしってなんだろう？		
2. 2020 東京オリンピック招致のスピーチを聞く。	○「日本人が行うおもてなしについてどのような具体例を挙げながら述べているのかを聞き取る」という目的意識を持たせてスピーチを聞かせる。必要に応じてメモを取らせる。	



食い入るようにスピーチを見ている様子

3. スピーチでは「おもてなし」の例としてどんなものを取り上げられていたのかを振り返る。



まとめている様子

4. とりあげられた例以外で日本が行っているおもてなしについて考える。

- 【安全性】
 - ・財布を落としても帰ってくる
 - ・世界一安全だというアンケート結果
- 【公共交通機関】
 - ・バス・新幹線
- 【清潔さ】
 - ・街にごみがない
 - ・水道の水を飲むことができる
 - ・トイレの水も飲めることがある
- 【サービス】
 - ・タクシー運転手の愛想の良さ
 - ・ブティック・レストラン

サービス

- ・ありがとうございました
- ・いらっしゃいませ
- ・おしぼり・お箸
- ・トイレトペーパー

安全性

- ・交番
- ・子ども 110 番
- ・町内会
- ・銃をもたない

食

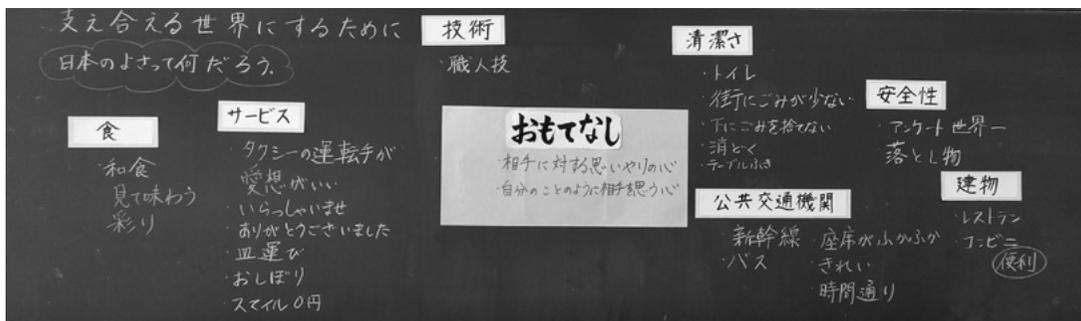
- ・和食

スマイル0円って、日本のマクドナルドにしかないメニューなんだって。



全世界共通のサービスじゃないんだ…。

5. 「おもてなし」の精神について考える。		
これらのことから見える日本人の心ってどんなものだろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ○意見が出づらい場合は、これまでに上がった具体例から考えさせる。 ・相手を大切に作る心 ・相手に敬意を払う心 ・相手を自分のことのように考える心 	
6. トルコと日本の関係から日本人の精神に迫る。	<ul style="list-style-type: none"> ○内容を理解しづらい児童のために、必要に応じて補足説明を加える。 ・知らない人に対して、自分の生活を削ってまで助けてあげることができる日本人がいたんだな。 	
7. 今日のふり返り		
今日の学習を通して感じたことを自由に書きましょう。		
 <p style="text-align: center;">ふり返りを書いている様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで当たり前だと思っていたサービスは日本独自のものだったことがわかった。 ・自分も相手を大切に作る「おもてなし」の精神を大切に生活していきたいと感じた。 ・日本は「おもてなし」の精神でいっぱいの中で、その国に住むことができている自分は幸せだと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「おもてなし」の精神を誇りに思うことができたか。 ☆発表表、ワークシート  <p style="text-align: center;">発表している様子</p>



授業後の板書

〈児童の反応〉

- ・日本のよさを改めて感じた。いつも過ごしている国でよくわからなかったけど、とてもいい国だなと感じた。
- ・日本は世界にはほかれるおもてなしの心をもっていることが分かった。
- ・私は「おもてなし」という言葉が流行語になり、意味もわからずに使っていたけど、この学習で人に対する思いやりの心だということを知り、私も人に対して思いやりをもって接していきたいと感じた。また、外国の人にもたくさん助けてもらっているのだから、感謝したいと思った。
- ・日本には昔から相手に対する思いやりの心があり、どの国より「おもてなし」の精神があることがわかった。
- ・相手のために誠心誠意働くのは悪いことじゃないなと思った。相手のことを考えるから、相手も自分たちのことを考えてくれるんだなと思う。
- ・もし私が大島の人だったら、いくらなんでも最後の食糧まではあげられなかったと思う。また、エルトゥールル号に乗っていたトルコの人たちは、たくさんの仲間が亡くなってとても辛かったと思うけど、大島の人たちのおかげで気持ちが安らいだと思う。
- ・トルコの人々がそうなんした時に、昔の日本人は自分たちの最後の食糧を食べさせてあげたと聞いて、すごくいい心を持っているなと思った。相手に対する思いやりの心があることを、当たり前なことだと思わず、自分も思いやりの心をもって過ごしていきたい。
- ・日本人の「おもてなし」の心や「思いやり」の心が、外国のそうなんした人たちや、その国の人たちに伝わったから、イラン・イラク戦争の時に日本人をトルコが助けてくれたんだと思う。「思いやり」の心で他の国の人たちとも通じ合えることがわかった。
- ・1人でも多くの人を助けたいという気持ちで人を助けたり、自分の国の人を助けてくれた感謝の気持ちとして、お礼に助けたりして、支え合うということは本当に素晴らしいことだと思った。
- ・いろんな国と国や人と人が支え合い、助け合えば、いつか恩返しやありがたの気持ちが伝えられることを学習して、私は国を動かすことはできないけど、人を大切にすることはできるから、友だちと助け合い、支え合いたいなと感じた。
- ・日本は、日本人や外国人に対して様々なことで「おもてなし」を表現していることがわかった。このおもてなしの心で、人々の心が優しくなったり、きれいになったりしていけばいいなと思った。

〈所感〉

児童がよく知っている「おもてなし」から授業に入ったため、導入はとても盛り上がった。しかし、スピーチがフランス語であり、とても流暢であったため、メモをする時間が不十分で、内容を1回で把握できる児童はごくわずかであった。そのため、スピーチ内容を想起する場面では、こちらが先導する形になってしまった。また、日本独自の文化は、「おもてなし」だけでは伝えきれないものも多数存在した。例えば、「落とし物を交番に届ける人が多いこと」などである。そこで、おもてなしを「相手を自分のことのように考える心、相手を大切にすること」と広く捉えることで、広義に解釈できるようにした。終末にエルトゥールル号の話を用意し、相手を大切にすることが、トルコの人にも伝わったエピソードを話したことで、相手に思いやりの心をもって接すれば、相手も思いやりの心をもって接してくれるということに気づく児童が多数いた。日本に古くから根付いている文化を再認識できたという点で、とてもやりがいのある授業となった。

7 時間目 豊かだと思ふ順番は？

ねらい：ランキングゲームを通して、豊かかどうかというのは、金銭面だけでなく、精神面も大き

く関わってくることに気づき、これまでの自分のものの見方や価値観について振り返る。

様々な国の家具・家財をすべて玄関に並べ、写真を撮った「地球家族」という本がある。今回は、その中から9枚の写真を選んで提示し、写っている家族のうち、どの写真の家族が最も豊かであるかを考えてランキング化することにより、豊かさについてのこれまでの自分のものの見方や価値観について振り返る活動を設定した。自分なりにランキング化した後に、実際の各国の国連裕福順位と家族の満足感を伝え、その相関関係を考えていく中で、ものの見方や価値観をさらに広げてほしいと考えた。

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 支援(○) 評価(☆) 所感(※)		
導入	1. 写真配付・説明	<p>外国のことで知っていることを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な人種がいる。(白人、黒人、黄色人種) ・色々な文化がある。(着物、チャイナドレス、マント) ・色々な宗教がある。(仏教、キリスト教、イスラム教) ・色々な言葉がある。(英語、日本語、中国語) <p>○9枚の写真を配付する。 ○ダイヤモンド型ランキングの説明をする。</p>	<p>○テレビで見たことなどでもよい。</p> <p>※人種や文化、言葉、肌の色など、知っていることを自由に発言していた。</p> <p>※「豊かってなんだろう？」と問い、子どもたちの価値観を表出させてもよかった。</p> <p>※写真の導入はiPadを画面に映して行った。写真に国名を記入しておくべきだった。</p>		
展開①	<p>2. ダイヤモンド型ランキングゲームに取り組む。</p> <p>①ダイヤモンド型ランキングの構成 ②協同学習</p>	<p>9枚の写真を、豊かだと思ふ順番に並び替えて、ダイヤモンド型ランキング表を完成させましょう。</p> <p>○自分の価値観を明確にさせるために、ワークシートにランキング化したものを記入させる。 ○班ごとに1位・最下位にした理由を発表させる。</p>	<p>※写真を並び替えるという活動は盛り上がった。単なる物質の多さで並び替える児童が大半のなか、笑顔が多いか、写っている生き物が多いかなどで判断している児童もいて、豊かさの判断基準が違うことに目を向けることができた。</p> <p>○早くランキング表を完成させた児童には、その表にした理由を書かせる。</p>		
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><u>1位にした理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物が豊かで多い。 ・みんな笑顔で幸せそう。 ・平和そう。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><u>最下位にした理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく汚くて住みにくそう。 ・物が少なくて不便そう。 ・治安が悪そう。 </td> </tr> </table>	<p><u>1位にした理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物が豊かで多い。 ・みんな笑顔で幸せそう。 ・平和そう。 	<p><u>最下位にした理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく汚くて住みにくそう。 ・物が少なくて不便そう。 ・治安が悪そう。 	
<p><u>1位にした理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物が豊かで多い。 ・みんな笑顔で幸せそう。 ・平和そう。 	<p><u>最下位にした理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく汚くて住みにくそう。 ・物が少なくて不便そう。 ・治安が悪そう。 				

3. 実情から考える。

① 国連裕福順位を知る。

9位	アメリカ	60位	ボスニア
17位	イタリア	147位	ハイチ
21位	クウェート	165位	ベトナム
48位	ロシア	174位	ブータン
		180位	エチオピア

② 満足の度合いから考える。

満足している家族

アメリカ
イタリア
クウェート
ベトナム？
ブータン？
エチオピア？

満足していない家族

ロシア？
ボスニア？
ハイチ

どうして、裕福順位が低い国にも関わらず、満足している家族がいるのでしょうか。また、裕福順位が低くない国でも、満足していない家族がいるのはなぜでしょう。

満足している理由

- ・ベトナムは後ろにもたくさんの方が写っている。親戚もみんな仲良しだから満足なんじゃないか。
- ・ブータンは、仏様がいっぱい写っている。たくさん物がなくても、心が豊かなんじゃないか。(物を多く持たなくてもいいと思っているのではないか。)
- ・エチオピアの人はみんなとても笑顔。動物に囲まれて、楽しく生きているから満足なんじゃないか。

満足していない理由

- ・ボスニアは銃を持った人がいる。物がたくさんあっても、治安が悪いから生活に満足していないんじゃないか。
- ・ハイチの人はあまり笑っていない。やっぱり生活が厳しいのかな。
- ・ロシアの人は物が豊かなのに、どうして満足していないんだろう。

○ 国連裕福順位は1994年のもので、今は変動していることを前置きとして伝えておく。

○ 適宜各国の情報を補足説明する。

例：B国

電気がなく、テレビや飛行機も見ただことがない。

伝染性皮肤病にかかる子どもが非常に多い。

ハエの量が尋常でない。

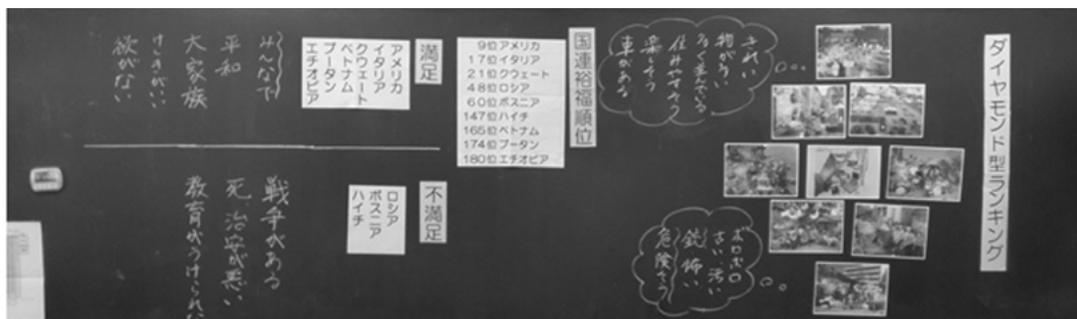
☆豊かかどうかというのは、金銭面だけでなく、精神面も大きく関わってくることに気付くことができたか。(発表)

※「この写真は笑っている人が少ないけれど、どうしてなんだろう。」などと、写真を題材にしながら話を進めると、子どもたちはしっかりと話にくいついてきて思考を深めていた。

	<p>事実を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム → 親戚一同近所に住んでいて大家族。 ・ブータン → 欲がなく、静かに生活している。 (必ずしも社会的に成功しなくてもよい) ・エチオピア → 平和であればそれでいい。 (世界中の平和を願っている) ・ボスニア → 治安が悪く、仕事もできない (内戦時) ・ハイチ → 子どもを学校に行かせられない ・ロシア → 警察が十分に機能していません、父親が殺害された。 	<p>※一方で、写真以外の情報「実はこの家族は…」などと補足説明を加えると、子どもは写真から考えることができないため、思考が寸断してしまっていた。 → 写真の扱い方と説明の仕方に注意が必要。</p>
<p>終末</p>	<p>4. 自分をふり返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>あなたは今豊かですか。そう思う理由を自由に書きましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちよりもゲームの数は少ないけど、家族がみんな元気だから豊かだと感じた。 ・ 物が多いことも豊かだけど、その生活に満足しているかどうかが大変なんだと感じた。今の生活に満足しているから、僕は豊かだと思う。 ・ 今回の学習を通して、当たり前前に教育が受けられることや、平和に暮らせていることが豊かであることを改めて知った。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>☆これまでの自分のものの見方や価値観について振り返ることができたか。 (発表、ワークシート)</p> </div> <p>※さんざん豊かさについて考えてきたあとだったため、全ての児童が自分は豊かだと判断していた。きれいごとで終わらせないためにも、活動の最初に同じ発問で記述させておき、その考えが変容したかどうかを問う方が価値の深まりが得られるのと感じた。</p>

〈児童の反応〉

- ・ 見た目は嫌だと思国がありました。でも、その国のことを知るにより、その国のいいところがわかりました。
- ・ 最初は住んでいる人の表情なんて気にしていなかったけど、そこに住む人の表情からも生活の様子を読み取ることができるんだなと感じた。
- ・ 初めは物が発達しているかどうかで決めてたけど、最後は家族の笑顔と、仲がよさそうかで決め



授業後の板書

ました。

- ・今思っていることが、工事の音が大きいとかそれくらい小さいことだから、今、自分は豊かなんだなと感じた。
- ・いつも学校に行けて、ご飯を毎日食べることができて、好きな野球をすることができているから豊かなんだと感じた。これから、この生活ができることを感謝しながら生きていきたい。
- ・敵にいつうたれるかわからないことにおびえずに過ごせるから日本は豊か。
- ・世界では、家でお手伝いをしていて学校に行かせてもらえない子もいる。これからは今以上にお手伝いをしていきたいと感じた。
- ・生活に必要なものがそろっていて、食べ物もあるし学校にもいける。こうやって過ごせることを当たり前だと思わず、感謝の気持ちをいつももって過ごしたい。
- ・世界の子たちの中には、学校にも行けなくて、教育も十分に受けられないのに満足していると答えている国があった。そんな国があるのに、私たちが豊かでないなんて言えない。
- ・あたたかい家族がいるから豊かなんだと改めて感じる事ができた。



選んだカードを紹介しあう子ども

〈所感〉

授業の最初に写真を見て児童に並び替えさせた時、ランキング上位に入った国は、アメリカやクウェート、イタリアなどのように、家や町の様子がきれいで家具がたくさんある、住みやすそうな国がほとんどだった。しかし、裕福順位と満足度は必ずしも一致していないということを知り、なぜ裕福順位が低い国の満足度が高いのかを考えていくうちに、「生活している人の心の持ち方」や「家族とのあたたかいつながり」があれば、裕福でなくとも、満足に感じることはできないかと、自分たちなりに推測することができていた。

世界の人々の生活の様子をほとんど見たことがない児童にとって、家の家具を全て出し、家族と共に写っている写真が多数掲載されている「地球家族」という本の活用はとても有効であった。

本単元最後の学習 ベトナムで働く JICA スタッフ 青年海外協力隊の方への手紙より

本単元の最後に、ベトナムで働く JICA スタッフのみなさん又は青年海外協力隊で働くみなさんに宛てて、手紙を書く活動を行った。手紙を書く活動を行うねらいは ①相手意識を持って学習に臨むこと ②本実践の学習成果が現れているかを読みとること の2点であった。①は、単元の最初に、「最後に学んだことをベトナムで働く方にお手紙で伝えてもらいます。」というゴールを明確にさせることで、児童の学習意欲を高めるためであった。また②は、本実践を通して、児童の心に残ったことを素直に表現させるためには、手紙という形にするのが最も効果的ではないかと考えた

からである。

下記に掲載した手紙は、実際に児童が書いた手紙の一部である。どの児童の手紙からも、本実践で学習してきた内容を読みとることができると同時に、異国の地で支援を行うために誠意を持って働いている方に敬意を表していることがわかる。

これらの児童の手紙から、本実践が児童の心に訴えるものであったことが伺われる。なお、今回児童が書いた手紙は、JICA 中国の協力を得て、現地に届けていただく予定である。

青年海外協力隊で働くみなさんへ
はじめまして。私は広島県福山市立伊勢丘小学
校六年三組の [] です。
今回授業でベトナムについて学びました。東日本大震災で
は、いろいろな国でたくさんの支援がなされたことや日本が
途上国への技術支援を行っていることが分かりました。
日本は、手入だけだけでなく、様々な恩返しをしてく
るんだなと実感しました。国とのつながりが大切というこ
とが分かりました。日本人にある「おもてなし」精神を学
び、相手に対する思いやりの心が日本人にはあるように思
います。外国でいろいろな支援をしているみなさんは本当に思いや
りの精神があるなと思います。尊敬します。
これから、お体に気をつけて、いろいろな国に支援
や恩返しをしていって下さい。
平成二十五年十二月十三日(金)

JICA ベトナムスタッフの方宛ての手紙

JICAベトナムスタッフのみなさんへ
はじめまして。私は広島県福山市立伊勢丘小学校六年三組
の [] です。好きなものは本とテレビで
す。
今回授業でベトナムについて学びました。その中で特にす
ごいと思ったのは、無償資金協力です。なぜかという
お金を貸すのではなく、あげているからです。私はそんな
無償資金協力をとてもかっこいいと感じました。
JICAベトナムスタッフのみなさんに質問なのですが、この
仕事についてたんだですか。またどうしたら人々に優しく
接することができそうですか。
そして今回の授業を受け、私はベトナムに思っ
てたよりも楽しそうだということ。いつかベトナムに行
てみたいです。
平成二十五年十二月十三日(金)

青年海外協力隊 隊員の方宛ての手紙

青年海外協力隊で働くみなさんへ
はじめまして。私は広島県福山市立伊勢丘小学校六年三
組の [] です。
今回授業でベトナムを始め、海外や海外で働く方々に
ついて学習しました。青年海外協力隊の方々は海外で働
き支援するという事を私は知りました。私達、たら、今
まで暮らしていた日本や家族、友達とはなれるのがいやで
はなれたとしても、やはり日本を思い出してさみしくなっ
てしまふと思えます。なのに支援のために国のために平和の
ために働かれています。すばらしいと思います。また授業の
最後には、日本のよさについて振り返る時間がありました。
私は、日本独とく、の思いやりや敬意があることを知
りました。
遠い国ですが、日本独とく、の良さを発信できるよ、これ
からもお体に気をつけて、がんばって下さい。
平成二十五年十二月十三日(金) 曜日

青年海外協力隊 隊員の方宛ての手紙

青年海外協力隊で働くみなさんへ
はじめまして。わたしは、広島県福山市立伊勢丘小学校
六年三組の [] です。
今回授業でベトナムの事や、日本が行っている支援、
日本のよさについて学びました。日本は「相手に対しての
思いやり」がある事が分かりました。わたしは特に、日本が
している支援について興味を持ちました。相手に対して
思いやりを持って日本だから、世界のいろいろな国の
手助けが出来るとおもいました。日本をほなれて
ベトナムで支援をされている青年海外協力隊のみな
さんはとてもすごいと思います。
わたしは、今回の学習をきっかけに、支え合える世界に、
自分の努力で、少しでも近づけたらいいです。
平成二十五年十二月十三日(金)

青年海外協力隊 隊員の方宛ての手紙

成 果

① 支え合いのイメージの変容を見ることができたこと

「支え合える世界にするために」という単元のもと学習を進めてきた関係で、毎授業の最後に支え合いのイメージを児童に書かせていた。そのイメージが、少しずつではあるが変容している様子が見受けられた。

支え合いのイメージ

	単元の最初	単元の最後
児童 A	人が助け合っていくこと	相手に対して思いやりをもつこと
児童 B	助けること	相手を自分のことのように思うこと
児童 C	組体操のピラミッド	損得なしに助け合えること
児童 D	助けること	相手に優しい気持ちをもって接すること
児童 E	できる人がやっであげること	相手のようほうに合わせて支えること

単元の最初は、支え合いについて具体的にイメージ出来なかったり、余裕のある人が手助けするイメージを持っていたりする児童が多かったが、単元後には、相手意識を持って具体的にイメージすることができる児童が増えた。また、それが単なる押しつけではなく、相手に寄り添った支えを行うという視点からイメージできる児童が増えた。これは、ベトナムに支援を行っている JICA スタッフや青年海外協力隊の隊員の取り組み、東北大震災時の世界からの多大な支援、エルトゥール号の話からの日本とトルコの支え合いの様子を知ること、支え合いというイメージがより具体的に持てるようになったからではないかと考えられる。

② 日本の文化の良さに気づくことができたこと

「日本人は相手を自分のことのように思う心や相手を大切にする心がある」ということを学習したことにより、これまで当たり前だと思っていた日本の文化に対してもう一度目を向け、自分たちの国の良さについて気づくことができた。最近、日本でも凶悪な犯罪が増えたり、学校の中でも思いやりに欠ける行動があったりと、日本のみならず、身の回りにおいても、思いやりの心が欠けていると感じる場面が増えてきた。今一度、原点に還り、日本独自の文化から、自分たちの行動をふり返る機会になったという面では、本実践はとても効果的であった。

③ 世界に目を向ける児童が増えたこと

「支え合える世界にするために」という単元で授業を進めていくうちに、世界に目を向ける児童が増えてきた。まず、冊子である。今回、画用紙で冊子を作成し、毎授業のワークシートをファイリングできるようにした。児童には、冊子に単元名と名前を書くようにのみ伝えていた。しかし、授業が進み、支え合いのイメージが出来て行くにつれて、休憩時間に自ら冊子に絵を描く児童が増えてきた。右の図は、児童が実際に描いた表紙絵である。これまで国旗あてゲームをしてもほとんど答えることができなかった児童が、国旗の絵を自ら描いていることに驚いた。国旗が手をつないでいる姿もとても素敵であった。

また、本単元を通して、将来の夢が変容した児童もいた。その児童は楽器演奏が好きで、将来はクラシック音楽家になりたいという夢を持っていた。しかし、日本が震災で危機に陥った時に、諸外国が支援を行ってくれたことや、青年海外協力隊の隊員が強い意志をもち、祖国を離

れてひたむきに支援を行っている姿を学習していくうちに、支援を行うことの重要性と、その姿の偉大さを理解していった。その結果、卒業文集で「将来の夢」を書く際に、「国際ボランティア活動をする事」を夢として掲げ、文集の中には本実践で学んだことから支援に対する必要性和、異国の地で働く隊員に対してあこがれを感じるようになったことが書かれていた。その児童以外にも、「青年海外協力として働いてみたい」「海外で働いてみたい」と発言する子が増えたことから、本実践により、世界に目を向ける児童が増えたことを実感した。



児童の表紙絵

課題

①異文化の否定につながる危険性があること

ベトナムのことを学習している際に、「ごみを平気で道路に投げ捨てる」という文化があることを伝えた。

それに対して、「日本人はあまりごみをポイ捨てしない

のに、ベトナム人はごみをポイ捨てするという文化があるので、ベトナムの文化はいけない。」という考えをもってしまふ危険性があることを感じた。今回の海外研修のみでは、ベトナム人がなぜごみをポイ捨てするのかという背景にまで迫ることができなかった。文化には、必ず背景がある。背景を伝えずして、行為のみを取り上げてしまうと、文化の否定につながりかねないと感じた。今後国際教育を進めていくうえで、文化の背景にある考え方まで伝えること大切にしなければならないと感じた。

②資料の有効な活用方法

教師海外研修を通して、ベトナムで活躍している様々な日本人の方が働いている場所を見学させていただき、膨大な資料を集めることができた。しかし、自分が伝えたいことを明確にし、膨大な資料の中から厳選し、有効に活用していかなければ、児童の思考を混乱させてしまったり、ねらいから全く離れた方向に思考が進んでしまったりしてしまうことを学んだ。考えさせたいことを明確にし、そのために有効な資料を吟味し、活用していく必要性を感じた。

最後に

本実践を通して、国際教育を進めるということは、他国の文化を知るのみならず、自国の文化を知ることにつながると改めて感じた。自国の文化を知るためには、普段当たり前だと思っている文化に対する比較対象が必要である。その比較対象を他国から得ることにより、改めて自国の文化に対して意見を持ったり、誇りに感じたりすることができると感じた。

世界に目を向けて、ますますグローバル化が進む社会に対応できる児童を育成するため、国際教育の実践をさらに深めていきたい。

■現在活動中の青年海外協力隊員の方からお礼のメッセージが届きました！！■

伊勢丘小学校 6年3組のみなさんへ

応援のお手紙、ありがとうございました。みなさんがベトナムについて学んでくれたこと、いろいろ考えてくれたこと、とてもうれしかったです。私は青年海外協力隊のIです。私はベトナムの首都・ハノイという町でベトナム人に日本語を教えています。私の学校には大人から子供まで、たくさんの人が日本語を勉強しています。みなさんと同じ年ぐらいの人もがんばって日本語を勉強していますよ。「日本のマンガのワンピースが大好き！」とか「嵐、かっこいい！」という人も多くて、もしみなさんと話ができたら、きっと喜ぶと思います。

ベトナムと日本はぜんぜん違う国です。ベトナムでの生活は、楽しいこともあるし、いやなこともあります。道が汚かったり、バイクや音楽の音がうるさかったり、一緒に働いている人と考え方が合わなくてけんかをしてしまったり。そんなときは、なんでベトナムに来てしまったんだろう、と思います。でも、ベトナムの人たちと一緒に生活を続けていると、ベトナム人の考え方や感じ方が少しずつわかるようになりました。そして、ほんとうに温かい心を持った人たちだな、と思うこともたくさんあります。例えば、バスの中では若者がお年寄りに席をゆずるのは当たり前のことです。また、ベトナムの道はバイクがたくさんで、渡るのが大変です。そんな道でおばあさんが一人で歩いていると、ぜんぜん知らない人でも助けに行きます。それから、私が病気で寝ていると、一緒に働いている人が心配して食べ物や水を持って家まで来てくれます。いつもけんかばかりしている人ですが、病気のときはけんかはお休みです。

ベトナム人が持っている相手を思いやる気持ちはみなさんが学んだ「おもてなし」の気持ちと似ているかもしれませんね。ベトナムと日本、ぜんぜん違う国ですが、「相手を大切にする」という気持ちはどこにいてもステキなものですね。私は日本語を教えながら、そのステキなものをたくさんのベトナム人からもらっています。お互いを大切にする。世界中のみなさんがそう思えるようになったら、幸せですね。

みなさんの作文を読んで、私の夢が一つ増えました。私が日本語を教えた学生が、いつか、日本・ベトナム・世界のどこかでみなさんと会って、日本語で話をするということです。みなさんもたくさんのことを学んで、世界を広げて、たくさんの人と出会ってくださいね。私も一生けんめいがんばります！これからも応援よろしくおねがいします。

2014.2.4 ベトナム・ハノイ市
ベトナム日本人材協力センター
日本語教師 I



参考資料

【書籍】

- ・マテリアルワールドプロジェクト「地球家族 世界30か国のふつうの暮らし」TOTO出版
- ・JICA中国「平成24年度ベトナム教師海外研修 参加型で学ぶ国際理解教育授業実践報告書」
- ・JICA中国「どうなってるの？世界と広島県」
- ・JICA「国際理解教育実践資料集」

【映像資料】

- YouTube「東日本大震災 ベトナム中を涙させた少年の話」(7:53)
- YouTube「世界がもし100人の村だったら」(7:06)
- YouTube「JICAは世界とともに2012」(13:44)
- YouTube「FIND THE LINK 依存大国日本」(9:03)
- YouTube「2020 TOKYO Olympic Games 滝川クリステル「おもてなし」字幕付フル」(2:31)
- YouTube「日本とトルコの関係 エルトゥールル号」(7:39)

【インターネット】

- ・「支援地域の子どもたちがほしいものベスト5」
http://www.worldvision.jp/control/html/news/news_0792.html
- ・「外務省：キッズ外務省 - 東日本大震災においてよせられた世界からの支援・励まし
がんばれ日本！世界は日本と共にある！-」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/shien/index.html>
- ・「7分間で車内をピカピカにする「新幹線お掃除の天使立ち」」
<http://www.excite.co.jp/News/bit/E1348045352656.html>
- ・「I LOVE JAPAN【日本の良さが分かるまとめ】 ジャパニーズブランド」
<http://matome.naver.jp/odai/2134737668707715101>
- ・「ベトナム・クイズ」<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/9147/quiz/quiz.html>
- ・「海外で話題「日本人の礼儀正しさ」を震災で再認識したまとめ」
<http://matome.naver.jp/odai/2130015054548756301>
- ・「見逃した方用【おもてなし】滝川クリステル話題のスピーチ内容の詳細」
<http://matome.naver.jp/odai/2137888849797068701>
- ・「日本人の当たり前は外国人にはサプライズなのだ」<http://omtnsh.co.jp/blog/sekai>
- ・「米国人には理解不能、大地震でも治安が揺るがない日本」
<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5641>

ベトナムの豊かさ 日本の豊かさ

岡山大学教育学部附属小学校 担当教科：社会科 河田 正

実践教科：総合的な学習の時間 対象学年：5年 対象人数：35人

■実践の目的 ベトナムの様々な写真を通して、幸福・豊かさについて考える

ベトナム研修で、都市の建設ラッシュやインフラ整備事業など、発展途上であるベトナムの様子が見えた。一方で、家族4人が身を寄せ合って乗っているバイク、道の両脇に頻繁に見られるたわわに実っているバナナ、定時になると仕事を終え家路に急ぐ人々など、日本とは違う自然環境・生活習慣を通して豊かさを感じた。

帰国後、それを裏付けるデータを見つけた。イギリスのシンクタンクである「ニュー・エコノミクス財団 (nef)」が発表した「世界幸福度指数 (The Happy Planet Index : HPI)」によると、ベトナム2位、日本45位 (2012年) であった。この指標は「生活に対する満足度」、「平均寿命」、「環境への負荷」という観点をもとにランキングされている。経済的な豊かさをはかる指標として有名な「一人当たり国民総所得 (Gross National Income : GNI)」では、日本19位、ベトナム115位 (2011年) で、金額では10倍以上の開きがある。

指標の観点によって順位が逆転することを考えると、幸福や豊かさにはいろいろな見方があることが感じられる。

そこで、ベトナムで感じた「ベトナムは豊かな国だと言える点があるのではないか？」という自身の感想をもとに、子どもが写真を通じて幸福や豊かさについて考える授業を計画した。「こういう点が豊かさと言える」と一人一人が解釈した「幸福」・「豊か」のイメージを出し合うことで、「幸福とは」「豊かさとは」という見方を広げ、世の中をより多面的に理解しようとする契機になることを期待した。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	「幸福」・「豊か」ってどんなイメージ？ 言葉のイメージを出し合い世界幸福度の高いベトナムに関心をもつ	(1)「幸福」・「豊か」からイメージすることば集めをする (2)4つの国の写真を見せ「幸福」・「豊か」だと思ふ順に並べその理由を紹介し合う (3)ベトナムの「世界幸福度指数第2位」を伝える (4)ベトナムの幸福度についてめあてをもつ	(1)4カ国の写真 (2)ワークシート
2・3	ベトナムの写真から「幸福」・「豊か」を見つけよう 豊かさを表していると思う写真を選び豊かな理由を自分なりに考える	ベトナムの写真から「幸福」・「豊か」を見つけよう 豊かさを表していると思う写真を選び豊かな理由を自分なりに考える	(1)ベトナムの写真 (35枚) (2)カード (一人10枚程度)

4	ベトナムの「幸福」・「豊か」について話し合おう 【本時】 お互いが考えたことを出し合い、豊かについてのイメージを広げる	(1)見つけた幸福・豊かな様子とその理由をグループで出し合い幸福・豊かな様子をまとめる (2)グループごとに発表する (3)全体でベトナムの幸福・豊かさについてまとめる	(1)理由をまとめるホワイトボード（グループに1枚） (2)カードを貼りつけるワークシート (3)黒板用のベトナムの写真（35枚）
5	「幸福」・「豊か」について話し合おう 幸福・豊かさを感じられない写真や日本の幸福・豊かさを話題にして大切にしたい見方を考える	(1)ベトナムの幸福・豊かさを感じられなかった写真からめあてをもつ (2)写真から感じられなかった理由を考える (3)グループで1枚の写真の理由について話し合う (4)全体で理由を発表し合いベトナムの幸福・豊かさを感じられない点、日本の幸福・豊かさを感じられる点について話し合う (5)「幸福」・「豊か」についての感想をもつ	(1)前時で「幸福」「豊かさ」を感じなかった写真 (2)ワークシート (3)ホワイトボード（グループに1枚）

■この授業に注目！

第1時 「幸福」・「豊か」って、どんなイメージ？

ねらい：言葉のイメージを出し合い、世界幸福度指数（HPI）の高いベトナムに関心をもつ

〈本時の流れ〉

まず、教師から「幸福」や「豊か」という言葉を話題にした。子どもは口々にイメージを語ってきたので、学習のめあてにして幸福・豊かのイメージを出し合った。

～「幸福」のイメージ～

家族と一緒に 元気でやさしい人たち 好きなもの お金持ち

～「豊か」のイメージ～

豊作 生活の困らない のびのびと遊べる 飲食に困らない のんびり 家族 友達

次に、4カ国の写真を見せ、写真の中で幸福・豊かと感じる様子を3～4人のグループで出し合った。子どもは「仲がよい様子」、「体がくっついていて笑顔」、「みんなで楽しそう」などの様子をとらえ、自分が持った幸福・豊かのイメージと写真をつなげて話した。イメージを持ったところで、国名と世界地図での位置を紹介した。

【4カ国の写真の内容】

ベトナム（HPI 2位）：学校から母親のバイクに乗って帰宅する子ども（現地で撮影した写真）
フィリピン（HPI 24位）：友達と映画のパンフレットを眺める子ども（JICA フォトランゲージより）
ペルー（HPI 25位）：一つの家を集まり近所の人と一緒にテレビを見る子ども（同上）
トルコ（HPI 44位）：学校でクラスメイトと一緒に学習する子ども（同上）



ベトナム



フィリピン



トルコ



ペルー

そして「世界幸福度指数 (HPI)」を紹介し、日本を含めた5カ国でどの国が一番高いかクイズを行った。最後にベトナム(2位)と日本(45位)が残るよう順位を告げ、ベトナムの幸福度の高さを調べるため『ベトナムの「幸福」・「豊か」を見つけよう』をもち、次の時間に調べることにした。

〈児童の学習の感想〉

- ・日本が45位だなんて、こんなに幸せなのに何で？
- ・2位は日本だと思ったけど、45位はちょっとショック。
- ・日本が思ったよりも順位が下でびっくりしたし、がっかりした。日本と何がちがうのか知りたい。



写真から「幸福」「豊か」を見つけ

〈所感〉

「幸福度」という指標に合わせて子どもに「幸福」・「豊か」という2つの言葉を提示したが、よく似たイメージの言葉としてとらえていた。経験的に持っていたイメージと4カ国の写真を重ねることで、言葉の具体的な様子を人の姿、様子としてイメージすることができたようであった。

子どもが写っている写真を提示したことで、自分と同じ子どもの視点で生活を見ることができ、

て認めていった。写真は、数千枚という研修者全員が撮影した共有写真から選択したので、35枚という枚数はベトナムの様子を伝えるには決して多い量ではないが、子どもがとらえる分量としてはちょうど良かったと感じる。

第4時 ベトナムの「幸福」「豊かさ」について話し合おう

ねらい：お互いを感じたことを出し合い、豊かさについてのイメージを広げる

〈本時の指導案〉

活動	活動内容	指導上の留意点
1	学習のめあてをもつ	・前時の学習内容を話題にすることで、本時のめあて『「幸福」・「豊か」とはどのような様子だろう』を確認できるようにする
2	グループで話し合う	・3～4人のグループで第2・3時に作成したカードの写真番号・理由を出し合うことで、複数人（4人グループで3人以上）が選んだ写真の共通性に気付きやすくする。 ・共通点をホワイトボードに記録させることで、写真が違っていても理由が同じ写真があることに視覚的に気付きやすくする。
3	全体で話し合う	・グループで複数人が選んだカードとその理由を発表させることで、全体の選んだ写真と理由の傾向性をとらえやすくする。 ・黒板に35枚の写真を貼り、選ばれる度に写真を中央の方向に動かしていくことで、多くのグループに選ばれた写真を視覚的に把握しやすくする。 ・理由を内容に合わせて分類して板書することで、「幸福」「豊かさ」の具体をまとめた言葉（キーワード）でとらえることができるようにする。
4	まとめをする	・本時のめあてを板書をもとに振り返ることで、「幸福」「豊かさ」の様子をキーワードを用いながら自分なりに「まとめ」として記述できるようにする。 ・まとめや感想を尋ねることで、「幸福」「豊かさ」のイメージが広がったことに気付かせるようにする。 ・35枚の写真の中で動かなかった写真を話題にすることで、次時は動かなかった理由について考える意欲をもたせておく。

〈授業の実際〉

前時に多くのカードを作成していたので、「友達がどのようなカードを作ったのか知りたい」という意識で本時を迎えた。「4人グループでは3人以上が選んだ写真の番号を書く」、「選んだ写真は違って同じ理由があったらその理由を書く」という2つの活動の視点を与え、グループ活動に入った。東になった自分のカードをお互い机の上に並べて分類するグループ、1番の写真から順番に確認しているグループと、いろいろな方法が見られたが、多くのグループで10枚以上の写真が該当していた。選んだ理由についてはまとめにくそうであったが、似ている理由を書き挙げていた。活動時間として15分ほど必要であったが、一人一人が理由を考えていることもあり、どのグループのホワイトボードもたっぷり内容が書かれていた。

全体の話し合いでは、まずグループごとに、3人以上が選んだ写真番号を発表させ、発表に挙がっ

た回数だけ写真を中央の方向へと動かしていった。すると、1～2つのグループが選び少し動いた写真、多くのグループが選び大きく動いた写真、全く動かなかった写真が黒板上に見えてきた。

多く動いた写真を話題にして、幸福・豊かな理由を発表させた。「もてなしが温かいから」、「みんな笑っているから」、「きれいで気持ち良いから」、「たくさん米がとれるから」など、子どもそれぞれが発表した言葉を板書に分類しながら書き加えていった。分類した言葉を丸で囲み、何のことについてと言えばよいか尋ね、「人のこと、人間の関係、家族」、「自然環境」、「食べ物」と理由にまとめていった。「休けい」、「ゆったり」などという言葉については、子どもの言葉が出なかったので、教師が「時間」という言葉でまとめた。

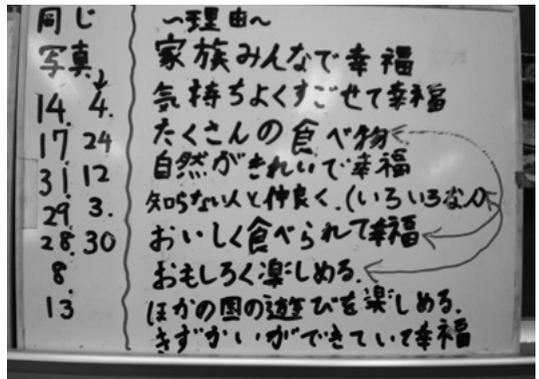
子どもが見つけたベトナムの「幸福」、「豊かさ」が大きく4つのキーワードにまとまったところで、ベトナムの世界幸福度指数2位を話題にした。

子どもはキーワードと2位との関係に気付き、ベトナムの幸福・豊かさを自分の言葉でまとめ、感想に表した。

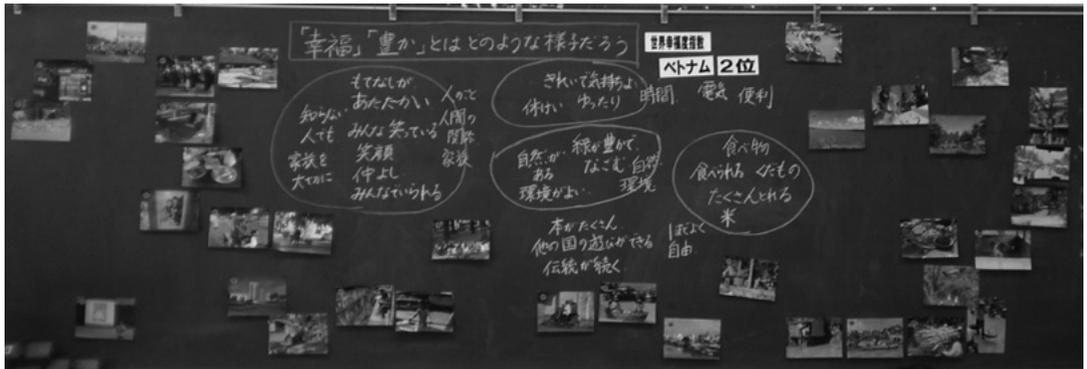
最後に動かなかった写真を話題にすると、子どもは「道路にゴミが落ちているのはおかしい」などと動かなかった理由を口々に言い始めた。次に続きを考えていくことを伝えて授業を終えた。



選んだカードを紹介しあう子ども



あるグループのホワイトボード



本時（4時）の板書

〈児童の学習の感想〉

- ・ベトナムが2位ということを知ったとき、何でだろう？と思っていたけれど、その理由をくわしく知ることができた。ベトナムは幸福だな。
- ・ベトナムは周りの人をすごく大切にしているすごいと思った。日本ももっと仲良くしていけば幸せになっていくと思う。
- ・いろいろな種類の「幸福」、「豊かさ」があつてすごかったし、人との関係もみんな仲良くて見習

「幸福」「豊か」とはどのような様子だろうか。

 <p>03ハンモックで休憩</p> <p>のんびりとくつろいで いまして幸せな時間 と書いてたよ。そして ホッとした。</p> <p>名前: _____</p>	 <p>車でドライブ</p> <p>景色を見て、気持ち がよくなった。</p> <p>名前: _____</p>	 <p>31年に3回とれる水田</p> <p>水田は、3回とれる水田 が、とてもいい。水田 が、とてもいい。水田 が、とてもいい。水田</p> <p>名前: _____</p>	<p>はりましょう</p>	 <p>4ツゴ、ハイナップ、ライ</p> <p>おいしいお菓子の写真 (食べ物)が、とてもいい お菓子が、とてもいい お菓子が、とてもいい</p> <p>名前: _____</p>	 <p>05家には家族の写真</p> <p>家族の写真のことか が、とてもいい。家族 の写真が、とてもいい 家族の写真が、とてもいい</p> <p>名前: _____</p>
<p>13公園で遊ぶ</p> <p>公園で遊ぶよ。公園 で遊ぶよ。公園で遊ぶ よ。公園で遊ぶよ。</p> <p>名前: _____</p>	<p>30</p> <p>かきまきさんパンが おいしいよ。</p> <p>名前: _____</p>	<p>名前: _____</p>	<p>名前: _____</p>	<p>名前: _____</p>	<p>名前: _____</p>

「幸福」「豊かさ」とは？

街など自然がきれいで、人が幸せ、時間を忘れて、ゆたりくつろげる環境や、近くが食べ物がたくさんとれる。そして、心が豊かさが幸福、豊か。

ベトナムは、日本と比べるとみんなが「幸福」・「豊か」と思っているから2位で、日本はこのことに気付いていないのではないかな。安心してみんなが良い気持ちで暮らせるようになって、上位を目指せるようになってほしいな。

本時（4時）のワークシート

- ・ベトナムのことは考えていなかったけれど、幸福って分かったから、幸福についてもっと調べて日本も幸せにしたい。
- ・ベトナムは日本と比べるとみんなが「幸福」・「豊か」と思っているから2位で、日本はこのことに気付いていないのではないかな。安心してみんなが良い気持ちで暮らせるようになって、上位を目指せるようになってほしいな。

〈所感〉

全体の話し合いで、グループで共通に選んだ写真を発表させたので、共通した幸福・豊かさを話題にしてまとめることができた。発表での各グループが書いたボードは字であふれており、グループの中でしっかり出し合えたことが伺えてよかった。黒板に貼った写真を発表回数に応じて動かしたことは、多くの子どもが共通に感じた写真についてすぐに話し合え、話題を焦点化することができてよかった。子どもが出した理由を分類して板書することで、「人とのつながり」、「自然の豊かさ」、「食料の豊富さ」といった、教師がベトナムで感じ気付けてほしいと思っていた豊かさに、子どもから気付くことができたことが良かったと感じる。

一方で、子どもの理由として「人とのつながり」に関するものが多く挙がっていたが、今回は取り立てて言及しなかった。クラスの中では大きな理由になっていたことから、子どもにとっては大切な見方になっていることに触れてもよかったと思う。

幸福・豊かさが見える写真を動かした結果、幸福・豊かさが見えなかった写真に着目しやすくなった。動かなかったことは子どもも気になっていたようで、話題にするとすぐに理由を話し、スムーズに次時につながる話題にすることができた。

第5時 「幸福」「豊かさ」について話し合おう

ねらい：幸福・豊かさを感じられない写真や日本の幸福・豊かさを話題にして、大切にしたい見方を考える

〈本時の流れ〉

まず、前時の学習内容を振り返らせ、ベトナムの幸福・豊かさのキーワードを板書した。そして動かなかった写真を話題にして、ベトナムで幸福・豊かとは言えない様子とはどのような点か明らかにするめあて『「幸福」「豊かさ」について考えよう』をもった。

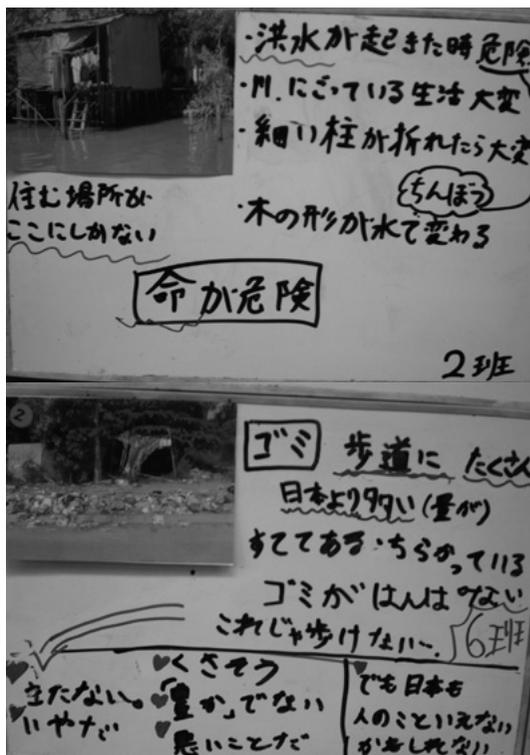
次に、動かなかった写真の理由をワークシートに一人一人が書いていった。動かなかった写真は12枚あったが、活動時間を考えて、様子が特徴的で把握しやすい6枚の写真にした。グループでの話し合いではその中の1枚を無作為に選ばせ、1枚の写真の理由を話し合う活動にした。

全体での話し合いでは、各グループからの理由の後に、他グループからの付け足しも求めていった。ベトナムの状況について、日本での様子を尋ねると、「そんな状態は見られない」、「そこまでの貧しさはない」、「安全だ」などと、ベトナムとは反対の状況が見えてきた。「日本の様子は『幸福』、『豊か』だと言えるだろうか？」と尋ねると、子どもは日本の状況を一つの幸福・豊かな様子ととらえ、ベトナムと様子を比べることで、違う豊かさをとらえていった。

日本の幸福・豊かさを見つけたところで、「日本にも豊かなところがあるのに、なぜベトナムが2位なのか」と再び世界幸福度指数順位を話題にした。

世界幸福度指数では「将来自分の国だけの物資でどのくらい生活し続けることができるか」という視点を大切にしていること、多くの食料を自国でまかなっているベトナムはポイントが高いことを伝えた。食料における日本の様子を尋ねると、「40%」、「決して高くない」、「輸入が多い」と社会科で学んだ食料自給率を思い出し、日本が食料のポイントや順位が低くなっていることに納得していた。教師から世界幸福度指数はあくまでも一つの見方であること、「日本のみんなが『ベトナムって豊か』と思ったように、ベトナムの人も『日本って豊か』と思っている」と、ベトナムで聞いた日本の話やベトナムにあふれる日本製の話の話を伝えた。

最後に学習のめあてを振り返り、「幸福」、「豊かさ」について、分かったこと、感じたことを自由に書かせ、時間の許す限り発表し合い、授業を終えた。



あるグループのホワイトボード

〈子どもの感想〉

- ・日本も安全で平等で環境はきれいだけれど、食べ物他の国から輸入しているから、やっぱりベトナムは豊かでうらやましい。
- ・ベトナムは日本と比べると自然が多く食べ物を輸入しないで食べている。しかし安全な家や環境や平等さは日本よりはかけている、ベトナムと比べてみると、日本のいいところや少しダメなど



本時（5時）の板書

「幸福」「豊かさ」について考えよう。

ベトナム		日本	
写真	その理由		
2	ゴミが道に落ちていて汚いから。	ゴミの処理ができていない部分	ここまではひどくはない。
12	子供が働いていてかわいそうだから（休日に働いている）	子供が働かないといけない。	ない。「お手伝い」ほど。
18	家が陸地になく、安全でないから大雨の時に大変そうだから	危険 家の様子	安全 陸地に住んでいて じょうぶ
21	重そうだし、町まで行かないと売れないなんてかわいそうだから	お金の必要 遠い所から。	売りにくる人①
32	ガスマスクをしないといけないなんて大変だし危険だから。	バイクの走り方X わずり合いがない。ルール	ここまではひどくない。
35	バイクがたくさんで大変で、つかれるから	空気 大気汚染 環境	差が大きい。 ガスマスクはつけていない。 安全。

安全 環境 同じくらい 差が小さい 平等

ベトナムは日本と比べて豊かではない所もあるけど、食べ物など豊かな所もある。見方によって豊か豊かではない所がある

ベトナムの人が日本をいいな、と思ってくれていてうれしい。もっと日本の順位が上がってほしい。上がらせていきたい。

本時（5時）のワークシート

- ころが見えた。ベトナムが2位なのは納得だな。でもやっぱり日本はいいと思う。
- ・ベトナムは豊かだな、幸福だな、とわたしたちはうらやんでいたけれど、わたしたち日本も豊か、幸福だと思う。どうすればもっとよくなるかな？
 - ・ベトナムにも「豊かさ」や「幸福」がたくさんあるけど、やっぱりほくは日本がいい。ベトナムのいいところを日本もまねしたい。
 - ・ベトナムの人が日本をいいなと思ってくれていてうれしい。もっと日本の順位が上がってほしい。上げていきたい。

〈所 感〉

ベトナムの幸福・豊かさや幸福・豊かに見えない点について話題にすることで、ベトナムの問題や日本の幸福・豊かさについて気付くことができた。私自身ベトナムを訪問して豊かさを感じたと同時に、ベトナムの発展途上を様々な場面で感じた。決して幸福・豊かとは言えない状況もあり、それを切り取ったものが今回の動かなかった写真である。その点では、写真を通してであるが、子どもも同じ感覚をもつことができたと感じる。一方でベトナムの問題の裏返しとして、日本の幸福・豊かさについて気付くことができた。第5時の活動を通してベトナムの幸福・豊かさやそうではない点の両方を理解することで、子どもは「幸福」「豊か」の見方を広げ、ベトナム・日本の両方があると、より幸福、豊かになれるのでは、と気付くことができたと感じる。

全体を通しての成果と課題

今回、自分自身がベトナム研修で感じたことを素直に授業に表してみた。手段としては「現地撮影した写真」という資料のみでの授業となり、子どもにとっては限られた情報であったが、意欲的に考えたり話し合ったりする姿が見えて良かった。

単元終了後には、「日本の幸福度が低いことを知ってショックだった」という日本に対する感想、「ベトナムのことが分かって良かった」、「写真からベトナムのことを知ることができて楽しかった」というベトナムに対する感想、「幸福・豊かさの考え方が色々出てきておもしろかった」、「豊かさ、幸福って色々なことだと知って良かった」という幸福・豊かさに対する感想、「日本がもっと豊かになるようにしたい」、「ベトナムに行ってみたい」という、これからに向けての感想など、様々な感想を見ることができた。子どもの意識によって感想に違いは見られたが、概ねこちらが意図したことについて気付くことができたのではないかと考える。

ベトナム研修の際にベトナムで活躍する方から「ベトナムを通して日本のよさが見える」という話を聞いた。数日の経験をした私でもほんの少しは感じられた。今回子ども達はさらに少しばかりであるが、活動を通して日本のよさを見直したのではないと思う。

今回の授業は、友達と幸福・豊かについて考えを交わし合ったことが子どもの中に残ってくれたらと願っている。そして、今の幸福・豊かさの見方をさらに広げ、より多くの国・人々のよさを見つけ、協力し合おうとする態度を育てるべく、実践を重ねる努力をしていきたい。

参考資料

【書籍】

- ・日越友好年実行委員会「日越友好年～新しい地平線に向かって共に進もう～」

【インターネット】

- ・「国民総所得（GNI）ランキング」
http://memorva.jp/ranking/unfpa/who_2013_gni_gross_national_income.php
- ・「happy planet index」<http://www.happyplanetindex.org/>
- ・「BRICs プラス 11 投資情報」
<http://invest-bricsplus11.info/biboroku/happy-planet-index-2012.html>



01あちこちに携帯電話の店



02ある歩道の様子



03ハンモックで休憩



04マンゴー、パイナップル、ライチ...



05家には家族の写真



06家族でドライブ



07街の学校にて



08街の公園はきれいです



09街の郊外にて1



10街の郊外にて2



11街の本屋にて



観光客に飲み物をお手伝



13公園で歌を楽しむ若い人



14小さい子は立ち乗りです



15小舟も交通手段



16川の上に家が並んでいます



17川岸でくつろいでいます



18川岸の水上の家



19船で運んで船で売ります



20大きな「ござ」もバイクで



21田舎から売りに来る人



22田舎ではにわとりを放し飼い



23田舎では豚を飼っています



4田舎では豚肉でお客のもてな



25田舎町の小学校



26田舎町の中心部



27ハノイの街は電線がいっぱい



28道ばたのパナナ



29道ばたのパナナ屋



30日本の福笑いを楽しむ



31年に3回とれる水田



32排気ガス防止のマスクを着用



33米から麺をつくります



34民族伝統の踊り



35タ方のラッシュ風景

資料：2・3時に使用した35枚の写真

支援でつながる、日本と世界

実践教科：社会 対象学年：小学6年生 対象人数：31名

■実践の目的

日本のベトナムにおける支援の様子や国連での働きを調べることを通して、日本の国際協力の意味について考える

ベトナム研修の際、東日本大震災の際にベトナムから多くの援助や応援を受けたことを知った。ベトナム国民から自然と日本に対する援助を呼びかける運動が始まり、給料の1ヶ月分を援助してくれた教師がいることも聞いた。このような運動はベトナム国内でかつてなく、日本に対する援助だからこそ運動が起きたということであった。ベトナムでは多くの日本人が活躍している。

教育、医療、農業、工業、都市環境整備など、国民の生活の様々な場面で日本人が協力している。また都市部・田園部とベトナムの多くの地域で日本人が協力している。そして今年は日越外交関係40周年を迎えた。震災での援助や応援は、今までの日本とベトナムの長い関係があったからこそである。

震災への支援はベトナムに限らない。日本は世界の多くの国から人的援助・物的援助・寄付などを受けた。ベトナムと同様、日本がこれまでに世界の国々と関係を築いているからだと言える。

そこで、6年政治単元「世界の中の日本」の学習に、実際にベトナムで出会った日本人を紹介しながら、世界で活躍する日本人とそれを支える日本政府（JICA）の働きを具体的にとらえることができるよう、授業を構成した。一人一人の活動が世界の国々と日本との関係構築に、世界全体の発展に寄与していることを理解し、誰でも国際社会の一員として貢献することができることを知る契機になることを期待している。

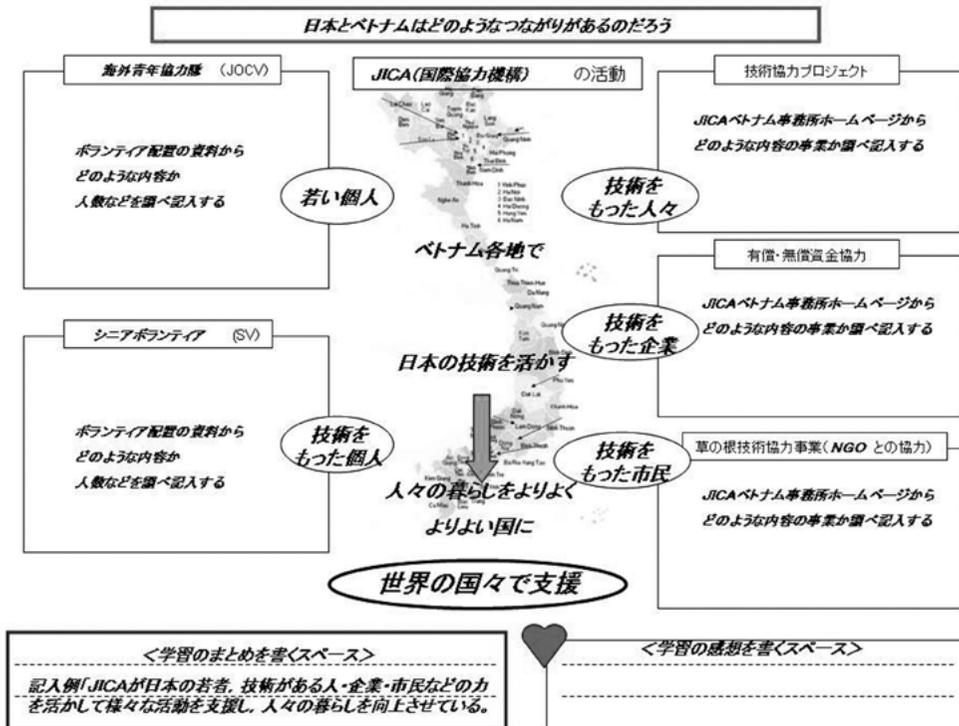
■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	震災での世界中からの支援を知る 震災での援助や応援コメントを紹介し、日本に多くの国からの支援が集まった理由に関心をもつ	(1)東日本大震災で外国から援助金、援助物資、応援メッセージ等が集まったことを知る (2)ベトナム国民からの大きな援助や応援メッセージを知る (3)日本への支援の大きさを話題にし、「どうして日本は世界から多くの支援を受けたのだろう」という学習問題をもつ (4)今までの日本と外国とのつながりについて調べる見通しをもつ	(1)外務省パンフレット「世界が応援団」 (2)ベトナム エピソード集、写真 (3)日本赤十字社 海外救援金受付状況
2・3	日本とベトナムとのつながりを調べる JICAのベトナムでの支援の具体を示し、支援の効果を考える	(1)ベトナムで活躍している日本人の様子を調べる。 ・海外青年協力隊として活躍 ・シニアボランティアとして活躍 ・専門家・企業として ・NGOとして (2)それぞれの支援がベトナムに与える効果を考える	(1)ベトナム・ボランティア配置 (2)ベトナムで出会った日本人の写真 (3)JICAベトナム事務所のホームページ・実施中プロジェクト一覧

		(3)ベトナムと日本とのつながりについて考える (4)その他に支援をしている国・地域を知る	
4・5	日本との国連とのつながりを調べる 国連での日本の活動を調べ、日本と世界の国々との関係について考えをもつ	(1)国連の組織について知る (2)国連で活躍している人々や支援の具体を調べる。 ・ユニセフについて ・平和活動について (2)日本の国連での役割について知る (3)それぞれの活動が与える効果を考える	(1)国連キッズホームページ
6	日本と世界のつながりをまとめる JICA と国連の学習をまとめ震災支援の多さの理由を説明する	(1)学習でとらえた日本と世界とのかかわりについて、JICA と国連での活動からまとめる。 (2)多くの国から支援を受けた理由についてを日本の外国との支援関係を関連付けて説明する	
7・8	これからの世界の世界のつながりについて考える 環境問題などをもとに、世界の中での生活に仕方について考える	(1)環境問題の具体と日本の対応を知る。 (2)世界の国々と日本との交流について知る。 (3)わたしたちのできることを考える	

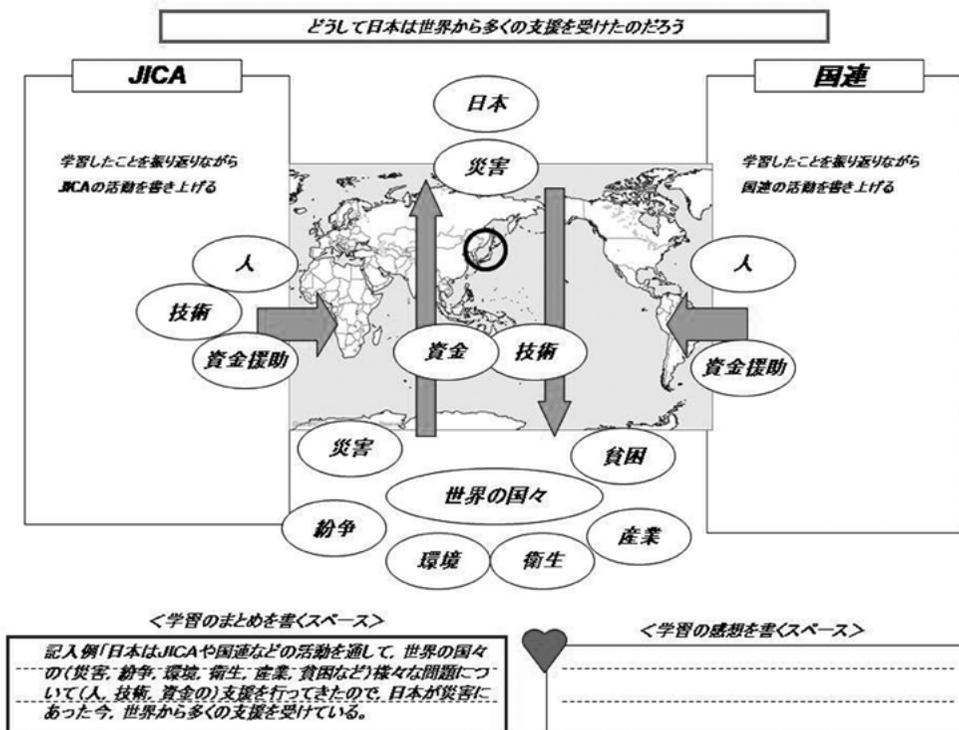
※必要に応じて使用教科書・使用副読本を使用

<p>参考資料</p> <p>【書籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい社会 6下」東京書籍 <p>【インターネット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外務省 世界が応援団」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/pamph/ouendan.html ・「外務省 諸外国等からの物資支援・寄付金一覧」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/pdfs/bussisien.pdf ・「外務省 ベトナムの日本支援写真」 http://www.flickr.com/photos/mofaj_tohoku/sets/72157626405719464/ ・「外務省 ベトナムのエピソード集」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/episode/episode03.html#vietnam ・「日本赤十字社 海外救援金受付状況」 http://www.jrc.or.jp/vcms_lf/kaigaikyuenkin_uchiwake_131101.pdf ・「JICA ベトナム事務所」http://www.jica.go.jp/vietnam/office/ ・「JICA の仕事」http://www.jica.go.jp/aboutoda/whats/ku57pq00000n65da-att/work.pdf ・「国連キッズ」http://www.unic.or.jp/kids/



【ベトナムボランティア配置】 JICA ベトナム事務所ホームページより

【2時ワークシート】



【6時ワークシート】

ベトナムと日本のつながり

広島市立高南小学校

担当教科：全教科

齊藤 明子

実践教科：図工・道徳・総合 対象学年：小学4年生・小学5年生 対象人数：4年生24人・5年生22人

■実践の目的

- ・ベトナムの文化や風習に触れることを通して、ベトナムや外国に関心を持つ。
- ・ベトナムで働く日本人の活躍を通して、日本の技術の素晴らしさに気付く。
- ・青年海外協力隊員の思いやJICAの活動について知ることを通して、国際協力への関心を高める。
- ・ベトナムと日本のつながりを通して、日本も他の国と支え合っていることを知る。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	ベトナムの友だちにプレゼントを作ろう！ (図工) ・ベトナムに興味や関心を持つ	(1)ベトナムの子どもたちに伝えたい一字を考えて、習字で書く (2)ベトナムの子どもたちに、日本や広島の様子が伝わるようなカードを作る	(2)原爆ドーム・厳島神社など広島の写真 画用紙・折り紙・のり
3	「世界発 日本行き」 (道徳) ・日本の文化や技術が世界に広がっていることに気付き、大切にしようとする心情を養う ・日本とベトナムにはつながりがあることを知る	(1)ベトナムの子どもたちにプレゼントを作ったことを思い出す (2)日本のどんなところを紹介したいか考える。 (3)「日本発 世界行き」の話を読み、こうした気持ちを想像する (4)ベトナムの紹介を聞き、日本の技術や文化が広がっていることを知る (5)感想を書いて発表する	
4 5	ベトナムと日本の似ているところと、似ていないところを見つけよう！ (総合) ・ベトナムと日本の似ている点や違いを見つけることで、ベトナムの文化に触れたり、日本の文化に気付いたりする。	(1)写真を見て、ベトナムと日本が似ているところと、似ていないところを見つけ、ノートに記録する	ベトナムの地図 ベトナムでとった写真 ベトナムで買った漫画 ノート

6 7	ベトナムに会社をつくらう！（総合） ・ベトナムで働く日本人の想いに触れ、自分たちがベトナムで会社を作るとしたらどんな会社を作りたいかを考える ・東日本大震災のときのベトナムからの支援の話聞き、日本もベトナムに支えられていることに気付く	(1)アオザイや民族衣装、ベトナムのお金などにふれる。 (2)写真から見つけた、ベトナムと日本の似ているところや、にっていないところを発表する。 (3)ベトナムで働く日本人のやりがいを知る。 (4)ベトナムに会社を建てるとしたら、どんな会社を建てたいかについて、グループで話しあう。 (5)考えた会社について、画用紙にまとめる。 (6)発表の練習をする。 (7)班ごとに発表する。 (8)東日本大震災の時に、日本が受けた支援について知る。 (9)今日の授業の感想を書く。	画用紙、ペン パワーポイント ワークシート(資料2)
8	青年海外協力隊員の話聞こう（総合） ・JICAの活動を知る ・国際協力への関心を高める	(1)青年海外協力隊員の話聞く (2)お礼の手紙を書く	ノート 手紙
9 10	学んだことを新聞にまとめて発表しよう（総合）	分かったことを新聞にまとめて、発表する	新聞

■この授業に注目！

3時間目 道徳「日本発 世界行き」

ねらい

- ・日本の文化や技術が世界に広がっていることに気づき、大切にしようとする心情を養う。
- ・日本とベトナムにはつながりがあることを知る。



プレゼントを作っている様子

学習活動	支援・方法	児童の姿・反応
1 ベトナムの子供たちにプレゼントを作ったことを思い出す。ベトナムの子どもたちへ届けられたことを知る	・パワーポイントを進めていく ・図工で作っているときの写真、日本からベトナムへの地図、学校の写真、ベトナムの子供たちの写真を見せる	・なつかしい ・ぼくのカードはどんな子がもらってくれたのかな ・ベトナムって細長い国なんだね ・日本の子どもとちょっとにている感じがする

<p>2 ベトナムの人に、日本のよさを伝えようと思ったら、どんなことを紹介したいか考える</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・和食 ・すもう ・もみじまんじゅう ・原爆ドーム
<p>3 「日本発 世界行き」の話を読み、主人公「こうた」の気持ちを想像する</p>	<p>副読本を配布し、読み聞かせをする (この話は、主人公の「こうた」が、始めは外国にはあまり興味をもっていないが、外国調べで、日本の漫画や食べ物が世界に広がっていることを知って、外国に興味をもつ話である)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムで購入した「ドラえもん」、「クレヨンしんちゃん」、「コナン」の漫画を見せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こうた」は、始めは外国を調べることはあまり興味がなかったけど、ドラえもんがあったり、カップラーメンのことを知って、もっと知りたいと感じたのではないかと思う ・私も初めて知ってびっくりした ・カップラーメンは日本が発祥の地なんだね ・ベトナムでも、日本の漫画は人気なんだ ・読めるかな、読んでみたいな
<p>4 ベトナムの紹介を聞く</p>  <p>ドラえもんのぬいぐるみ</p>	<p>「私がベトナムで見た、日本発 世界行きだったものを紹介します」という流れから、日本とベトナムのつながりのあったものを紹介していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムでも、日本のアニメは人気であることを紹介する ・ベトナムで出会った大学生の中にも、日本のアニメが大好きで、日本に興味を持ち始めた人もいたことを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラえもんだ! ・ちょっと違うような気がする。面白い ・日本の漫画アニメってベトナムでも人気なんだね
 <p>日本の車やバイク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の車やバイクがたくさん走っていたことを紹介する ・バイクの方が多い理由を考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイクの方が多い ・マスクをしている人が多い ・右側を走っている ・ヘルメットをしていない人がいる ・3人乗りや4人乗りの人がいるよ ・バイクの方が安いからかな、車は高いから少ないのかな
 <p>ノイバイ空港を建設している日本人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノイバイ空港を今、日本の会社が建設中であることを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港を日本が作っているのはどうしてだろう ・空港ができれば、たくさんの人がベトナムに来てくれるね

 <p>人を助ける技術</p> <p>作業療法士として活動する G 隊員</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が通じないのは、大変だっただろうね、すごい ・元気になる患者さんがたくさんいたんだね
 <p>橋や道路を作る技術</p> <p>ニャットン橋</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や橋の中には、日本の支援で作っているものもあることを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本って道路や橋を作るのが得意なんだね ・日本の橋と似ている ・川の水が茶色だ
 <p>下水道を作る技術</p> <p>下水道局に勤める下水道職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で勉強した下水のことに触れ、ベトナムの下水道局に務める職員を紹介する ・ホーチミンにも、まだ約7%しか、下水が整っていないことに触れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・下水がないところがあるんだ ・川や海が汚れていくね ・日本には下水道が整っていることは、すごいことなんだ
 <p>フマキラーの工場視察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・蚊が多いベトナムでは、フマキラーの会社があり、ベトナムの環境に合わせた商品を作っていることを紹介する ・蚊を媒体として感染する恐れのある、マラリアの話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・蚊に刺されることで病気になることがあるなんて、怖い虫除けの対策が大切なんだね ・日本の蚊取り線香では、効き目がないんだ ・国の環境に合わせたモノをつくるんだね
 <p>日越友好列車</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日越友好が40周年であることを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国旗があるよ ・ベトナムと日本は仲が良いんだね ・40年間も交流があるんだ ・きっかけは何だったんだろう
<p>5 感想を書いて、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・びっくりしたことや、不思議に感じたことなど書かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと知りたい ・ベトナムに日本人がたくさん働いていることを初めて知った

〈児童の反応〉

- ・ベトナムと日本は仲良しということがわかりました。
- ・ベトナムに日本の国旗があっぴびっくりしました。下水や空港の話聞いて、理由がわかりました。
- ・日本は色々発達しているの、日本人が教えてあげていることがわかりました。40周年と知って、びっくりしました。
- ・ベトナムでも日本のものをいっぱい使っていることがわかりました。
- ・車やまんがなど、日本の物が多くてびっくりしました。
- ・ベトナムの国は、日本人に色々なことを教えられて助けられているんだなと思いました。
- ・日本のマンガは有名なんだなと思いました。
- ・日本の技術は色々な国に広がっていることがわかりました。
- ・日本のアニメは色々な国の言葉で広がっているんだなと思いました。
- ・日本は色々な国のお手本なんだなと思いました。
- ・ベトナムと日本と一緒にがんばろうと言ってから、もう40年もたっているなんて、とてもびっくりしました。少し外国に興味がわいてきました。
- ・ベトナムの人は、日本人に「ありがとう」という気持ちかもしれないと思いました。

〈所感〉

参観日の授業で、児童は少し緊張していたが、ベトナムの写真を見ると、目を輝かせて授業に参加していた。最初のドラえもんぬいぐるみやバイクの写真を見て、気付いたことをたくさん発表した。空港や、下水道の話は少し難しいかもしれないと思っていたが、「下水」の勉強は4年生の社会で勉強しており、下水道が整っていないとどんな困ったことが起こるか、話をしながら写真を見せた。子どもたちは、「なかったら大変」、「くさくなる!」、「川がよごれて病気になるかもしれない」など学んだことから考えていた。話をしながら、日本人が技術を広めていることの必要性を、理解した様子であった。感想の中に、「日本ってお手本なんだ」という感想を持った児童がいたが、普段自分たちの生活を客観的に考えることがない児童にとっては、ベトナムでの暮らしを知ること、日本での生活をふり返ったり、日本の技術の素晴らしさを知ることにもなったのではないだろうか。

4・5時間目 総合「ベトナムと日本の、似ているところと似ていないところを見つけよう！」

ねらい：ベトナムの写真を見て、日本との違いや似ている点を見つけることで、ベトナムへの関心を高める。

方法：ベトナムの様々な写真を見せて、気づいたことをノートにメモさせる。

〈児童の反応〉



似ているところと、似ていないところを
絵と言葉でまとめている児童のノート

児童のノートより

日本と似ている	日本と似ていない
<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯テーブルを囲ってみんなで食べている。 ・はしでご飯を食べる。 ・自然がいっぱい。 ・米を食べている。 ・田んぼがある。 ・タクシーがある。 ・テレビがある。 ・ホテルがある。 ・結婚式にドレスを着ている。 ・きれいな橋もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモックで寝ている人がいる。 ・バイクが多い。ヘルメットをしていない人がいる。 ・バイクに3人乗りや4人乗りをしている。 ・電線が絡まっている。 ・マスクをしている人が多い。 ・村がたくさんある。 ・色んな民族がいる。 ・村で、熱が出た時は薬草をあつめて薬にしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・昔の日本に似ている。 ・顔が似ている。 ・川沿いに家がある。 ・信号機の色が同じ。 ・猫や犬がいる。 ・コンビニがある。 ・花が咲いていて、沖縄の花に似ていた。 ・おしゃれな人が多い。 ・キングマンダリンという、はっさくに似た果物がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上靴をはいていない。 ・1年生から英語を勉強している。 ・ごみがいっぱい落ちている。 ・平均年齢が27才で、若者が多い。 ・水上マーケットがある。 ・蚊の中には、危険な蚊がいる。 ・床が高い。机がひくい。間取りがない。 ・水道水が飲めない。 ・川で洗濯をしている。川にゴミをすてている。 ・川の色が茶色い。 ・校長先生が女性。 ・フォーといううどんみたいな食べ物がある。 ・道路で、畑でとれたものを売っている。

〈所感〉

・前時は写真をしばってベトナムと日本のつながりを紹介したが、今回は色々な写真を見せるようにした。「学校で上靴をはいていないね」、「あの食べ物はどんな味？」とこちらが予想していなかった反応がたくさん見られた。違いを見つける方が簡単で、児童は似ていないところをたくさん見つけていた。「ごみがたくさん落ちていること」と、「水道水が飲めない」ということに驚いていた感想が多かった。

6・7時間目 総合「ベトナムに会社を作ろう！」

ねらい：

- ・ベトナムに貢献できる会社を考える活動を通して、開発途上国の課題に気付き、主体的かつ創造的に課題に取り組む態度を育てる。
- ・日本も世界の国々から支えられていることに気付く。

学習活動	支援・方法	児童の姿・反応
<p>1 アオザイや民族衣装、ベトナムのお金、ベトナムの遊び（ダーカウ）に触れる</p>  <p>ベトナムのお金を見る児童</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで進める ・民族衣装を児童に着させる ・ベトナムのお金を班ごとに配り、触ったり見たりさせる ・ダーカウを体験する 	<ul style="list-style-type: none"> ・色がとてもきれい。刺繍がきれいだね ・涼しそう ・お金に同じ人がうつっているね。透明のところがあるよ ・ダーカウをやってみたいな、おもしろそうだ
<p>2 前の時間に写真から見つけた、ベトナムと日本の似ているところや、似ていないところを発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間に見つけたことを発表させ、板書する 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんあるよ ・発表したい
<p>3 ベトナムで働く日本人のやりがいを知る</p>  <p>下水道局に勤める F さん</p>  <p>病院に勤める 青年海外協力隊員の G 隊員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムで活躍している日本人が、どんな思いで働いているのか紹介する ・1人目（下水道局の F さん） 「ありがとうと言ってもらえること。20年間頑張ってきたことを生かせることです」 ・2人目（青年海外協力隊員の G さん） 「患者さんにありがとうと言われること。一緒に働いている人に、あなたがいてくれてよかったと言われることです。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で勉強したことを、ベトナムで生かすことができるんだね ・2人とも「ありがとう」といわれることが嬉しいというのが共通しているね

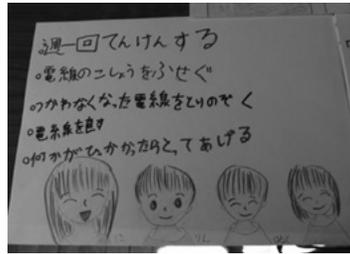
<p>4 ベトナムに会社を建てるとしたら、どんな会社を建てたいかについて、グループで話し合う</p> <p>ベトナムの人に「ありがとう」と言われるような会社を、班で考えてみよう！</p> <p>①会社の名前(〇〇会社) ②仕事 ③その会社を作りたい理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の技術がベトナムでも役立っていることに触れ、もし、ベトナムで会社を建てるとしたら、どんな会社を建ててみたいと思うか、考えさせる ・まずは自分でどんな会社があったらよいと思うか、ワークシートに記入してから班で話し合い、班で一つの会社を考えさせる ・日本が得意なこと、ベトナムの人が困っていそうなこと、ベトナムにとっても日本にとってもためになる会社など、どのような発想でもよいことを示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしようかな ・ごみがたくさんおちていたから、ごみ箱会社はどうか ・電線がからまっていた写真があったよね。電線をきれいにする会社があったらいいな
<p>5 考えた会社について、画用紙にまとめる</p> <p>6 発表の練習をする</p> <p>7 班ごとに発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を3枚ずつ配布する 1枚目 会社名 2枚目 仕事内容 3枚目 理由 ・マジックで書かせて、発表の練習をさせる 	
<p>8 東日本大震災の時に、日本が受けた支援について知る</p> <p>東日本大震災 2011年3月11日(日) 14時46分(東標) 震元による死者・行方不明者は18,524人 2012年11月14日時点の避難者数は277万7,609人とされている</p> <p>163か国・地域及び43国際機関から支援の申し出があった。</p> <p>ベトナムの人たちも、日本へたくさんの支援や、応援メッセージを送ってくださいました</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の時に、何か国から、日本を支援したいという申し出があったと思うか、問いかける ・外務省のホームページから、外国からの支援について話す。その中で、ベトナムからもたくさんの支援があったことを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・3か国くらいかな ・10か国くらいかな ・そんなにたくさんの国が、助けてくれていたんだ ・日本も助けられているんだ ・たくさんのベトナムの人も、支援してくれたんだね
<p>9 今日の授業の感想を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とベトナムのつながりを学んで、どんなことを感じたか、感想を書かせる 	

〈児童の反応〉

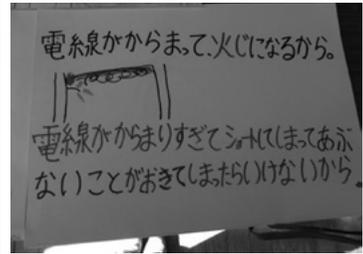
・ 5班が画用紙にまとめたもの



会社の名前



仕事内容



作りたい理由

○児童が班で考えた会社

班	会社の名前	仕事内容	理由
1班	Japanのおかし	<ul style="list-style-type: none"> ・ おかしをベトナムや外国に届ける ・ 日本のおかしの作り方を教える ・ 日本のおかしを作って売る ・ 日本のおかしを広げる ・ 日本のおかしをベトナムで売り、日本のおかしの味を知ってもらう ・ 日本のおかしをベトナムでアレンジして売ってもいい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本がベトナムにいろんなことを教えたり伝えたりしていて、日本のおかしもベトナムで広げたいから
2班	リバークリーン会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水をきれいにする ・ 川にあるごみをとったりして、川をきれいにする ・ ごみをすてないなどを呼びかける看板をたてる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水をきれいにして、少しでも飲めるようにしたいから
3班	ごみ箱会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ箱を作る ・ そのごみ箱にごみを捨ててもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみがたくさんあるから ・ ごみ箱を作って、ごみを減らしたいから ・ ベトナムをきれいになりたいから
4班	交通ルール会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路に立って、3人のりや4人のりをしているバイクの人に、注意をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイクで4人乗りは危ないから
5班	ゴミしより会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターを配って、種類ごとに分けてもらって、曜日にそのゴミをとりに行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっておいたらごみがふえるから
6班	あしひか電線局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電線の故障をふせぐ ・ 週一回電線の点検をする ・ 使わなくなった電線をとりのぞく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電線がからまっていて、火事になるかもしれないから ・ 火事が起こらないようにしたい

(その他の個人のアイデア)

- ・ かさ、ぼうしを作る会社・ソーラーパネル会社・くつを作る会社・スタジアムを作る会社
- ・ ゲーム会社・浄水場・自然守り会社・清掃工場 など

児童の感想

- ・会社を考えてみて、本当にこんな会社があったら、ベトナムの人は助かるだろうなと思いました。
- ・東日本大震災のときには、日本は色々な支援をしてもらえるとすることは、他の国とも仲がいいからだと思いました。
- ・日本に色々な国の人たちが、支援をしてくれていて、すごいと思いました。国々が一つになっていると思いました。
- ・これからも他の国とも仲良くなしてほしいです。
- ・ほくも、ベトナムに会社を作って、ベトナムの人の役にたちたいです。
- ・163か国地域の人が、支援をしてくれていることをしてびっくりしました。
- ・子供がお年玉を全部寄付してくれた話を聞いて、ベトナムの人は、日本の事を家族みたいに思っているのかなあと思いました。寄付をしてくれてありがとう。

〈所感〉

本学級の児童は学校生活の中で、係活動を「会社」として、学級の仕事をしています。社長が存在し、クラスのためになる仕事内容を自分たちで考えて、自発的に活動をしている。積極的に学級の仕事に取り組んでいる様子を見て、今回の授業も「会社を作る」という能動的な活動を取り入れる事で、児童はベトナムの国について主体的に考えることができるのではないかと考え、このような展開にした。「もしベトナムに会社を作るとしたら、どんな会社を作りたいか」と質問すると、すぐに何人もが手を挙げた。班での話し合いになってからも、児童は「何が必要とされているだろうか」、「困っていることは何だろうか」と、ベトナムに思いをよせて話し合っていた。考えの拠り所は、前時で見せたベトナムの写真の印象だった。考えが広がるかどうか少し心配していたが、思っていたよりも児童は柔軟に発想し、面白い意見もたくさんでた。

反省点として、授業では開発途上国や貧困の話は丁寧にできずに、今回の授業になってしまったという点である。もう少し、開発途上国の厳しい現状も踏まえた上で考えさせると、もっと色々な発想ができたかもしれない。

最後に、東日本大震災での外国からの支援の申し出のを取り入れたのは、日本も多くの国々に支えられていることを、知ってもらいたかったからである。震災については、簡単にしか触れなかったが、児童は真剣に話を聞き、日本も多くの国から支えられていることを知ることができたようである。

5年生での授業（1時間 道徳「日本発世界行き」）

ねらい

- ・日本の文化や技術が世界に広がっていることに気付き、大切にしようとする心情を養う。
- ・日本とベトナムにはつながりがあることを知る。
- ・日本も世界の国々から支えられていることに気付く。

展開

パワーポイントを活用する。4年生の3時間目と6・7時間目で使用した写真を組み合わせ、45分間で授業を行った。

- (1)ベトナムの文化に触れる
- (2)ベトナムの概要を知る
- (3)道徳の「日本発 世界行き」の話を聞く
- (4)ベトナムでみた日本とのつながりの写真を見る
- (5)東日本大震災でのベトナムからの支援を知り、日本も支えられていることを知る
- (6)感想を書く

〈児童の反応〉

- ・ 色々な話を聞いて、ほくは、日本の技術で他の国に貢献しているという話を聞いて、日本ってすごいなあと思いました。それに、日本が外国に貢献しているだけではなく、日本が災害などにあった時、外国が支援してくれているということを知って、日本は愛されていていい国だなあと思いました。日本とベトナムみたいに、他の国ともめめたりせず、他の国にも貢献したりされたりしていけばいいなあと思いました。
- ・ 日本人は、外国でも大活躍しているなあと思いました。日本の技術はすごいと思いました。
- ・ 私はベトナムと日本の関係を初めて知りました。日本の技術がベトナムの中で愛されていることが分かり、とても嬉しい気持ちになりました。そして、東日本大震災の時に、ベトナムの人々がたくさん支援して下さったのを知って、ありがたいなあと思いました。これからも、ベトナムと日本の関係が続いてほしいと思いました。

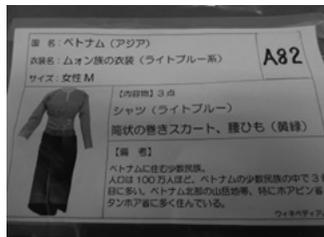
〈所感〉

授業をしてみて驚いた。4年生と5年生では、やはり感じる視点が違った。45分という短い時間だったため、伝える事で精一杯になってしまったが、5年生の児童はしっかりと話を聞いて、考えていた様子だった。感想を読むと、どの児童もベトナムと日本とのつながりをよく考え、感じたことを書いていた。

全体を通しての成果と課題

①ベトナムの文化や風習に触れ、ベトナムや外国に関心を持つ。

私が想像していたよりも、児童はベトナムに興味を持って話を聞いていた。「ベトナムの人たちは今頃お昼寝の時間かな」と、ベトナム人の生活のことをふと考えている児童もいた。授業では、写真だけではなく、実際のベトナムのものに触れることで、より興味を持って授業に参加できていた。個人の物としては、アオザイ、マンガ、教科書、インスタントのフォー、モー村の民族衣装や巻物、お金などを児童に紹介し、触れることができるように教室に掲示をした。また、JICA 中国からもベトナムグッズをお借りした。ダーカウ（バドミントンの羽のようなもの）は休憩時間を使って遊び、楽しくベトナムの遊びに触れることができた。貸し出しグッズを今後も活用して、本物に触れさせていきたい。



ムオン族の衣装、布→子どもに着させたり触らせたりした。
色がとても鮮やかで子どもたちも驚いていた。

JICA 中国のベトナムセット

- ・ ムオン族の民族衣装
- ・ 写真ファイル
「食」「街」「村」「モノ」
- ・ 世界地図 (ベトナム語)
- ・ 布 2枚
- ・ マンガ 2冊
- ・ ダーカウセット



写真ファイル 4冊
写真には説明も付け加えてある



ダーカウのセット
大休憩に遊んだ。子どもたちは大喜び。

②ベトナムで働く日本人の活躍を通して、日本の技術の素晴らしさに気付く。青年海外協力隊員の思いや JICA の活動について知り、国際協力への関心を高める。

児童は、日本人がベトナムで色々な仕事をしていることに、驚いた様子だった。日本の道路や橋

を作る技術、医療、下水道を作る技術などを伝えるために、日本人が活躍していることを知って、児童は初めて、日本の技術の素晴らしさを知った様子であった。「人」に焦点を当てて、授業を展開していった点が、良かったと感じている。児童は、「この人はどんなことをしているんだろう」と興味をもって話を聞いていた。また、自分の持っている技術や、学んできたことを生かして、ベトナムの人のために活動していることを知って、児童は尊敬の念を持った様子であった。活動している思いを聞いて、「すごいな」と感じている様子だった。

③日本もベトナムも、他の国と支え合っていることを知る。

ベトナムの小学校の先生が、「東日本大震災の時に、私たちが皆、1日分の給料を日本へ寄付したのです」と話を聞き、このことは必ず子どもたちに話そうと思っていた。そして、外務省のホームページを見て驚いた。こんなにもたくさんの国々から、支援をしてもらっていたことを、恥ずかしいことに私は知らなかったからである。子どもたちも、初めて知った様子でとても驚いていた。日本も、他の国から支えられていることを知ったのではないだろうか。

全体を通して、子供たちがベトナムに関心を持って授業に臨んでいたことが、大きな成果であると感じた。課題としては、開発途上国の現状や貧困にまで、話を広げられなかったことである。ベトナムの様子から、少しは感じた部分もあるかもしれないが、貧困の様子についても授業でとりあげたかった。4年生では少し難しいかもしれないと考えたのだが、ふり返ってみると、会社を考える活動をする前に、その事について丁寧に触れて、今のベトナムがあることにも触れたらよかったのではないかと思う。また、「会社」を考えることでベトナムについて主体的に考えることができたが、実際の行動にはつながりにくい活動であった。そのあと、自分たちに実際にできることをやってみるなど、発展的な活動を取り入れられたらよかったかもしれない。

5年生のクラスで授業をしたときに感じたのは、今回の4年生に行った内容では、高学年では物足りないかもしれないと思った。国際理解教育は、学年の発達段階に応じて取り組んでいく必要がある。低学年であれば、楽しくベトナムの遊びをしたり、クイズをしたりするだけでも十分かもしれない。どの学年でも工夫して取り組めるのも、国際理解教育の楽しみの一つであると感じた。ベトナムの写真や、今回の授業の様子を図書室に掲示し、他の学年の先生や児童にも知ってもらえるようにしようと思う。

この度の実践で、ベトナムの文化に触れたり、日本人に焦点を当て、ベトナムとのつながりを考えたことで、改めて日本のことを知ることができることが分かった。「国際理解教育は、自己理解である」と、今回の研修を通して教えて頂いたが、本当にその通りだった。子どもたちは「もっと知りたい」「見てみたい」と、高い関心を持って授業に参加していた。その期待に少しでも答えられるように、小学校での国際理解教育の実践を今後も重ねていき、「自己理解」につながるよりよい授業を研究していきたい。

参考資料

【書籍】

- ・ みんなで考える道徳4年 株式会社日本標準
- ・ タビトモベトナム JTB パブリッシング

【インターネット】

- ・ 外務省 渡航関連情報 世界の医療事情
マラリア <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/kakuron02.html>
- ・ 外務省 「がんばれ日本！ 世界は日本と共にある」(世界各地でのエピソード集)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/episode/episode03.html>
- ・ 外務省 東日本大震災 ..
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/shien.html>

わたしたちにできること～世界に目を向けよう～

安来市立母里小学校 担当教科：全教科 正岡 喜美

実践教科：総合・社会 対象学年：小学6年生 対象人数：11名

■実践の目的

- ベトナムのことを知る活動を通して、異文化を感じ、世界に目を向ける。
- ベトナムと日本が文化や経済などの面で関わりが深いことを通して、開発途上国と日本とのつながりに気づき、開発途上国の貧困問題について考える。
- ベトナムで活躍する日本人の活動を通して、国際協力や国際交流において、日本や日本人が大きな役割を果たしていることに気づくとともに、自分にできることを考えて行動しようとする。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 2 3	ベトナムってどんな国？ ・ベトナムのくらしや文化について関心をもつ	(1)ベトナムについて知っていることやイメージを発表しあう（プレーストリーミング） (2)写真や実物を使って、ベトナムクイズ大会をする (3)ハス茶やフォー、ベトナムのお菓子を食べてみる	ワークシート 写真、ベトナムのお土産 ハス茶、インスタントフォー、ベトナムのお菓子
4 5		(1)ベトナムについてわかったこと、もっと知りたいことを確認し、もっと知りたいことについて調べる (2)ベトナムコーナーをつくって、全校のみんなにベトナムを紹介する	写真 ベトナムについての図書資料、ガイドブック
6	貧しさから生まれる問題 ・貧困について考える	(1)「少年の後姿」を読んだり、ベトナムに対する意識（貧富の差がありそうな気がする）について考えたりしながら、貧しさに目を向ける (2)貧困についての派生図を作成し、貧困の原因や困難なこと（貧困の状況）について考えを出し合う (3)派生図から、貧困によって生まれる困難なこと（貧困の状況）を整理する	「少年の後姿」 ワークシート
7	世界はどうなってる？ ・世界の貧困の現状を知る	(1)ワークショップ「世界がもし、11人の村だったら」を体験し、世界の貧困の現状について知る (2)開発途上国にはどんな国があるかを考える	『世界がもし100人の村だったら』、新聞紙、ビスケット（11枚）、ワークシート、世界地図(DACの援助受取国)

8	世界とつながるわたしたちの生活 ・開発途上国と私たちの生活にはつながりがあることに気づく	(1)わたしたちに身のまわりにあるモノについて、日本から遠く離れたアフリカとのつながりがあるか考える (2)わたしたちの生活がアフリカをはじめとする世界中の国々や地域からささえられていることに気づく	ワークシート【資料1】
9	気づく	(1)資料「どうなってるの？世界と島根県」を読む (2)自分たちの生活が開発途上国とつながっていることを話し合う	「どうなってるの？世界と島根県」
10	ぐるぐるまわる貧困の輪 ・貧困の状況同士がつながっていて、悪循環を生み出していることに気づく	(1)個人で、貧困状況カードを並べ替え、貧困のつながりを考える (2)できた貧困の輪をグループで見比べる (3)個人の力で貧困の輪から抜け出せるか、考える	貧困状況カード
11	貧困の連鎖を断ち切ろう ・貧困の連鎖を断ち切る方法を考える	(1)貧困の輪を見ながら、どうすれば貧困を減らすことができるか考える (2)貧困の輪のどの部分をどんな方法で断ち切ればよいかを説明し合う (3)「チョコレート」にまつわる途上国の問題についてDVDを見て、貧困の輪のほかにも貧困の状況は複雑につながっていることを知り、貧困を減らすために様々な方法があることに気づく	前時に作った「貧困の輪」 DVD「おいしいチョコレートの真実」 DVD「マシュー君のお話」
12	開発途上国で活動する人を探そう ・支援には様々な方法があることや活動している人の思いや願いを知る。	(1)ベトナムで活動している人を紹介する (2)それぞれの人たちの活動が、なぜ貧困を減らすことにつながっているのか、考える (3)ベトナムでの活動から、貧困を減らすために様々な方法があることを理解する	写真
13		(1)元青年海外協力隊の人の話を聞く	
14 15	世界で活躍する人々を探そう ・様々な人や組織が国際協力を行っていることを知る	(1)ベトナム以外の国々では、他にどんな人(団体)がどのような活動をしているのか、調べる ・ODA (JICA) ・NGO ・国連 ・民間企業	図書資料、パンフレット資料
16 17		(1)調べたことをグループごとに模造紙にまとめる (2)発表の準備、練習をする	

18	世界と日本をつなぐ ・それぞれの活動で、日本よさが生かされていることに気づく ・自分たちにできることを考える	(1)調べたことを発表し、聞きあう (2)話し合いを通して、国際協力の大切さや日本の技術や精神などが生かされていることについて考えを深める	
19		(2) これまでの学習を通して、自分に何ができるのか、これからの自分について考え、意見文にまとめる	

■この授業に注目！

1～5 限目 ベトナムってどんな国？

ねらい：ベトナムのくらしや文化について関心をもつ

まず、ベトナムについてどんなイメージをもっているのかを発表しあった。ベトナムから児童に絵はがきを送っていたので、その写真からのイメージとして「人が多くてにぎやか」、「昔ながらの家に住んでいて、自然がたくさん」など出てきた。ほとんどの児童がベトナムと日本につながりがあることを感じていなかった。

その後、ベトナムから送った絵はがきに書いていたクイズをしながら、ベトナムの紹介をした。

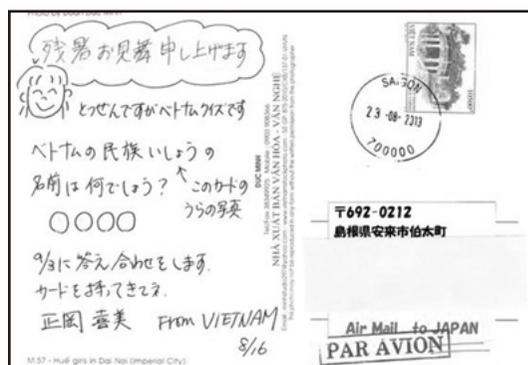
(クイズの例と紹介したこと) *クイズは全部で11問(児童数分)

- ・ベトナムの首都は？一番人口の多い都市は？-訪問した都市、ハノイとホーチミンを紹介
- ・ホームステイをした民族は？-少数民族がたくさんいること、モー村の紹介
- ・ベトナムでは何回お米がとれるでしょう？-米をよく食べる、フォー、メコン地域

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ベトナムにはすごくおいしいものがたくさんあることや、民族がたくさんいるということは意外でした。
- ・ベトナムも米が主食で同じなんだなと思った。
- ・フルーツの「ナ」というのが食べてみたい。他にどんな果物があるのか、調べてみたい。
- ・最初はあまりベトナムは知らないと思っていたけど、先生がいろいろしょうかいしていくうちに、あ、知ってるということがたくさん出てきてびっくりしました。

その後、ベトナムで買ってきたインスタントフォーや日本にあるお菓子と似ているお菓子(「おっとと」や「コアラのマーチ」のようなもの)を食べてみた。そして、ベトナムについて図書資料を使って調べ、教室の前にベトナムコーナーを作り、全校のみんなにもベトナムのことを知ってもらう活動をした。



ベトナムから送ったクイズ付はがき



ベトナムパーティで食べたもの

→ 日本のお菓子と似たようなパッケージにビックリしていた。下のお菓子は、日本のものよりもおいしいと評判で、すぐになくなってしまった。

↑ インスタントフォーボー、フォーガーを作って食べた。唐辛子を入れてしまい少し辛かったけれど、「おいしい」という人が多くいた。



ベトナムコーナー①：子どもたちが調べてまとめたことを掲示

→ おみやげの中では、竹とんぼが大人気。いつもだれかが、手に乗せて遊んでいました。



ベトナムコーナー②：ベトナム体験の紹介・おみやげを展示

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ベトナムパーティで食べたフォーはおいしかったです。お菓子も食べたけど、おいしかったので、日本とベトナムとは味の感覚が似ているのかなと思いました。
- ・初めはベトナムと日本は食べているものとか、くらしとかも全然違うかなと思ってたけど、けっこう調べていくと、仏壇やお寺など日本にもあるものや日本でもすることなどがあつた。

〈所感〉

ベトナムから送った絵はがきに書いておいたクイズの答えを調べてくる児童もたくさんいて、ベトナムに対する関心は高かった。写真だけでなく実物を手にとったり実際に食べてみたりすることで、ベトナムと日本とのつながりを感じることができた。さらに、ベトナムについて調べたことで、日本と似ている点や違う点を知ることができ、ベトナムという遠い国を身近に感じることができたと思う。この後、外国語活動と関連させて他の国についても調べ、世界と日本のつながりを知ることができた。世界に目を向けるきっかけとなる活動だった。

6 限目 貧しさから生まれる問題

ねらい：貧しさから起こる困難なことや貧困の原因を考える

まず、ベトナムの貧困問題を取り上げた話「少年の後姿」を読み、戦争によって貧しさが生まれることを考えた。そして、『ベトナムってどんな国？』の活動をした後のベトナムのイメージとして、「貧富の差がありそうだ」という意見をとりあげ、現在もベトナムは貧富の差があり、世界的にみると貧しい国（低所得国）であることを伝えた。

次に、貧しいことから様々な困難なことが生まれることその困難さがつながっていることを、グループで貧困マップ（派生図）を作りながら考えた。グループで作成した貧困マップは、隣のグループに回して見合った。このとき、自分のグループにはない視点にはシールを貼り、意見を共有した。



← グループで考えを出し合い、貧困マップを作成。

でき上がった貧困マップ →



〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ 貧しい人は、食べ物になかったり服になかったりして病気になってしまうことがわかった。
- ・ マップを見てみると、思っていたよりたくさんのが出て、「貧困」は一言で言えるけど、その中にはたくさん困ることがあって、すごく重い言葉だなと思いました。
- ・ 貧しい人たちは、生きることで精いっぱいだけど、ぼくたちはいろんなことができるから、貧しい人たちのために支援できることを考えたいです。
- ・ 貧しい人は、助けてもらえることがあんまりないから、貧しい人は減らないのだと思う。お金持ちの人が少しでも支援してあげたら、貧しい人も貧しくなくなるんじゃないのかな。

〈所感〉

「貧困」とは貧しいというだけではなく、貧しいことから様々な困難なことが生まれることやそれらの困難はまた次の困難を生み出すということに気づいて欲しいと思い、貧困マップ（派生図）づくりを行った。この活動によって、それぞれの困難さが複雑につながっていることに気づき、貧困問題は重大な問題であることを理解することができた。また、貧困問題を解決するためにできることはないかを児童もいた。この段階では、「支援」という言葉を使っているが、「支援＝寄付、物をあげる」と考えている児童がかなり多くいる。

7 限目 世界はどうなってる？

ねらい：世界の貧困の現状を知る

『世界がもし 100 人の村だったら』を参考に「世界がもし 11 人の村だったら」のワークショップを行った。

①男女比、子どもと大人の比を知らせる。

②各大陸を 1 つの国として、広さを新聞紙であらわし、みんなで並べる。

〈データ〉A 国（オセアニア）—1 枚、B 国（南アメリカ）—3 枚、C 国（北アメリカ）—2 枚、D 国（アジア）—4 枚、E 国（ヨーロッパ）—2.7 枚、F 国（アフリカ）—3.5 枚
大きさや場所を見て、すぐにそれぞれの国が各大陸を表していることに気づく児童がいた。

③各国に住む人数を発表。

〈データ〉A 国—0 人、B 国—0.5 人（1 人がいすに座る）、C 国—1 人、D 国—6 人、E 国—1 人、F 国—2 人

④栄養について、知らせる。

〈データ〉この中の 2 人、F 国の人は、栄養が十分でなく、1 人は死にそうです。そして、1 人、特に C 国の人は太りすぎです。

⑤世界の富を 11 枚のクラッカーとすると、どのように分けられるかを、実際に分けてみる。

〈データ〉C 国は 7 枚弱をもっている。A、B、D、E 国で 4 枚弱をもっている。そして、F 国はかけらを分け合っている。

1 枚ずつ数えながら C 国から配っていくと、「え〜」「もらいすぎ」という声があがった。

ワークショップでは、日本は D 国（アジア）に属することから、自分たち（日本）は貧しい国だと感じている児童がいた。

この後、「世界がもし 100 人の村だったら」をもとにしたワークシートを使って、宗教や言語、エネルギーや生活についての現状を確認した。そして、所得によって色分けされた世界地図を見て、日本は高所得国であることを知った。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・ほくは最初のワークショップで、F 国の人たちになりました。他の国は（富が）たくさんあるに、F 国はとても少なくて不公平だなと思いました。
- ・C 国の人はいっぱいクラッカーを持っていたのに、F 国の人はかけらしかなかったなあ。不公平だから、C 国の人があげたらいいな。
- ・はじめは日本はお金持ちじゃないと思っていたけど、資料を見ると、世界的にはお金持ちだったらびっくりした。「後発開発途上国」が世界にはこんなにあるんだと思った。
- ・最初は（日本は）お金がないと言ったけど、世界には、自分たちよりもお金がない人がいる。ベトナムも貧しい生活を送っていることがわかりました。開発途上国がいっぱいあってびっくりしました。
- ・アフリカの方の人たちがすごく困っていることがわかりました。ほく達は世界的にみたら、すごくめぐまれていたから、アフリカの人たちや貧困で困っている人たちに募金ができたらいいなと思いました。

〈所感〉

「100 人の村」を「11 人の村」にすると数値がかなり大まかなものになってしまったけれども、実際に体験することによって貧富の差があることが実感できた。

このワークショップで終わってしまうと、C国（北アメリカ）の人だけが裕福なイメージを持ったまま、そして、日本は裕福でない国のひとつだと勘違いしたままになってしまうので、実際はどうかを知らせるためにDACの援助受取国を表した世界地図を見せたことはよかった。日本が裕福な国だということや開発途上国がたくさんあることをはじめて知った児童が多くいた。自分たちは支援をする側だということが理解することができ、「自分たちにできることを考え、実行する」ことは大切だと感じる児童も多くいたと思う。

8・9 限目 世界とつながる、わたしたちの生活

ねらい：開発途上国と私たちの生活にはつながりがあることに気づく

『国際理解教育実践資料集（JICA 地球ひろば）p10～12』のワークショップ「私たちの生活とアフリカとのつながりを考える」を行った。

- ①たこ焼き、携帯電話、蚊取り線香、チョコレートなど日本人におなじみの18品目から、アフリカとつながりがあるものをグループで相談して選ぶ。【資料1】
- ②どんなつながりがあるのかを発表しあう。
- ③答えのプリントを見て、18品目すべてがアフリカとつながっていることを確認する。
18品目のうち、アフリカとつながりがあるものとして子どもたちが選んだものはチョコレートやダイヤの指輪、コーヒーなど3～4品目だった。18品目すべてがアフリカとつながっていることを伝え、「どうして？」と不思議そうにしていた。
- ④コラム「レアメタルが軍事資金に」を読んで、考えたことを発表する。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・身近に使ったり食べたりしているものがアフリカから輸入されているんだな。
- ・アフリカと日本がすごくかかわっているのがわかった。アフリカからすごく意外な物を輸入していて驚いた。
- ・アフリカの人たちは私たちの生活を豊かにしてくれているけど、自分たちの生活は苦しいままなんですごくもうしわけない。
- ・以前「チョコレートと青い空」という本を読みましたが、その中のセリフでアフリカの男の子が「チョコレート？そんなもの食べたことないよ」と言っていました。アフリカの人たちはチョコレートのカカオ豆を作っているのに食べられないのは、かわいそうです。
- ・ほくたちが使っている携帯電話やパソコン、ゲーム機などで使うレアメタルのことで紛争が起きているのは知りませんでした。
- ・少しでもレアメタルをとる量が減り、紛争がなくなしてほしいので、ゲーム機やパソコンなど大切に、長く使いたいと思いました。
- ・レアメタルはみんなが少しがまんすれば、紛争がなくなるのに……。

〈所感〉

前時の学習で開発途上国がたくさんあること、特にアフリカに多いことを知った。しかし、アフリカは児童にとっては未知の国で、自分たちとは関わりがないと感じている児童が多くいた。この学習をすることで、アフリカをはじめとする開発途上国が自分たちの生活とつながっていること、そして日本は世界の国々に関わりあっていることに気づくことができた。さらに、『どうなってるの？世界と島根県』の資料を読むことで、自分たちの住む島根県と開発途上国とのつながりがわかり、世界と関わっていることを自分のこととしてとらえていた。

コラムでは、レアメタルが紛争のきっかけとなっていることが説明されている。そのレアメタル

は携帯電話やパソコン、ゲーム機などに使用されていることから、自分たちの生活がアフリカの紛争の原因になっていることを知り、自分の生活を見直したりどんなことができるのかを考えるきっかけとなったりした。「物を大切に使う」ことはいつも話していることだが、自分のためだけでなくアフリカの人のためにも「物を大切に使う」ことは重要であることを自分なりに考えていたようだ。

10 限目 ぐるぐるまわる貧困の輪

ねらい：貧困の状況同士がつながっていて、悪循環を生み出していることに気づく

貧困の状況を表した7枚のカード（貧困カード）を使って、貧困の状況がどのようにつながっているのかを考えた。

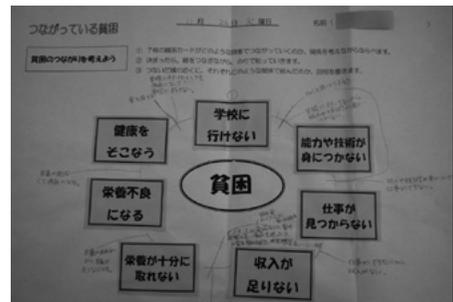
〈貧困カードの内容〉

収入が足りない、健康をそこなう、栄養が十分に取れない、栄養不良になる、学校に行けない、仕事が見つからない、能力や技術が身につかない

- ① 7枚の貧困カードがどのような順番でつながっていくのか、因果関係を考えながら並べる。
- ② 悪循環を文章で表現してみる。
- ③ 貧困のわが決まったらカードをのりで貼り、発表の準備をする。
- ④ 作成した貧困の輪をペア、全体で発表しあう。
- ⑤ 貧困の輪を作ったり友達の貧困の輪を見たりして気づいたことを発表する。

ほとんどの児童が、一番に「学校に行けない」を持ってきて、「能力や技術が身につかない」→「仕事が見つからない」→「収入が足りない」→「栄養が十分に取れない」→「栄養不良になる」→「健康をそこなう」→「学校に行けない」という貧困の輪を作成した。「収入が足りない」を最初に持っている児童も、流れはほぼ同じだった。

作成した貧困の輪の流れやつながりの根拠（理由）は自分と同じかを確認しながら、ペアで発表し合った。

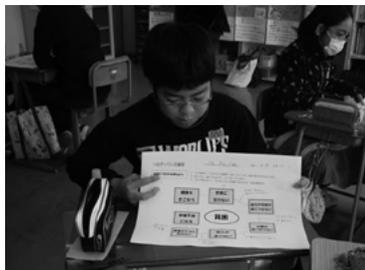


できあがった貧困の輪。
断ち切る方法（11 限目の活動）も記入済み

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・「ずっとぐるぐるつながっているんだな」と思った。どっかでその流れを止めないと、ずっと貧困の生活が続くんだな。
- ・7つの貧困カードは、全部つながるから、ひとつでもなくなってしまったら、このカードみたいにとんどんつながってしまうのかなと思った。
- ・貧しい人たちは、お金がないから食べ物も食べられず病気になりやすい。病気にしないためにはどうすればいいのかなと思いました。
- ・今日やった「学校に行けない」、「収入が少ない」などのほかにもいろいろと原因があるんじゃないかなあと思います。例えば「きれいな水が飲めない」とか。そういう人たちのためにこれから何ができるのかを考えてみたいです。
- ・一つのことでもとんどん困ったことになってしまうのがわかりました。貧困になってしまった人は、そのまま貧困から抜け出せないのかなあとと思いました。貧困で困っている人のために、自分たちに何ができるのかなと思いました。

- ・ほくは「学校に行けない」から始めたけど、同じところから始めた人もつなげた理由などが自分とちがっていて、その理由もいいなと思いました。みんな、貧困の輪をちゃんと理由をもって作っていてよかったです。
- ・だいたいみんな同じ輪だったけど、ちょっとちがう複雑な人がいて、いろいろな考えの人いるなと思った。



作成した貧困の輪は、ペアや全体で発表しあうことで、考えが深まった

〈所感〉

ペアや全体で発表しあうことを通して、流れは同じでもつながりの因果関係が違っていたり、一つの輪でなくいろいろな方向につなげている児童がいたりして、貧困の状況が複雑に関わりあっていることがよくわかる活動だった。

「栄養が十分にとれない」と「栄養不良になる」が同じような内容だったため、混乱した児童がいたので、どちらかひとつにすればよかった。7つの状況だけでなく、他の状況（原因）も考える児童もいたので、カードの枚数や内容については検討が必要だと感じた。

貧困の状況がつながっていることや悪循環を生み出していることに気づくだけでなく、さらに、自分たちができることは何かを考えようとしている児童が多くいたので、次時の学習へとつなげることができた。問題や課題が明らかになった時に、その問題をそのまま放っておくのではなく、どうしたら解決できるのかを考えようとしていたり自分のこととして捉えたりする姿勢が見られ、うれしかった。

11 限目 貧困の連鎖を断ち切ろう

ねらい：貧困の連鎖を断ち切る方法を考え、様々な方法があることに気づく

まず、自分で作った貧困の輪を見ながら、どの部分にどんな方法で断ち切ればよいのかを考え、ワークに書き込んでいく作業を行った。このとき、単純に「学校を建てればいい」、「物をあげればいい」ということにならないように、2つのつながりを断ち切ることが出来なければいけないことを説明した。（学校を建てることは、「健康をそこなう」→「学校に行けない」の関係は断ち切れない。なぜなら、学校があっても健康でないと学校に行けないから。では、どうしたらよいか？）

その後、グループで意見を出し合い、考えを広げる活動を行った。このとき、考えた方法は本当によいか（矛盾していないか）をお互いアドバイスしあった。

〈児童の反応〉

- ・友達と話をしたら、自分が考えられなかった方法も出てきた。
- ・どんな方法があるのか、あまり思いつかなかった。
- ・技術を教える人がいるのは、いいなと思った。

前時の感想でもあったように、貧困の状況は複雑につながっているし、状況も7つだけでない。貧困は複雑につながっていることや様々な人の協力が必要なことを知るために、「チョコレート」にまつわる途上国の問題について DVD を見た。

〈DVD の内容〉

○ 「おいしいチョコレートの真実」

- ・ チョコレートに関するクイズ
- ・ 「ガーナの生活」 - 農村での暮らし、学校の様子
- ・ 「カカオの生産の様子」 - 収穫作業の様子、子どもが行う作業
- ・ 「児童労働の背景」 - 貿易の仕組み、世界で作られる換金作物
- ・ 「児童労働をなくす取り組み」 - 産業の取り組み、フェアトレード

○ 「マシュー君のお話」

コーヒーの生産に関わる農家の生活の様子、コーヒーの不平等な取引、フェアトレードのことについて、小学生のマシュー君が説明している。

〈児童の反応〉

チョコレートは子どもたちの大好きなお菓子であり、8限目「つながっている、開発途上国とわたしたちの生活」でもチョコレートのことを話していたので、とても興味深く DVD を見ていた。

全員の児童が「フェアトレード」について初めて知った。フェアトレードの商品があることが紹介されたが、見たことがないようで、反応があまりなかった。

〈所 感〉

これまでの児童の反応や感想では、「支援」は寄付や募金をするなど「お金をあげる」と考えていた児童が多かったが、今回の学習をすることによって、具体的に「食糧をあげる」「葉を届ける」などの意見が出てきた。そして、「能力や技術を教えてあげる」という方法も出たので、子どもたちの「支援」の幅が広がったと思う。

「おいしいチョコレートの真実」の DVD は、「貧しい」→「働かないといけない」→「学校に行けない」→「知識がない」→「安く働かされる」→「貧しい」という悪循環についてよくわかる内容だった。カードを並べて理解するだけでなく、実際にその貧困の輪の中にいる人たちの生活の様子を見ることができ、今現在、世界の国で起こっていることだということを認識できたと思う。

フェアトレードという支援もあることを知ってもらおうと「マシュー君のお話」も見したが、児童にとっては盛りだくさんの内容だったかもしれない。フェアトレードについては別の機会にゆっくりと説明したり、商品を見たりして学習した方がよかったと反省している。

12 限目 開発途上国で活動する人を探そう(1)ベトナムで活動する人々

ねらい：ベトナムで活動している人の様子から様々な支援の方法があることを知る

まず、貧困が引き起こす問題を「教育（学校）」、「食糧」、「健康」、「くらし（インフラ）」、「しごと」、「その他」に整理した。そして、「それらの分野で、どんな人がどんな支援をしているのかを考えていく」という学習の見通しをもたせた。

ベトナム研修では、青年海外協力隊員や ODA の事業で活動している方に会った。その方たちを紹介しながら、どんな支援をしている人なのかを考える活動を行った。

〈紹介した人〉*活動内容については、児童にわかりやすく簡単にしたり言い換えたりした

- ① Tさん（青年海外協力隊員）－農業の技術指導
- ② Gさん（青年海外協力隊員）－リハビリ
- ③ Dさん（看護師）－病院の制度を作る
- ④ Fさん（大阪市役所の人）－ビンフン下水処理場
- ⑤ 建設会社の人たち－空港や橋を作る
- ⑥ 民間企業－蚊取り線香や殺虫剤の会社

紹介した方の写真 どんな支援をしているのか、予想できるような写真を選んだ。



① Tさん（青年海外協力隊員）



② Gさん（青年海外協力隊員）



④ Fさん（大阪市役所職員）

その他、どんな団体があるのか（ODA、NGO、国際連合、企業）、社会科教科書を使って確認した。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・いろいろな人たちがベトナムの人たちを助けてあげてすごいと思ったし、ベトナムであんなにがんばれるのがすごいと思う。
- ・文化やしていること、考え方もちがうと思うから、日本でしていることとかなかなか理解してもらえなくて大変だったと思う。
- ・ベトナムで日本の技術が使われていてすごいと思いました。これからもっと日本の技術が広まって、ベトナムが便利でいい国になるといいと思いました。
- ・日本にしかできないこと、先進国としてのよさや技術を生かしていてすごいことだと思います。日本人たちが世界に目を向けているから、こういうことが出来ると思います。
- ・どうしてベトナムに行こうと思ったのか知りたい。
- ・貧困の人を助けたいと思ったのはいつなのかな？
- ・どうしてベトナムでがんばれるんだろう。

〈所感〉

ベトナムで出会った人の活動や様子について、写真を見せながら説明した。ベトナム調べを通して、ベトナムの生活の様子を知り、日本と同じ点や違うところがたくさんあることを理解していた児童は、まず、それぞれの人たちが生活や文化の違いに困っただろうなと想像していた。そして、外国で支援活動をしようと思ったのか、知りたいと思った児童がたくさんいた。

活動の内容を話すときに、私自身がすごいなと感じたことを話したので、児童の感想にも「日本の技術はすごい」というものがたくさん出たのだと思う。直接話を聞くのではなく、間接的に話を聞くことは、本人の気持ちや考えではなく話をする人の気持ちが入ってしまうので、良い面悪い面があり配慮が必要だと思う。

13 限目 開発途上国で活動する人を探そう(2)元青年海外協力隊・Iさん

ねらい：開発途上国で活動している人の思いや願いを知る

青年海外協力隊の活動、隊員の思いを知るために、JICA 中国より元青年海外協力隊 I さんのお話を聞いた。

〈お話の内容〉

○派遣先の国について

I さんは、トンガに日本語教師として派遣された。

トンガの話では、トンガは海に囲まれていて琵琶湖と同じぐらいの大きさ、トンガの人は大きくガリバー旅行記の巨人の国のモデルになった、ODA で建設された学校の近くにニッポンの名前がついた地区がある、トンガの人は「ありがとう」とすぐに言ってくれる、学校は落第があるなどの話に子どもたちは関心を示していた。何でもシェアする文化をもっていて、小さい子でも分け合っているという良い点もあれば、落第しないように答えを教えあうという困ったこともあるという話など、日本との文化の違いも知ることができた。



トンガで活動された I さん

また、トンガの隣国であるツバルは、環境の変化によって島が沈んでしまう危機にあるという話を聞き、貧困問題だけでなく環境問題も自分たちと深く関わっていることがわかった。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・途上国は世界中の 80% もあって、とても多いと思った。
- ・やっぱり外国と日本では文化や考え方、人との接し方がちがうんだな。
- ・机や教科書がない中で、勉強をしたり教えたりしていてすごいな。工夫してちゃんと授業をしているということがすごいな。
- ・日本という名前を使っている地区があることを知って、びっくりした。
- ・トンガでは歯磨きをしないことがあたり前だったり、その国によってもいろいろ違うことがわかりました。ベトナム調べみたいにトンガ調べをして、もっとその国のことを知りたいです。
- ・ツバルという国では、島がしずんでしまうと聞いてびっくりした。

○青年海外協力隊の仕事について

ボランティアは「自分で手を挙げてやりますとってする」、「相手のためになる」そして「自分のためにもなる」ということを教えてもらった。また、魚釣り名人がおなかをすかした人に出会ったらどうするかという I さんの問いかけに対し、「魚をとってあげる」、「魚の釣り方を教えてあげる」など子どもたちは考えた。このことから、青年海外協力隊はものをあげるのではなく、技術を教えて現地の人が自分で生活できるようにする仕事をしていることがわかった。120 種もの職種があることを知って驚いていた。

〈児童の反応〉～学習のふりかえりより～

- ・青年海外協力隊は、120 個もの活動をしているので、自分にもできそうな活動があるんじゃないかと思った。
- ・青年海外協力隊は、漁業とか教師とかかと思っていたら、編み物や運動とかも教えていてびっくりした。

- ・行く前にも訓練をして、現地に行ってから大変で、思っていたよりもすごく大変だし、すごいことをやっているなと思いました。
- ・海外で活動するのに、言葉や文化のちがいが大変だけど、島の人が仲良くしてくれてよかったということがわかりました。

〈全体を通しての児童の反応〉～Iさんへのお礼の手紙より～

- ・私は教科書でしか青年海外協力隊のことを知りませんでした。でも、Iさんのお話を聞いていろいろよくわかりました。お話を聞いて、もっともっと海外に興味をもてました。
- ・トンガの人はウソをつくことや何でもシェアするとかがおどろきでした。少し悪い方にもつながっていくけど、何でもわけあうのはとてもやさしいんだなと思いました。もし、次の国に行かれるのなら、トンガのような心のやさしい国がいいですね。
- ・外国は言葉が伝わらないし、行きたいという気持ちはしなかったけど、今日の話聞いて、ちがう国の人と協力したり助け合ったりしたいなと思ったし、少し行ってみたいなと思いました。世界で活やくして、世界の人と仲良くなったり、世界のことを知ってみたいなと思いました。
- ・わたしたち6年生はボランティアなどで「お金をあげればいい」、「物をあげればいい」と言っていたけど、そうすると貧困の人はまた他の人が助けてくれると思ってしまうから、技術を教えてあげて、自分でかせいだりしてそのお金で暮らせるようにしてあげる方がいいんだなと思いました。ボランティアは120種類もあるとわかったから、大きくなったら自分の特技や教えてあげられそうなことを見つけて、できたら、世界のために協力したいなと思いました。

〈所 感〉

児童は、ベトナムで活躍する人の紹介や教科書を読んで、青年海外協力隊員というボランティア活動をしている人がいることは知っていたが、具体的な内容や活動の意味は理解していなかった。実際にIさんに来ていただいて話を聞くことで、青年海外協力隊の活動の内容を知り、支援の方法がお金や物をあげるだけでないことや技術を教えることの大きな意味を理解することができた。

何よりも世界の国々に関心をもち、異文化を理解することの大切さを知ることができたことは、とてもよかった。トンガの国や人のこと、Iさんのトンガ人との関わり方、ボランティアは「やってあげる」のではなく「相手にとっても自分にとってもためになる」という話を聞き、まずはその国の人のことをよく知り、仲良くなったり協力したりすることが大切だということをも多くの児童が感じていた。本やインターネットで調べことでは知ることのできない、実際に海外で活動した人の話からしか感じるができなかったことだと思った。

また、これまで貧困問題について考えてきたが、ツバルの話聞き、環境問題も自分たちが考えないといけない世界的な問題の一つであることがわかった。それらにも目を向け、「節電をするようにしよう」など自分にできることをすぐに考えている児童がいて、世界の問題も自分たちのこととして捉えることができるようになっていくと感じた。今後、このことを発展させて、世界の国々と協力して解決していかないといけない問題を考える学習につなげたいと考えている。

14～17 限目 世界で活躍する人々を探そう

ねらい：様々な人や組織が国際協力を行っていることを知る

ベトナム以外の国々では、他にどんな人や団体がどのような活動をしているのか調べ、まとめる活動を行った。どんな団体があるかについては、以前の学習で社会科教科書を参考にして確認している。ODA、NGO、国際連合、企業の4つのグループに分かれて、それぞれ具体的な活動や活動のねらい、活動している人たちの思いなどを本やパンフレットなどの資料を使って調べた。(1グループ2～3人。一人がひとつの活動(団体)を調べ、まとめる)

活動の内容、どうしてその活動をするのか、なぜその支援が必要なのかということだけではなく、その人の思いや願いも知ることができるよう、そこで活躍する人を取り上げて調べることにした。

〈調べた内容〉

○「ODA」グループ

- ・ ODA とは
- ・ 国際緊急援助について
- ・ シニア海外協力隊について
- ・ 二国間協力について (ベトナムのビンファン下水処理場)

青年海外協力隊については、全員が話を聞いて知っているのので、別に取り上げて、模造紙(発表用資料)の見本を作った。二国間協力では、ベトナムのビンファン下水処理場を取り上げ、私との聞き取り調査によって活動の様子やFさんの思いなどを調べた。

○「NGO」グループ

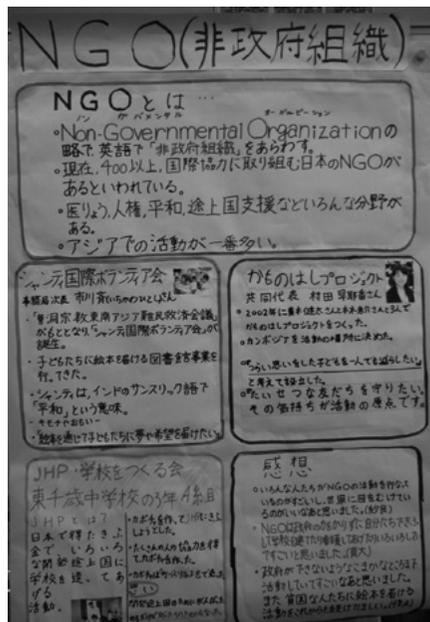
- ・ NGO とは
- ・ シャンティ国際ボランティア会(カンボジアに絵本を送る)
- ・ かものはしプロジェクト(人身売買をなくす)
- ・ JHP 学校をつくる会(中学生が協力している活動)

たくさんの NGO の活動のうち、教育や子どもの生活に関わる活動を選んで調べた。

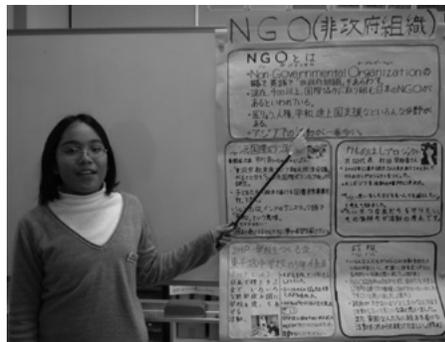
○「国際連合」グループ

- ・ 国際連合とは
- ・ 国連児童基金(ユニセフ)
- ・ 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
- ・ 世界保健機構 (WHO)
- ・ 世界食糧計画 (WFP)

ユニセフ、WHO、WFP の活動は世界の子どものための支援をしている点で、児童に身近な組織である。また、6年生は1学期より自分たちにできることとして「着なくなった子ども服を集めて難民キャンプへ送る」活動(レインボープロジェクト)に取り組んでいて、この活動が UNHCR の活動と深く関わっていることから、UNHCR を取り上げた。



一人ひとりが調べたことは、グループで1枚の模造紙のまとめた



発表の練習をしているところ

○「民間企業」グループ

- ・民間企業の CSR 活動とは
- ・日本ポリグル株式会社（水をきれいにする薬品を作り、世界の国々に提供する）
- ・王子ネピア株式会社（トイレを作ったりトイレの仕方を指導したりする）
- ・その他企業

「着なくなった子ども服を集めて難民キャンプへ送る」というレインボープロジェクトは、ユニクロの「服の力プロジェクト」に参加している活動である。そこで、ユニクロのように国際協力に取り組んでいる企業が他にもあることを調べた。

〈所 感〉

6年社会科の学習「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」（学習指導要領内容(3)）にもとづいた設定した学習である。

ODA、NGO、国際連合、民間企業の取り組みについて詳しく調べることにより、これまで自分たちが考えてきた貧困問題について、世界中の人が解決に向けて取り組んでいることを知ることができた。そして、日本人は自分たちのもっている技術を生かして支援をしていることに気づき、日本人が世界で活躍していることの素晴らしさを感じ始めていた。

調べ活動では、主に図書資料やパンフレット資料を使った。児童にとって読みやすくまとめられたものだったが、新しい情報は少ない。インターネットでも子ども用にわかりやすくまとめられているサイトもあるので、活用できるとよかった。

この後、調べてまとめたことを発表し合い、それぞれの活動について知るとともに、日本の技術が生かされていることなどの日本のよさを話し合ったり、自分にできることを考えて意見文にしたりして、まとめとする。

全体を通しての成果と課題

〈国際理解教育の取り組みについて〉

本校の6年総合的な学習の時間では『国際理解教育』と『平和学習』を扱っており、社会科と関連させながら学習を進めている。『国際理解教育』では、4月に『世界一大きな授業』（教育協力NGOネットワークJNNE主催）に参加し、世界には学校に通えない子どもたちがたくさんいることや教育を受けられないために起こる問題について知ったり考えたりした。このことをきっかけに、1学期から『レインボーチャレンジ』として世界の現状を知ることや自分たちができることとして、着なくなった子ども服を集めて難民キャンプへ送る『レインボープロジェクト』の活動を進めてきた。「開発途上国のことを知り、その問題について理解し、解決のために行動する」という活動を行ってきたと言える。しかし、開発途上国についての理解が十分でないまま、『レインボープロジェクト』に取り組んでいたため、古着を集めることが中心の学習になってしまっていた。

そこで、夏のベトナム研修を機に、もう一度学習計画を立て直し、世界の現状を知るために、ベトナムの様子や開発途上国と日本とのつながりについて調べたり、開発途上国の貧困問題を考えたりする活動を取り入れた。また、総合的な学習の時間だけでなく、社会科「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き（学習指導要領内容(3)）」と関連させて単元を構成した。

長期間に渡る学習であったけれども、「貧困の輪を作る→どうやったら貧困から抜け出せるのだろうか⇒支援の方法を考える→他にはないのか⇒ベトナムでの支援活動を紹介する」というように、学習したことに対する児童の感想や疑問を次への学習につなげて展開していくことができ、学習意欲を継続したまま取り組むことができた。また、ベトナム調べや元青年海外協力隊の話聞くこと、開発途上国と自分たちの生活とのつながりを考えるという活動を取り入れたことで、世界的

な問題を自分のこととして捉えて、自分にできることは何かを考えたり今からすぐに実行できることをしようという気持ちをもったりする児童が増えた。

学習計画を見直すことがなければ、開発途上国に目を向けることも世界で起こっている問題に気づくこともなく、「服を集めて送ることができた」で終わってしまっていたと思う。1学期の取り組みも振り返りながら学習計画を立て直すことができたことは、大きな成果だった。一方、長期間に渡る学習であるため、盛りだくさんの内容となってしまった。年間を見通して、社会科との関連も考えながら、学習を構成しなければならない。また、扱った資料なども多く、児童にとって負担になった面もある。どのような課題（内容）に取り組ませるのか、教材や資料にどのようなものを使ったらいのか、精選することが必要だと感じた。

成果

- 総合的な学習の時間『国際理解教育』の学習計画を見直し、社会科と関連させて横断的に学習を進めることができた
- 開発途上国の問題（貧困問題）を取り上げて考えることで、世界的な問題を自分のこととして捉え、身近なことから行動しようという気持ちを育てることができた

課題

- 1年間を見通した学習計画の見直し
- 学習課題（学習内容）や資料の精選

〈実践の目的について〉

- ベトナムのことを知る活動を通して、異文化を感じ、世界に目を向ける

ベトナムクイズやベトナム調べをきっかけとして、ベトナムのことに関心をもつ児童が増えた。日本と似ていることが多くベトナムに対して親近感をもつことができたり、違う文化や考え方があることを知って協力して活動するにはお互いを理解しあわないといけないことを知ったりすることができた。ベトナムを知る活動をしたことによって、ベトナムで活動する人々の紹介をしたときには、「違う文化の中で生活するのは大変だろう」、「考え方が違う中で、理解してもらっていてすごい」という感想が出てきたのだと思う。

また、元青年海外協力隊員Iさんの話でも、まずトンガという国のことや人々のことを知り、トンガに親近感をもつことができたので、その後の青年海外協力隊の活動のことやツバルの環境問題についても、自分のこととして捉えて考えることができた。

安来市の小さな町に暮らす子どもたちは、普段、外国の人と接する機会は多くなく、この学習を通して世界に目を向けてほしいと思っていた。学習の前に「言葉が話せないから外国に行きたくない」と思っていた子どもたちが、世界の国々に関心を持ち、「いろいろな国のことを調べてみたい」「将来、海外に旅行に行きたい」「外国の人と友だちになりたい」と話すようになり、とてもうれしく感じた。

- ベトナムと日本が文化や経済などの面で関わりが深いことを通して、開発途上国と日本とのつながりに気づき、開発途上国の貧困問題について考える

私自身、ベトナムと日本が文化や経済で深く関わっていることを今回の研修で初めて知った。そして、開発途上国との日本のつながりについても初めて知ることが多くあった。

子どもたちは学習を通して、ベトナムだけでなく開発途上国の国々が、自分たちの生活と深くかわりあっていること、自分たちの生活が貧困問題や環境問題の原因になっていることなどを知ることができた。そして、世界には貧困問題で苦しんでいる人がいるという現状を知っただけでなく、どうやったら貧困から抜け出せるのかを考えたり開発途上国のために活動している人のことを調べたりすることを通して、自分にできることを考えるようになった。これからも世界に目を向け、自分の生活と深くかかわっていることを思い出して、自分にできることを考えてほしい。

- ベトナムで活躍する日本人の活動を通して、国際協力や国際交流において、日本や日本人が大きな役割を果たしていることに気づくとともに、自分にできることを考えて行動しようとする

ベトナムで出会った方々は自分の仕事に誇りをもっていたり、自分が外国の人たちの役に立っていることをうれしく思っていたり、あらためて日本や日本人のよさを感じていたりしていた。多分、世界で活動している人は同じことを感じていると思う。ベトナム研修でのことを授業に生かす際には、出会った人たちの思いを子どもたちに必ず伝えたいと考えていた。そこで、ベトナムで活躍する日本人を紹介する時には、活動の内容だけでなく、それぞれの人の思いも話をした。そして、世界で活動する人や団体を調べるときにも、できるだけ活動している人を取り上げてその人の思いや願いも知るようにした。子どもたちは、日本や日本人が国際協力において大きな役割を果たしていることや日本人は素晴らしい技術をもっていることを知り、自分にも何かできるかもしれないという気持ちをもったり、今の自分にできることからしてみようと考えたりするようになった。

自分にできることを考えるだけでなく、さらに自分にできることをひとつでも行動にうつし、長く取り組むことができるような活動を考えたい。

成果

- ベトナムのことを知る活動を通して、異文化を感じ、世界に目を向けることができた
- ベトナムと日本が文化や経済などの面で関わりが深いことを通して、開発途上国と日本とのつながりに気づき、開発途上国の貧困問題について考えることができた
- ベトナムで活躍する日本人の活動を通して、国際協力や国際交流において、日本や日本人が大きな役割を果たしていることに気づくとともに、自分にできることを考えて行動しようとする児童が増えた。

課題

- 貧困問題だけでなく、環境問題などについても考えさせたい。
- 自分にできることを実際に行動にうつし、長く取り組めるような活動を取り入れる。

ワークショップ、調べ学習・・・、どの時間も子どもたちは新しい発見があり、さらに知りたい、もっとやりたいという意欲が見られた。ベトナム研修でぜひ子どもたちに伝えたいと考えていたこと「世界に目を向けることの大切さ」や「日本人のよさや素晴らしさ」を子どもたちはしっかりと感じる事ができたと思う。今回の授業をきっかけにして、世界の問題に目を向け、「世界の人のために自分にもできることがあるかもしれない」という気持ちを将来にわたって長く持ち続けて欲しい。

参考資料

【書籍】

- ・アジア保健研修財団「アジアのこども」編集委員会（1995）「アジアのこども」明石書店
- ・国際協力機構中部国際センター（2006）
「教室から地球へ～開発教育・国際理解教育虎の巻～」東信堂
- ・池田香代子（2001）「世界がもし100人の村だったら」（マガジンハウス）
- ・JICA 教材作成実行委員会（2013）「国際理解教育実践資料集」（JICA 地球ひろば）
- ・島根県版日本と地域と途上国相互依存度調査「どうなってるの？世界と島根県」（JICA 中国）
- ・JICA パンフレット「JICA の仕事」
- ・文部科学省（平成20年）「学習指導要領解説社会編」（教育芸術社）

【映像資料】

- ・DVD 教材「おいしいチョコレートの真実」（特定非営利活動法人 ACE）
- ・DVD「マシュー君のお話 フェアトレードってなあに」（フェアトレード・ラベル・ジャパン）

【インターネット】

- ・「JICA 国際協力機構」 <http://www.jica.go.jp/>
- ・「世界一大きな授業 2013」 <http://www.jnne.org/gce2013/>

児童の調べ学習に使用した資料

【書籍】

- ・ポプラディア（ポプラ社）
- ・きっずジャポニカ（小学館）
- ・きみにもできる国際交流⑥ベトナム（偕成社）
- ・島根県版日本と地域と途上国相互依存度調査「どうなってるの？世界と島根県」（JICA 中国）
- ・絵本世界の食事13 ベトナムのごはん（農文協）
- ・元気が出る！世界の朝ごはん①東・東南アジア（日本図書センター）
- ・ベトナムのガイドブック（各出版社）
- ・国際協力のお仕事 世界で活躍する日本人1～6（学研）
- ・21世紀をつくる国際組織じてん2・3・4（岩崎書店）
- ・調べてみよう世界のために働く国際機関（ほるぷ出版）
- ・できるぞ！NGO活動 学校をつくる教育問題（ほるぷ出版）
- ・世界にはばたく日本力 日本の国際協力（ほるぷ出版）
- ・この人はなぜ？いま、日本からできること（UNHCR 駐日事務所）
- ・国際理解教育実践資料集（JICA 地球ひろば）
- ・JICA's world 2013年3月号（JICA 広報誌）

【資料1】ワークシート

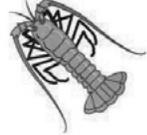
____月 ____日 ____曜日

名前 (_____)

世界とつながるわたしたちの生活

開発途上国とわたしたちの生活について考えよう

☆下にある 18 品目は、私たち日本人におなじみのものばかりです。この中から、アフリカとつながりがあるものを選びましょう。

たこ焼き 	携帯電話 	蚊取り線香 	チョコレート (カカオ) 
ゴマ 	電気 	イセエビ 	ダイヤの指輪 
スシ(マグロ) 	バラの花 	ガンリン 	バニラアイス 
桃のジャム 	化粧品 	うなぎ 	ゲーム機 
プラチナの指輪 	コーヒー 		

☆上で選んだものが、どのようにアフリカとつながっているのかを考えてみましょう。

参加型手法を取り入れた

授業実践例

中学・高等学校編

中学・高等学校編

日本から世界へ

岡山市立西大寺中学校 担当教科：英語 上岡 沙織

実践教科：総合・道徳 対象学年：中学校1年生 対象人数：198名

■実践の目的

- ・外国の風土や独自の文化に触れることで、外国に対して関心を持たせる
- ・青年海外協力隊員のベトナムでの活動を通して、国際貢献に対する理解を深めさせる
- ・開発途上国の現状を知り、自分たちの生活を見つめなおす機会を作る
- ・外国の価値観に触れることで様々な考え方を受け入れる姿勢を持つ

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	世界に目を向けよう 【総合・学年】 世界の国々に興味を持つ	・「世界がもし100人の村だったら（フジテレビ）」を見せる ・時間の最後に、文化発表会で、民族衣装ファッションショーを企画していることを告げ、中心として動く有志を募る	・DVD ・ワークシート
2	ベトナムの子ども達への贈り物を考えよう 【学活・学級】 日本の文化を改めて考える	・夏にベトナムの小中学校へ訪問することを告げ、プレゼントを考えさせる ・手作りで、日本らしさが伝わり、ベトナムの子どもたちが喜ぶものは何かを考えさせる	・画用紙、半紙 ・はさみ、のり ・絵の具、墨汁、筆 ・千代紙
3	民族衣装ファッションショーを考えよう 【放課後や夏休み中・学年】 ファッションショーを通して、世界の国々に興味を持つ また、民族衣装や民族楽器などを通じ、異文化に触れる	・有志が集まった生徒(約45名)を企画係、ステージ係、映像係、展示係に分ける ・企画係は、ステージ全体の流れや、内容を考える ・映像係は、企画をもとに、パソコンを使い、前後の映像を作り、その映像に使う画像をデジカメで撮る ・展示係は、ステージの大道具を作り、本番では裏方を担当する ・ステージ係は、ステージ上でショーやダンスなどを担当する	・ワークシート ・パソコン ・デジカメ
4	海外での仕事について考えよう JICA出前講座 【総合・学年】	・JICA出前講座で、元青年海外協力隊のKさんをお招きし、お話を伺う ・派遣先のグアテマラの話や、医療・看護の話、外国で働くことの難しさなどを学ぶ ・司会・進行は企画係が担当する	・感想用ワークシート

5	「あたりまえ」ではなく、「ありがたい」こと 食の大切さに気付く 【道徳・学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教材の「あたりまえ」ではなく「ありがたい」ことを読む ・私たちが「あたりまえ」だと思ってありがたみを忘れていたことを改めて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 ・ワークシート
6・7	世界の国調べをしよう 【総合・学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・班で協力し、調べ学習をする国を20カ国の中から決める ・夏休み中に各自で調べ学習をしておき、その資料をもとに、各班で壁新聞としてまとめる ・壁新聞とは別に、発表用原稿を各自で考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・模造紙 ・20カ国に関する書籍
8・9	国調べ発表会をしよう クラス発表会 【総合・学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・壁新聞と原稿をもとに、各クラスで発表する ・発表時間を各班8分程度とし、聞いている生徒は、「内容」「工夫」「発表態度（表情・声の大きさ・時間）」「壁新聞」の観点で評価をする ・学年発表会に向けてクラス代表2班を決める ・進行は学級委員長が行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁新聞 ・発表用原稿 ・ストップウォッチ
10	民族衣装ファッションショー 「New World」 ～日本から世界へ～ 【文化発表会】	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館でのステージ発表で、1年生の出し物として民族衣装ファッションショーをする ・司会や運営（音響・ライトなど）も全て生徒達で行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・台本 ・民族衣装・楽器 ・音響設備 ・パソコン/プロジェクター
11	国調べ学年発表会 【総合・学年】	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス代表の班が、体育館で学年発表をする ・司会進行等は、企画係が行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁新聞
12	上岡のベトナム日記 【総合・学年】 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使い、ベトナムの文化を考えさせる ・現地で働く青年海外協力隊の方々の紹介をし、海外で働くことに興味を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・ムービーメーカー ・パソコン
13	セネガルの「ファールさん」のくらしに学ぼう 【道徳・学級】	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊員とセネガルのファールさんとの出会いから、日本とセネガルの価値観の違いについて考える ・海外の日本にはない価値観の良さ気付くとともに、日本にも同様に、他にはない良さがあるということに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・J O C A「セネガルのファールさんのくらし」 ・資料 ・ワークシート



ステージの内容を考える企画係



ダンスの練習風景

企画2：文化発表会のファッションショーの流れを考えよう。

起 Ako	必死で上段に朱利ナを 置く Ako
承 初夜	初夜で上段の華に 必死で上段の人たちを 置く
転	必死で上段の華に 上段の人たちを置く
結	おまから、必死で上段に 置くの Aiko が 〈お初〉

企画2：文化発表会のファッションショーの流れを考えよう。

起	まず必死で上段というのが世 界に何の国もあることと関係する。
承	この世界は上段に上段の華に 上段の華に上段の華に上段の華に 上段の華に上段の華に上段の華に 上段の華に上段の華に上段の華に
転	日本は上段の華に上段の華に 上段の華に上段の華に上段の華に
結	必死で上段の華に上段の華に 上段の華に上段の華に上段の華に 上段の華に上段の華に上段の華に

企画の原案

文化祭アンケート

この前のビデオを見てもしもあなたが
この世界を変えられたら、どん
な世界にしたいですか？
理由もあれば書いてください。

みんな毎日ごはんを食べて世界にしたい

理由
世界にはごはんを食べられない子供が
たくさんいる。

ご協力ありがとうございました。

※この情報は文化祭で使わせていただきます。

文化祭アンケート

この前のビデオを見てもしもあなたが
この世界を変えられたら、どん
な世界にしたいですか？
理由もあれば書いてください。

みんなが平和で
戦争のない世界！

理由
戦争でみんなの命がなくなってしまうので
みんなが平和で戦争のない
世界にしたいです。

ご協力ありがとうございました。

※この情報は文化祭で使わせていただきます。

エンドロールに使用した、1年生生徒全員へのアンケート

〈所 感〉

有志を募る前は、行事ごとなどに消極的な生徒が多いように感じていた。最初の方は、練習にもあまり積極的ではなかったが、文化発表会が近付くにつれ、生徒たちも熱を入れて練習に打ち込むようになった。また、途中から、参加したいという生徒も増えた。

国調べや、文化発表会に向けての練習が始まってから、生徒たちが海外に関する書物を読んでいるところをよく見るようになった。「世界に目を向ける」というねらいに関しては、とても良いきっかけになっていたように思う。

また、民族衣装を着てみたり、民族楽器に触れたりすることで、異文化に触れることができたことも生徒によって良い経験であったと感じる。

5 限目 「あたりまえ」ではなく「ありがたい」こと

ねらい：・世界の国々の食料事情を知る

・先進国の食べ残しの多さに気付く

衣食住がある程度保障され、物質的に豊かな私たち日本人は、その物質的な豊かさに気付かず、「あたりまえ」と思ってしまいがちである。生徒たちの様子を見ていても、高価な文具をたくさん持ち、大雑把に使い、壊れたらすぐ捨てる、友達とすぐ交換するというような、物を大切にできない様子が見受けられる。また、給食では、嫌いなものは、平気で残し、残飯がクラスで残っても、誰も気にとめていない。そこで、この「あたりまえ」ではなく「ありがたいこと」という教材を使い、食のありがたみ、また日々の生活を支えてくれている人の存在に気付かせた。

	学習活動	教師の支援・生徒の反応	留意点
1	今の自分の生活の中で「あたりまえだ」と思っていることについて確認する	1. 今の生活の中で、あたりまえだと思っていることを聞く【全体】 ・布団で寝る ・食事を3度食べる	・板書 ・ワークシート
2	資料「あたりまえ」ではなく「ありがたいこと」を読んで話し合う	1. 本文を読ませ、心に残った文章に線を引かせる 2. 「大人になるまで生きたい」「日本人になりたい」 どうしてそう思うのか、考えさせる 【個人⇒班】	・「10人に2人しかない豊かな国に暮らす人々が、世界の食べ物の70%近くを食べてしまう、残りの30%を、10人に8
		・長生きをしたいが食べ物が少ない ・風邪や下痢などの小さな病気で死んでしまう ・家族と一緒に暮らしたい 3. 「あたりまえ」と思っているが、実際には「ありがたい」ことを考えさせる 【個人⇒班】 ・食事を3度食べる ・布団で寝る ・学校に通う	人の貧しい国々の人々が分け合っている」という部分は、実際に実物を見せ、世界の不平等な食料の分け方を実感させる

3	今までの自分をふり返り、できていたこと、これからどんなことができそうかを考える	1. 今までの自分の「あたりまえ」の生活を支えてくれていたのはどんな人たちかを考える 2. 今までの接し方を見直し、今後の接し方を考える【個人⇒全体】	・家族のありがたさ、学校へ行けることのありがたさ、給食のありがたさに気付くようにする
4	本次のまとめをする	1. 本次のまとめをし、今まで見過ごしてきた「ありがたさ」と感謝の気持ちを高める	・特に、給食に焦点を当て、食料の大切さに気付かせる

〈生徒の反応〉生徒の感想より

- ・今まで、あたりまえだと思っていた衣食住がありがたいことだとわかった。
- ・給食を感謝して残さず食べたいと思う。世界には、食べたくても食べられない子どもがいることがわかった。
- ・当たり前だと思っていたが、寝るところや、ご飯を用意してくれる母親に感謝したい。
- ・貧しい国の子どもたちの夢が「日本人になりたい」という夢なのは、驚いた。日本であたりまえのことは、貧しい国ではとてもぜいたくなことだとわかったし、あたりまえだと思わずに、給食なども残さず大切に食べたいと思った。

〈所感〉

食育と兼ね合わせて行った授業である。本校は、給食の残量は少ない方で、残量調査の期間は、全学年、全クラスほぼ残量を0にすることができている。しかし、生徒たちの好き嫌いはあり、生徒によっては、苦手なものは全く食べずに残すこともある。今回の授業が、生徒の給食の食べ方に良い影響を与えることを期待している。実際に、授業の直後には、生徒たちも食べ残しをしないことを意識していた様子である。

しかし、時間とともに確実に意識は薄れている。開発途上国には食料難に苦しむ子どもがたくさんいる、ということは理解できているが、それを自分たちの問題として捉えさせることは難しいと感じた。大人の私たちもそうであるので、子どもは尚更であろう。授業だけでなく、機会を見つけては、再度食料のありがたみ、大切さを伝えていきたいと思う。そのことで、食料を粗末にすることをためらう姿勢を、1人でも多くの生徒が持つきっかけになれば良いと期待している。

6・7 限目 世界の国調べをしよう

ねらい：世界の国々の調べ学習を通して、主体的に世界を知る

有志だけでなく、文化発表会に、学年全員が関わっているという意識を持たせたかったので、「世界がもし100人の村だったら 国調べ」という題材で、各クラス、班ごとに外国の調べ学習をさせた。国は、主に開発途上国や、あまり名前を聞かない国を中心に20カ国（タイ、マレーシア、インドネシア、パプアニューギニア、中国、モンゴル、ベトナム、ブータン、シリア、アフガニスタン、メキシコ、グアテマラ、エルサルバドル、ペルー、エジプト、シエラレオネ、エチオピア、ガーナ、ケニア、マラウイ）をリストアップし、生徒たちに選ばせた。

夏休み中の課題として、レポートを提出させた。事前に総合の時間で、調べる項目を班員で振り分け、できるだけ多くの情報を得られるように話し合わせた。

国リストの20カ国は、民族衣装ファッションショーに使い、壁新聞は文化発表会展示の部に出展した。



課題をすり合わせて
新聞の内容を考える



完成した壁新聞

〈生徒の反応〉生徒の感想より

- ・たくさんの情報が書けて、わかりやすい新聞ができたので良かった。
- ・インターネットや本で調べたりするのは大だったが、班で協力して良い新聞ができた。

〈所 感〉

自分達で調べたことをまとめていく主体的な活動だったので、どの生徒も積極的に取り組むことができていた。図書館で本を借りたり、インターネットを調べたり、各々工夫して壁新聞を作ることができていた。

また、調べてくる項目を事前に振り分けておいたので、班の全員の情報を集めると、なかなかの情報量になっていた。新聞にまとめて行く中で、どの情報を使うか、また、どのように深めるかなどを班全員で話し合うことができていた。教員側が、情報を伝えていくのも良いが、調べ学習を通して、自分達で主体的に学んでいくことは、「興味を持つ」という点では、良い手段だと思われる。

8・9 限目 国調べ発表会をしよう

ねらい：・発表会を通して、自分が調べてきた国の情報を工夫して伝える

- ・他の班の発表を聞くことで、たくさんの国の情報に触れる

世界の国調べを通して班で作った壁新聞を使い、国調べ発表会を行った。発表時間は質疑応答を含めて8分程度とした。発表原稿を作る際は、聞いてもらう工夫をするよう声をかけた。生徒たちは、クイズを出題したり、写真を見せたりしながら、楽しそうに発表をしていた。

聞いている時は、ワークシートで、発表している班の評価をさせた。

〈生徒の反応〉生徒の感想より

- ・調べてきたことを、上手に発表できるようたくさん練習した。前を向いて発表できたので良かった。
- ・自分たちの発表や、他の班の発表を通して、たくさんの国のことが知れて良かった。
- ・どの班も具体的に調べてきていたので、今まで知らなかったことがたくさんわかった。
- ・クイズを出題したり、大きな声で発表したりするように努力できた。
- ・新聞に書きこめなかった細かい情報も、発表会では伝わったので、とてもわかりやすかった。



発表の様子



発表の様子

〈所感〉

発表会では、自分たちで調べたことがどのようにすれば聞き手に伝わりやすいか、どの班も工夫できていた。クイズ形式で出題したり、写真を別に持ってきたりする班が多かった。また、聞いている生徒たちも、他の班の発表に興味を持って聞いていた。自分たちが調べていない国の情報を、積極的に知ろうとしている様子が見られた。同時にたくさんの国の情報を知ることができるので、良い機会になったと思う。

10 限目 民族衣装ファッションショー 〈New World〉

- ねらい：・様々な国の民族衣装や民族楽器、民族舞踊を通して海外に目を向ける
 ・「世界がもし 100 人の村だったら」と関連付け、
 特に開発途上国に焦点を当て、世界の現状を考える
 ・現状を伝えるだけでなく、私たちの今の生活をふり返る機会にする

夏休み中に企画係が集まり、ファッションショーの目的や、流れを考えた。話し合った内容から、必要な準備、映像の構成なども話し合っただけで、2学期に、主に放課後の時間を使い活動を開始した。ステージ係は、ファッションショーのウォーキングの練習や、ダンス（ズンバ）の練習、映像係は、ムービーメーカーを使い、ファッションショー前後の映像を作成、展示係は、ステージ係と一緒に、舞台で使う大道具などの作成を行った。

有志だけのショーにしないため、題材などは、学年全体からアンケートを取って集約した。また、準備と併行して、学年で世界の国調べに取り組み、学年全体での一体感を作るよう意識した。

〈生徒の反応〉生徒の感想より

- ・色々な国の衣装がわかったし、1人1人の決めポーズがみんな違って、その国の雰囲気にあっているから、おもしろかった。
- ・色々な国の民族衣装を見て、その国のことを少しでも知れると、その国への興味がわくと思った。
- ・みんなが毎日遅くまで係の仕事や、踊りの練習などを頑張っていた。プログラムの中で一番印象に残った。
- ・ファッションショーを通して、世界の今の状態をきちんと伝えていて良いと思った。
- ・パフォーマンスやファッションショーで、色々なことが学べた。貧しい人がたくさんいるのに、私はおいしいものが食べられていることに感謝したい。
- ・世界には派手な民族衣装があることを知ってびっくりした。
- ・初めて大きい幕で、ダンスやファッションショーをした。練習が大変だったし、緊張もしたけど、本番で成果が出し切れて良かった。

〈所 感〉

20分という短い時間で、世界の国々について偏見なく伝えるための切り口を企画と考えることに時間を使った。最初はショーにおもしろさや派手さを重視していた子どもたちだったが、話し合いを進めていく中で、開発途上国の経済的に苦しい側面や、それでも心は豊かに育っていく子どもたちの現状を伝えていきたい、という考えを持つようになった。また、ファッションショーを実施する前は、開発途上国は「貧しく、不幸」、日本は「豊かで、幸せ」という考えを持っていた生徒達であったが、その価値観が少し変わり、「不幸」という言葉を使わなくなった。ショーを見た2年生や3年生、他学年の先生方からも、「見ていて泣きそうになった」、「感動した」という感想をもらった。

一方で、反省点は有志に参加していない生徒たちへの手立てである。有志参加者は、達成感もあり、海外のことに積極的に興味を持つようになったが、参加していない生徒は、文化発表会については、見学者のような感覚になってしまった。1年生全員の出し物という一体感を持つよう意識したつもりではあったが、もう少し手立てが増やせれば、温度差が少なかったと思われる。

〈ファッションショーの流れ〉

I. オープニング…映像で「世界がもし100人の村だったら」の内容を流す

II. ファッションショー

1. タイトルの発表 ⇒
2. アジアグループ ⇒
3. アフリカグループ ⇒
4. 民族楽器の演奏



III. ダンスショー（南米のズンバダンス）



IV. エンディング

1. エンドロール ⇒ 有志全員によるあいさつ

12 限目 上岡のベトナム日記

ねらい：・ベトナムと日本の違いに焦点を当て、多様な文化について気付かせる

- ・青年海外協力隊員の活動を紹介し、国際貢献への理解を深め、海外で働くことに関心を持たせる

この時間で、一番伝えたいと思っていたことは、海外で働く協力隊員の輝きである。私自身がベトナムで見てきた中で、最も印象に残っていたことである。昨今、本校の生徒たちは非常に内向き志向になっている。進路の選択も、近さで選ぶことが非常に多い。そんな中で、少しでも多くの生徒たちに、広い視野を持って将来について考えて欲しい、ということが、この実践の目的である。

〈内容の一部〉

前半 30 分程度、パワーポイントを使い、ベトナムの紹介をした。日本との文化的な違いが見られる部分はクイズ形式にし、焦点を当てた。

■ベトナム語の音声を流し、言語表記と比べる。

ベトナム語が、ローマ字表記であること、その理由にベトナムの歴史が大きく関わっていることを知る。

ベトナム語を聞いてみよう

ベトナム語はどれ？

1 ? ? ? ? ? ? ?

② R?t vui ?u?c g?p B?N.

3 . -dk

中国(元)の郡縣⇒ 音声は中国語に近い
19c フランスの植民地に⇒ ローマ字表記に

Quiz 1

ベトナムの写真はどれ？



A



B



C

A モー村(ムオン族)の村

ベトナム北部の山岳地帯にすむ少数民族



ベトナムは多民族国家
54の民族が住んでいる

ベトナム人の多くは Kinh 族

ムオン族は人口の約15%の少数民族



■ベトナムが、多民族国家であること、その影響で同じ国の中で違った風景が見られることを視覚的に理解させる。

Quiz 2

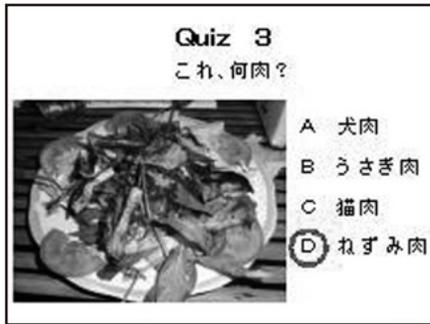
ベトナムの交通事情はかなり危険！
道路を走る()の多さに
とても驚きます！

さて、()の中に入るのは？

A 自転車 B 軽トラ C バイク

信号待ちのバイク…





いくつかクイズを出題し、文化の違いに焦点を当てた。

■続いて5分程度のスライドショーで、ベトナムの写真を紹介した。スライドの最後に、青年海外協力隊員の方々からのメッセージという形で、海外で働くことの難しさ、やりがいなど、聞いてきたことを文章にして伝えた。

〈映像の一部〉



作業療法士 Iさん

苦しいときにも
「自分は決して間違っていない」
という信念と
「いつかわかってもらえるはず」
という希望
があったから折れなかった。

2年間は短く感じました。
やってみないとわからないことがたく
さんあります。

〈所 感〉

生徒たちはクイズに積極的に参加し、楽しそうに聞いていた。反応も良く、他の文化に非常に興味を持っている様子だった。また、最後のスライドは、静かに真剣にスクリーンを見ていた。

この授業で、国際貢献や海外で働くことに興味を持つ生徒が増えたかということは定かではないが、海外が遠い存在ではない、ということは伝えられたと思う。また、海外で活躍するということも、自分たちと別の次元の話ではない、ということを確認させられたと思う。

現在、1年生では、将来の職業に焦点を当て、進路学習を行っている。1人でも多くの生徒が、世界にも目を向け、広い視野で進路を考えることができれば良いと思う。

13 限目 セネガルのファールさんの暮らしに学ぼう

ねらい：・1人のセネガル人の生き方から、外国の日本にはない良い価値観や文化を知る
・日本の外国にはない良い価値観や文化を改めて考える

※公益社団法人 青年海外協力協会作成の教材を使用し、授業を行った。



〈生徒の反応〉生徒の感想より

- ・体が不自由でも、お金をためて家族のために稼ごうとしている人には優しくしなければならないと思った。
- ・外国には、助け合う優しさがああり、良いと思った。
- ・日本では、ファールさんのような人に、お金をあげる人もいるけど、反対に、障害がある人を差別したりする人もいるのがさみしい。
- ・セネガルの人々はファールさんを変な目で見えていないことがとても良いと感心した。
- ・日本から見た他の国の良いところと、他の国から見た日本の良いところは全然違うと思った。
- ・僕は、いくら不自由だとしてもお金はあげられないと思った。でも、ジュースなどおすそわけでいいのなら、あげても良いと思った。
- ・セネガル的人是優しい良さもあり、詐欺などに合う危険もあるのではないかと思う。

〈所感〉

本次では、足の不自由なセネガル人ファールさんが、周囲の人から支援を受けて生活する様子から、日本人とセネガル人の価値観・文化の違いに気付かせることを目的とした。道徳の授業ということで、落ち着いた雰囲気ですべてを進めたかったが、アイスブレイキングで生徒たちが盛り上がり過ぎてしまい、ガサガサした雰囲気を1時間残したまま進めることになってしまった。また、生徒の関心が題材にきちんと引きつけられていなかったため、ひとつひとつの発問を深く考えられなかったように感じる。ファールさんと青年海外協力隊の出会いという題材自体は、とても良い題材だと思うので、取り組み方を再度考え直したい。感想の中に、「ファールさんがお金をもらおうとするのは間違っている」というような否定的なものがあつた。生徒たちに価値観の相違を認識させ、受け入れさせたいと思っていたが、うまく目標を達成できなかったことを実感した。

また、国調べなどの実践から、時間があいての授業であつたので、生徒たちの中で意識が薄れていたように感じた。国際理解教育の取り組みは、継続して取り組む必要があると改めて感じた。

全体を通しての成果と課題

本校に勤めていて、ずっと西大寺中学校の生徒の多くは西大寺という土地から離れないという印象を持っていた。それくらい魅力的な地域ではあるが、教員として、生徒たちに広い視野を持って進路を考えて欲しいという気持ちもある。今受け持っている中学校1年生も、例外ではなかったが、今回の授業実践を通して、確かな手ごたえを感じた。その手ごたえとは、次の4点である。

- (1) 国調べを通して、世界の国々に興味を持ったこと
 - (2) 経済的に貧しい開発途上国の子どもの生活を知り、自分たちの今の生活を見直す機会が持てたこと
 - (3) 「外国で働く」という職業の選択肢を増やしたこと
 - (4) 外国には日本にはない独自の文化や価値観、考え方があるということ、認識できたこと
- 実践を続けていく中で、生徒たちが外国に目を向け始めているということが実感できた。また、国際理解教育を通じて、外国に関する知識を増やしたことが、生徒たちの自信につながったことが感じられた。

国際理解教育は、他者を通じて自分自身のあり方を見直す、良い機会であると思う。また、本校生徒のような、内向的で内向き志向な中学生にとっては、視野を広げ進路選択の幅を広げる大変効果的な手段であると感じた。

しかしながら、実践を行う上で国際理解教育の難しさも感じた。目に見える物理的な文化は、生徒たちにも認識しやすく、興味が持ちやすい。一方で、価値観などの目に見えない観念的な文化に対しては、理解をするのが難しく、実践のアプローチも難しかった。本実践でも、道徳の時間に一度、価値観を取り上げ、授業を行ったが、価値観の違いを認識し、受容するまでは至らなかった。これからも機会を見つけ、様々な角度から、目に見えない文化を取り上げていきたいと思う。

道徳や総合の時間での、継続的な国際理解教育の取り組みは、私自身今回が初めてである。生徒たちの多くは、授業で学ぶ新たな知識に目を輝かせ、積極的に取り組んでいた。その様子から、今年度だけで実践を終えず、2年生3年生と継続して取り組みたいと思う。この取り組みが、生徒の進路選択の幅を多に広げてくれることを期待している。また、授業実践を通して、自分自身の未熟さを改めて認識した。知識の少なさもそうであるが、実践の手段が非常に少ないと感じた。今後も自己啓発に努めたい。

ベトナムでは、様々な角度から、日本とベトナムのつながりを見ることができた。その中でも、最も印象に残っているのは、現地で活躍されている青年海外協力隊員の方々の生き生きとした表情である。困難を乗り越え、現地で夢をかなえている隊員の方々は、自信に充ち溢れとても輝かしく感じられた。教育活動を通して、1人でも多くの生徒が、夢を持ち、その夢の実現に向かっていくような機会を作っていきたいと思う。

参考資料

【書籍】

- ・「「あたりまえ」ではなく「ありがたい」こと」（正進社）
- ・「魅惑のベトナム」（JICAベトナム南部事務所のかたから頂いたもの）
- ・「セネガルのフェールさんの暮らし」（公益社団法人 青年海外協力協会）
- ・「世界がもし100人の村だったら」（マガジンハウス）

【映像資料】

- ・「世界がもし100人の村だったら」（フジテレビ）

【インターネット】

- ・「ベトナム社会主義共和国－外務省」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/>

世界の中の私

鳥根県立松江南高等学校

担当教科：英語

川本 直子

実践教科：国際理解・学校行事（学園祭）対象学年：3年生・1～3年生 対象人数：21名・約150名

■実践の目的

- ①ベトナムについて知り、「グローバル」という言葉を具体的にイメージする
- ②コミュニケーションとは何か、コミュニケーションにとって大切なことは何かを知る
- ③貿易シュミレーションゲームを通して、世界の不均衡な現状を疑似体験する
- ④世界を舞台に活躍する人々について学び、グローバル社会における自らの生き方を模索する

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
0	“Message from Vietnam” (学園祭でのイベント) ・ベトナムをはじめとする世界各国について興味を喚起する ・JICAの活動について知る	(1)学園祭のイベントでベトナムについての○×クイズを行い、世界の民族衣装について紹介し、国あてクイズを行う (2)学園祭の展示として図書館にベトナムで撮影した写真や資料、物品、ムオン族の民族衣装を展示 JICAポスターの掲示及び、資料頒布 (3)ベトナム水上人形劇のDVDを放映	・民族衣装（アオザイ、ムオン族、その他各国） ・ベトナムの資料や物産 ・JICA資料 ・現地写真 ・ベトナム水上人形劇の映像
1	「ベトナムから世界へ」 ・ベトナムについての情報を共有し、知ることの大切さを伝える ・「グローバル」のイメージを言語化する	(1)ベトナム○×クイズを行い、ベトナムについてのイメージと現実を比較させる (2)グローバルとは何かブレインストーミングさせ、グループで意見を集約し、クラスで意見を共有する	・パワーポイント ・ベトナムの現地通貨 ・ベトナムの蓮茶
2	「コミュニケーションについて考えよう」 ・コミュニケーションとは何かを知り、コミュニケーションを図る上で大切なことは何かを考える	(1)無言で誕生日順に並ぶ『バースデーラインアップ』という活動を行い、コミュニケーションとは何かを考える (2)グループの中でお互いによいところを探し、コミュニケーションにとって大切なことは何かを学ぶ (3)『みんなでバカンス』という活動で、意見の相違を乗り越え、相互理解につなげる方法を学ぶ	・ワークシート

3 4	『貿易ゲーム』で世界を知ろう ・世界の不均衡な現状を疑似体験する ・相互理解、相互協力の重要性を知る	(1)国際協力出前講座として国際協力推進員の方をお招きし、『貿易ゲーム』を行う (2)与えられた条件が全く異なる国でお金をもうけるゲームを通し、世界の不均衡な現状を実感し、相互協力関係の重要性に気づく	・貿易ゲームセット ・振り返りシート
5	「ベトナムから世界へ～世界の中の私～」 ・世界の不均衡とそれを是正することの必要性を知る ・グローバル社会でどう生きるかを考える	(1)シュミレーションゲーム「世界の富の不均衡」を行い、世界の現状を再確認する (2)国際協力の必要性を知る (3)ベトナムなど海外で活躍している人々の生き方から、グローバル社会の概念を見つめ直し、自分のこれからの生き方を考える	・パワーポイント ・飴 ・JICA 資料 ・振り返りシート ・新聞記事

■この授業に注目！

0 時限目 Message from Vietnam

ねらい：ベトナムやその他の発展途上国について知る

高校生はこれまでの学習の中で、どの程度世界について知識があるのか私にとっては未知数であった。私の担当する教科、英語の授業で取り上げられる国は多くは英語圏の先進国であり、その他の発展途上国などについては社会科や地歴・公民で学習する内容から得られる情報に限られているのが現状ではないだろうかと考えた。そこで、私の訪れたベトナムをはじめ、生徒にとって「珍しい国々」についても興味を持ってもらうために、学園祭でイベントを行った。また、ベトナムでの研修報告と文化紹介、JICA の活動についての展示を行った。

【イベント内容】

1. ベトナム語であいさつ
2. ベトナム〇×クイズ (ESS 部の生徒にアシスタントをしてもらって進めた)
3. 民族衣装国あてクイズ



ベトナム〇×クイズの様子



民族衣装クイズの様子

【展示の様子】



展示全景



ムオン族の民族衣装



ベトナムの写真展示



ベトナムの物品展示



水上人形劇 DVD 放映



JICA 資料頒布

〈生徒の反応〉

ベトナム〇×クイズ、民族衣装国あてクイズは予想以上に生徒の反応はよく、積極的に答えてくれた。普段見られない衣装などに興味をもってくれたようであった。展示についてはどの程度の生徒が見に来てくれたかは分からなかったが、JICA 資料の中のうちわが20個あったものがすべてなくなっていたので、来場者はその数以上であったと思われる。同僚の教員の中にもベトナムの文化や JICA の活動に興味をもち、質問などをしてくださる方もあった。

【ベトナム〇×クイズ内容】



ベトナム〇×クイズ



1	ベトナム料理「フォー」一杯の値段は日本円で約 90 円である。
2	ベトナムではパンを食べない。
3	ベトナムには 54 の民族がある。
4	ベトナムでは、バイク一台に大人 2 人、子ども 2 人乗ることができる。
5	ホーチミン市の中心地、ドンコイ通りの地価は 1 平方メートルあたり 50 万円である。
6	ベトナムの埋葬方法は土葬である。
7	今年は日越友好 50 周年である。
8	ベトナムの学校は朝 7 時に始まる。

〈所 感〉

生徒の中には将来国際協力関係の職に携わりたいという生徒や、大学でベトナム語を勉強したいという生徒が出てきたことはこのイベントの影響とも言えるかもしれない。

1 時限目 ベトナムから世界へ

ねらい：世界について知ることの大切さ、「グローバル」について考える

授業としては初めてベトナムについて学ぶ生徒に対して、異文化に触れることで価値観の相違やイメージと現実とのギャップに気づくことをねらいとして、改めてベトナム〇×クイズを行ってみました。また、最近多く耳にする「グローバル」という言葉から何を連想するかをブレンストーミングさせた。最終的には自らの行き方を考える際に「グローバル」に生きることが決して自分と無関係ではないことを考えるきっかけとしたかったからである。

【「グローバル」からイメージすることをブレンストーミング】

まず、生徒にポストイットを渡し、「グローバル」から連想することを自由に書かせた。その後、グループで同じ内容をまとめさせ、模造紙に貼って全員で共有した。

～「グローバル」のイメージ～

- | |
|--|
| ・世界 (6) ・英語 (5) ・バイキング (4) ・国際社会 (2) ・仲良し (2) ・国際
・国際問題 ・グローバル社会 ・グローバル化 ・インターネット (2)
・ネットワーク (2) ・コンピュータ ・地球温暖化 ・旅行 ・エリート |
|--|

〈生徒の反応〉

ベトナムについてのクイズは積極的に取り組んでいた。解説を聞くと意外そうな反応をする生徒もいた。特に日本との関係については、意外と知られていないというのが感じられた。ブレンストーミングという手法は意見の出しにくい生徒でも自由に書けるので、比較的短時間で多くの言葉を出すことができた。

〈所 感〉

ベトナムについてはそれほど詳しく知らない生徒たちであったが、新しい事実に興味を抱いてくれた。自分の持つイメージと現実とのギャップにも気づいてくれたことを願う。このような発見が学習意欲をさらに喚起することになれば幸いである。「グローバル」についてのブレンストーミングは興味深かった。「世界」、「英語」というのはやはりその通りという印象だが、生徒がそのイメージを「自分のこととして」考えられるようにしていく必要性を痛感した。

2 時限目 コミュニケーションについて考えよう

ねらい：コミュニケーションとは何かを知り、うまくコミュニケーションを図るためのコツを知る

私がベトナムで感じたことは、コミュニケーションはお互いが「知ろう」、「仲良くなろう」という意思がなければ成立しないということであった。ムオン族でのホームステイではまさに言葉を越えた「心」がなければコミュニケーションは成立し得なかった。私は生徒に、言語がなくてもできるコミュニケーションもあるということ、逆に言語をうまく使ってコミュニケーションを図るためには、どういうことが大切なのかということを考えさせたいと思った。それはこれからの国際社会

に生きる生徒にとって必要な力であると思い、この授業を行った。

【バースデーラインアップ】

言葉を使わないで誕生日順に並んでみようという活動。ジェスチャーを駆使して何とか1つの輪になる。

その後順番になっているかを確認し、生徒に感想を聞いた。

【よいところ探し】

バースデーラインアップの順番をそのままグループにして無作為に5～6人グループを作った。そのグループで全員に一言ずつよいところをメッセージとして書いてまわしてもらった。

【みんなでバカンス！】

1週間無料で旅行できるとしたらどこへ行きたいか、その理由を一人ひとりに考えさせる。その後、グループで一箇所だけに絞るように要求する。最後に班ごとに行きたい場所と理由を発表させた。

〈生徒の振り返りシートより〉

1. コミュニケーションを図るうえで大切なことは何だと思いますか。

- ・伝えようとする積極性 (13)
- ・自分の意志を正しく伝えること (4)
- ・相手の意志を読み取る努力 (4)
- ・ジェスチャー (4)
- ・言語 (3)
- ・顔を合わせること
- ・恥ずかしがらない
- ・笑顔

2. 今日の活動で感じたことや考えたことを書きましょう。

- ・言葉の重み、大切さ (5)
- ・言葉のないことの大変さ (5)
- ・コミュニケーションの難しさ (4)
- ・普段離さない人と話せて楽しかった (2)
- ・勇気を持ってまず話しかけることの大切さ (2)
- ・人と話して分かり合おうとする気持ちが大切だ
- ・少人数のほうが話しやすい
- ・人と意見を分かち合うことの大切さ
- ・コミュニケーションが苦手だと再認識した

〈所 感〉

生徒は私の意図したことを素直に理解し、吸収してくれたようで大変うれしく思った。コミュニケーションにおいて、積極的に相手に伝える気持ちや、相手の意志を汲み取る努力が必要であることを多くの生徒が感じ取ってくれていたことが伺える。

3・4時限目 『貿易ゲーム』で世界を知ろう

ねらい：世界の不均衡な現状を疑似体験し、よりよい世界をつくるためにどうすればいいか考える
ベトナムで感じたことは、相互協力の大切さである。日本とベトナムの友好関係がもたらす利益や効果の大きさを身をもって実感した。私は、この『貿易ゲーム』を通して、生徒がまず世界の現状を知り、自分たちにできることは何か、何を大切に生きるべきかを実感して欲しいと思った。

今回は、ゲーム中は国際語である英語を使うこととし、英語での実践的コミュニケーションの場としてもこのゲームを使うことができた。

【貿易ゲームの進め方】

(1) 生徒はA～Eまでのグループに分かれ、指定された場所に座る

- (2) グループは自分の「国」の名前を考え、その名前の由来を発表する
- (3) ウォームアップとして隣の人同士で指相撲をする
「2人でなるべくたくさん相手の親指を自分の親指でおさえ、その数を覚えておいてください」
- (4) 各グループに封筒を受け取る（「国」ごとに中身が違うが、紙やはさみが入っている）
- (5) 制限時間内にできるだけ多くの「製品」を作って、銀行に納め、お金をもうけることを目的に活動する。

先進国には市場の情報提供が時々行われ、価格変動などがある

- (6) 金額を確認する
- (7) 最後に振り返りシートを書き、本時の目的を知る
- (8) 指相撲の数を最後に確認し、競争ではなく、相互協力（Win-win）の関係の大切さを知る

ひとりが押え続けると総じて回数は減ってしまうので、互いに譲り合って指を押さえ合うようにすれば回数は飛躍的に増えることに気づく



『貿易ゲーム』の活動風景

〈『貿易ゲーム』ふりかえりシートより〉

貿易ゲーム ふりかえりシート

貿易ゲームは「貿易を切り口」に「世界の現状を疑似体験できる」シュミレーションゲームです。以下の質問に答えながら、ふりかえりの作業を進めます。指示にそって記入してください。

- 渡された「袋」には何が入っていましたか？
(例) 紙 15 枚、鉛筆 1 本、製品見本、お金 \$ 200
紙 1 枚、鉛筆 2 本、はさみ 2 本、定規 3 本、コンパス、製品見本、お金 \$ 600
- ゲームのルールは「どのグループも同じ」でしたか？
違った（情報の差があった）
- 貿易ゲームの中で使われたものが現実では何かを考えてみましょう。 ※（ ）内は正解
A. グループ（国） B. 紙（原材料） C. 道具（工場、技術） D. 紙の切れ端（ごみ）
E. クリップ（意味のない援助） F. シール（レアメタル） G. 机の配置（情報格差）
H. 値段の変更（市場価格の変動） I. 決まった製品の形（グローバル化の規格）
- グループの結果に満足していますか。選んでください（はい・まあまあ・いいえ）
それはどうしてですか？その理由を教えてください。
【はい】
 - ・お金を儲けられて良かった（4）
 - ・自分の中ではうまく貿易をすることができた
 - ・きちんとした英語を使えたり、自分たちの思い通りの取引はできなかったが、もともとあった物資に恵まれていた
 - ・シール（レアメタル）が手に入れられた
 - ・グループで協力できた

【まあまあ】

- ・結果は良くなかったが、楽しめた (3)
- ・たくさんの道具があれば結果が変わっていたと思うから。もう少し高く売れてもよかった
- ・もう少し早く必要な道具を集めていたらもっと稼げたと思う。資源が豊富だった
- ・お金は最初より減ったけど、協力して他の国からもらったものもあるから

【いいえ】

- ・各グループの最終的売上があまりに幅がありすぎ、後で自分の国の利益ばかり考えていたことに気づいた
- ・他のグループとコミュニケーションが取れなくて、生産が全く出来なかった
- ・発展できなかった

5. 実際起こった出来事で、現実世界の出来事にあてはめられることはありますか？

(ゲームの中でどんなことが起こり、どんな気持ちがしましたか？)

- ・意見の相違・詐欺・不平等・国同士の利害関係・国家間でうまくいかないことがあること
- ・貧しい国に金銭的な支援をしてあげたいのに、自分の国のことを考えると「貧しい国にお金を売る」形でしかやりとりがかなわなくて、空しい気持ちになった。助け合うことの困難さを感じた
- ・道具がしっかり揃っている国とそうでない国との差が大きかった
- ・秘密で青いシール（レアメタル）の使い方を教えてもらってお金持ちになって優越感に浸っていた
- ・ディスコミュニケーション
- ・資源はあるけど技術がない「宝の持ち腐れ」の状態、その逆も然り
- ・紙（資源）をもらってお金を渡した（輸入）
- ・道具を持っている国が、道具を高値で売り出していた
- ・モノ、お金の流れがよく分かった
- ・国の経済を動かすのは大変だと思った
- ・産業革命を一番に達成したイギリスのあとを追いたい他の国の気持ちが分かったような気がした
- ・人間の欲というものがはっきりと現れた気がする
- ・金の大量生産で金の価値が下がる
- ・道具やお金がたくさんあるところは先進国で、それらが不足していたところは発展途上国にあてはまると思った。

6. 貿易ゲームをもう一度するとすれば、どうしたいですか。またどうしたら良いと思いますか？

- ・全グループに平等に紙や道具を与えれば良いと思った (4)
- ・道具と紙の量をバランスよく使う
- ・早く必要なものを準備し、他国と協力したい (3)
- ・国どうしで話し合う場を設けるべき
- ・コミュニケーションをとる
- ・道具と価格とのバランスを考えた貿易法を考える
- ・お金や道具があるとよかった (2)
- ・資源が多いと有利だと思う
- ・自国に有利な同盟を結ぶ

〈所感〉

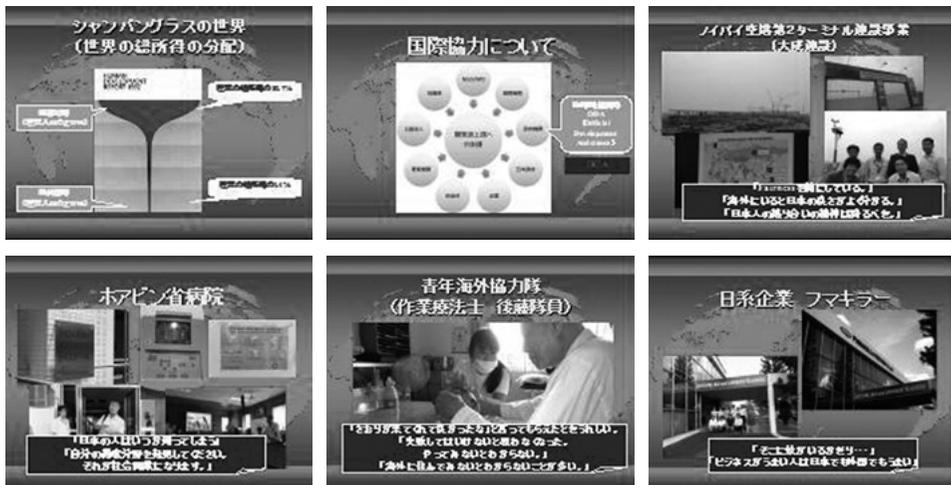
この『貿易ゲーム』を通して生徒は多くのことを学び取っていた。国家間であっても個人間であっても「利己的」であることがお互いの関係を悪化させ、成長発展を阻害することを感じて欲しいと

思った。市場経済において競争関係は必要な要素であるが、弱者を無視してはそれ以上の発展はない。相互に協力することがいかに大切に気づいてくれた生徒もいて、良かった。これからの社会に生きるグローバルな人材とは、不均衡な世界の現状を改善していこうとする意思を持って働く人であり、そういう人を増やしていくことが世界を平和と豊かさに満ちたものに発展させるのではないかと改めて思った。

5 時限目 ベトナムから世界へ ～世界の中の私～

ねらい：世界の富の不均衡とその是正の必要性を知り、グローバル社会での自らの生き方を考える
 私がベトナムで出会った日本人の方々には目的を明確に持って生き生きと仕事をしていた。そこには「生きがい」や「使命感」が感じられ、それぞれが最もふさわしい場所でその力を精一杯に果たしていることを感じた。世界で活躍する＝英語力がある、とひとくりにされそうであるが、必ずしもそうではないことを再認識した。自分の能力を最も活かせる場が日本以外にもあり、日本で培ってきた技術や知識をその場所で発揮しているに過ぎないのだということである。我々教師に求められていることは、生徒が自らの能力を発揮し、精一杯努力していくことのできる素地を築いてやることだと改めて思った。そこで、世界の現状をもう一度伝え、生徒一人ひとりに、「自分の生きかた」を考えさせたいと思い、この授業を行った。

PPT の内容（抜粋）



〈生徒の感想より〉

【グローバル社会であなただどのように生きていきたいですか？】

★英語でコミュニケーションしたい、海外へ行きたい★

- ・英語が話せるようになりたい、海外の人とコミュニケーションがとりたい (6)
- ・誰とでもコミュニケーションがとれるようにしたい (2)
- ・海外に行ってみみたい (3)
- ・海外へ行って日本や島根の良さを再発見したい
- ・様々な人と関わることによって、その国の文化に触れてみたい
- ・英語を使った職業につきたい
- ・海外に出て仕事がしたいと思った

国際理解学習授業案

島根県立松江南高等学校
英語科 川本 直子

1. 日 時 : 平成 25 年 10 月 8 日 (火) 6 時間目 (14:40~15:30)
2. 場 所 : 松江南高等学校 視聴覚教室
3. クラス : 3 年生 選択者 (21 名)
4. 授業計画 : ① ベトナムから世界へ (ベトナムクイズ、「グローバル」についてブレインストーミング)
② コミュニケーションとは? (『パースデーラインアップ』無言でコミュニケーション、『みんなでバカンス』意見の相違から合意へ)
③ 『貿易ゲーム』 (JICA 国際協力推進員さんを招いて 世界の不均衡な現状を疑似体験)
④ ベトナムから世界へ ~世界の中の私~ . . . 本時
5. 本時の目標 : 世界の現状から国際協力の必要性を知り、JICA の国際協力活動やそれに携わる人々の言葉から、自らがグローバル社会でどう生きたいのか考える。
6. 授業過程 :

過程	内 容	生徒の活動	教師の支援	備考
導入 (13分)	シュミレーションゲーム 「世界の富の不均衡」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を聞く。 ・ ゲームの説明を聞き、カードを受け取りグループに分かれる。 ・ 感想を述べる。 ・ 富の不均衡について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を説明する。 ・ カードを配り、同じ形の絵が書いてある人とグループになるよう伝える。 ・ 各グループに封筒 (数の違うアメ) を渡す。一緒に座らせ、中身を確認させる。 ・ アメの数 (△: 4 人 41 個、□: 13 人 8 個、○: 4 人半分) を数えさせ、報告させ、生徒の感想を聞く。 ・ グループに分かれて座らせ、PPT を用いて富の不均衡について説明をする。 	カード アメ PPT
展開 1 (20分)	国際協力について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際協力についての話を聞き、特に印象に残った言葉などは学習シートのメモ欄に記入しておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際協力の必要性と JICA による国際協力活動を紹介し、同時に活躍する人々からのコメントを伝えていく。 ・ 印象に残ったことをメモさせ、注意して視聴させる。 	PPT 学習シート
展開 2 (15分)	自分の生き方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、これから自分がどう生きたいかを考えて記入する。 ・ 班で意見を出し、代表者が発表する ・ グローバルに対するイメージの変化に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習シートに自分がこれからのグローバル社会でどう生きたいかを記入させる (5 分)。 ・ 班で発表し合い、全体で意見を共有する。(9 分) ・ グローバルの最初のイメージを生徒に示し、今と違うか確認させる。(1 分) 	生徒の書いたグローバルのイメージ付箋
まとめ (2分)	これまでの学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル社会に生きる上で大切にしたいことをもう一度考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベトナムと日本の関係についての新聞記事、JICA のパンフレットを配布する。 ・ 自分の良さを磨き、日本に誇りを持って世界に貢献して欲しいと伝える。 	新聞記事 JICA パンプ

【これまでの学習の感想】

★世界の現状を知ることができた★

- ・ベトナムの話や JICA の方の話を聞くことができるともためになりました。富裕層と呼ばれる国に生まれたことを初めてはじめてありがたいと感じました。自分の持っているものを最大限に発揮したり、時には人にあげたり、日本の譲り合いの精神を大切にしていきたいです。
- ・発展途上国がここまで多いとは思っていませんでした。
- ・世界の現状を変えることは難しいことだが、自分にできることをしようと思った。
- ・日本から海外に出たことがなかったので分からなかったが、まだまだ発展途上国も多いので、自分も世界のために役立てるようになったらいいと思った。
- ・この授業を通してベトナムのことだけでなく、今の世界中のことをゲームしたりして知らなかったことを知ることができて良かったと思います。
- ・今まで何回か学習してきて、私たちは恵まれすぎているなあと思いました。他の国ともっとたくさん交流できたらいいなあと思いました。活躍できる職業につきたいです。
- ・グローバルと一言で言っても、様々な問題があるなあと思いました。何時間かにわたってベトナムの話をしてもらいましたが、初めて知ることもたくさんありました。

★日本の良さを再発見した★

- ・世界の現状を見て、思ったよりも優しいところもあるのだなと感心した、日本の立位置を恥じることばかりでなく、誇ることもある箇所もあって良いのだな、と安心しました。

★世界に羽ばたきたい★

- ・日本だけでなく世界に目を向けて、コミュニケーションをとりたい。
- ・日本って狭いんだなあと思いました。国とか関係なく人のために何かできる人になりたいです。
- ・ますます海外に興味を持ちました。外国で仕事ができなくても、外国に関わる仕事につきたい。
- ・グローバル社会で活躍したいです。
- ・とても良い経験になった。世界の舞台で活躍するのも良いかなと思った。今日の授業で学んだことをこれからの自分の人生に活かしていきたいと思った。
- ・世界をもっと知りたいと思った、留学を試みたい

★誰かのために生きたい★

- ・自分の能力や得意分野を生かして人の役に立つようなことをして生きたい (3)
- ・自分のためだけではなく他人のために動けるようになりたい (2)

★広い視野を持ちたい★

- ・いろいろな視点から物事を見られるようにしたい、広い視野を持って生きたい (2)

★平等に暮らしたい★

- ・分けへだてなく、全員平等に暮らしていきたい

全体を通しての成果と課題

このベトナムでの研修を通して、私自身のものの見方、考え方のベクトルを増やすことができたと感じている。私がベトナムで実感したことは、「つながりの大切さ」だ。国と国の前に人と人である。互いに理解し合うことができれば多くの問題が解決するというを感じた。私たちは決して相手を思いやる心を忘れてはならない。そして、その上で自分の能力や長所を伸ばし、日本人としての誇りを持って活躍する人材こそが、グローバルな人材と言えるのではないだろうか。

国際言語と言われる英語を教える教員として、生徒に「英語を使える」ように教育することは当然であるが、「英語で伝えたい」何かを持った生徒を育むことこそがこれからはもっと必要ではないかと考える。そういう意味で、内容のある授業、考えさせる授業を心がけたいとの思いを強くした。

今後の課題としては、国際理解学習はひとつの教育分野として取り上げることも大切であるが、各教科の取り組みなどを含めた形で、学校教育全般にその視点を盛り込んでいくことが非常に有効

であることを感じている。グローバル社会において、その取り組みがますます求められていると私は感じている。

最後に、今回の研修に際して多くの方にお世話になったことを本当に感謝している。これからも微力ながら、国際理解教育推進のために貢献したいと思っている。

参考資料

【書籍】

- ・『魅惑のベトナム』 ホーチミン人文社会科学大学 東洋学部日本語学科
- ・『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻』 JICA 中部国際センター
- ・『新・貿易ゲーム』 開発教育協会・神奈川県国際交流協会 (2007)
- ・『ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら (第3版)』 開発教育協会 (2011)
- ・JICA リーフレット『みんなでつくる、よりよい世界。』



よりよい明日を、世界の人々と。

独立行政法人 国際協力機構 中国国際センター（JICA 中国）

〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082 <http://www.jica.go.jp/chugoku/>



<http://www.jica.go.jp/chugoku/>